

# 名城大学FD・SD活動報告書

令和6年度

名城大学

大学教育開発センター委員会

# 目 次

<b>1. はじめに</b>	
● 令和6年度のFD・SD活動を振り返って	1
大学教育開発センター委員会委員長 山田 宗男	
<b>2. 令和6年度大学教育開発センター委員会</b>	
● 委員構成	5
● 活動記録	7
<b>3. 令和6年度FD・SD活動一覧</b>	
(FD・SDフォーラム、FD・SD学習会、新任教員FD・SD研修会、 授業改善アンケート、名城大学FD・SD NEWS、名城大学教育年報、FD・SD活動報告書、 教育功労賞表彰、学外セミナー・研究集会等への派遣)	13
<b>4. 令和6年度正課外教育活動一覧</b>	
(入学前オリエンテーション、入学前学習プログラム(MECプログラム)、 名城サプリメント教育、学習サポートルーム)	17
<b>5. 令和6年度各学部・研究科等におけるFD・SD活動報告</b>	23
● 法学部・法学研究科	
● 経営学部・経営学研究科	
● 経済学部・経済学研究科	
● 理工学部・理工学研究科	
● 情報工学部	
● 農学部・農学研究科	
● 薬学部・薬学研究科	
● 都市情報学部・都市情報学研究科	
● 人間学部・人間学研究科	
● 外国語学部	
● 総合学術研究科	
● 教職センター	
<b>6. トピックス</b>	
● 第26回FD・SDフォーラム実施報告	113
● 第20回FD・SD学習会 実施報告	130
● 新任教員FD・SD研修会 実施報告	140
● 教育功労賞表彰報告	145
<b>7. 資料</b>	
● 大学教育開発センター要項	147
<b>8. おわりに</b>	
● あ と が き	149



# 1. はじめに



# 令和6年度のFD・SD活動を振り返って

大学教育開発センター委員会

委員長 山田 宗男

## FD・SD活動の意義とミッション

本学におけるFD (Faculty Development) およびSD (Staff Development) のミッションは、教育理念と目標を達成し、教育および大学運営の質を向上させ、持続可能な教育環境を構築することにあります。その実現には、教員と職員の協働が不可欠であり、特に、カリキュラムやプログラムの再構築に関する提言、さらには「学位の質保証」を目指した学修環境の整備を通じて、直接的・間接的な貢献を果たすことが重要です。

本学では、学部や組織の自主性を尊重した「ボトムアップ型」のFD・SD活動が展開されており、その独自性と柔軟性が認証評価でも高く評価されています。これらの活動は、教育の質的改善や学生の成長を支える人材育成において中心的な役割を果たしており、活動の過程を可視化し成果を全教職員で共有することで、さらなる改善に向けた実践的な活用が可能となります。具体的には、ダッシュボード分析や学修成果の可視化、外部評価の実施などを通じて、ミクロ（個々の授業）、ミドル（学科・学部単位）、マクロ（大学全体）の3つのレベルで質保証を行っています。

こうした取り組みを支える総合企画部、大学教育開発センターおよび関連部署の職員の皆様には、質保証システムの提案・整備、自己点検書の作成など多岐にわたる膨大な業務にご尽力いただいております。この場を借りて感謝申し上げます。

## 今年度の主な取り組みと成果

大学教育開発センター委員会では、授業改善アンケートや学修成果の可視化・分析、現状における問題や今後益々重要となる数理データサイエンス・DX人材育成を見据えたFD・SDフォーラム・学習会の開催、入学前教育および名城サプリメント教育の教材見直し、学習サポートルームのリモート対応、FD・SD NEWSの発刊など、各種取り組みを可能な限り行いました。以下に、今年度の取り組みについて省察します。

### 1. 授業改善アンケートの進化

授業改善アンケートに関しては、学生が授業に主体的に取り組む姿勢を振り返ることができる設問や質問内容の継続的な見直しを毎年行っています。今年度の回答率は、前期：37.1%、後期：29.3%と、学生の関心が高まりつつあることを示しています。コロナ禍でのオンライン講義の経験を踏まえ、対面講義に対する期待が向上していることが、満足度および成長実感の上昇につながっていると考えられます。

また、来年度より「学修者本位の教育」の観点から、学生が自身の学修状況を省察する設問を追加した新たなアンケート形式を導入予定です。この改善により、学生の成長と授業改善を一層促進する仕組みを構築したいと考えています。

## 2. 学修成果の可視化と外部調査

ご承知の通り、学修成果の可視化を目的に、全学部・全学科で PROG や GPS-Academic を活用した調査を試行していただいています。この取り組みは、学生個々の学修行動や成果を定量化し、教育プログラムの効果を測定することを目的としています。特に、複数年次にわたるデータを収集・分析することで、学修成果の年次推移や教育施策の効果を分析できるようになります。現段階では、PROG や GPS-Academic 等の外部団体提供による調査を活用する試行段階であり、本来は学部独自でアセスメントポリシーに基づく適正な調査・評価方法を検討いただくことが望ましいと考えています。今年度も多くの学部・学科において、複数年次を対象とした調査が実施され、学修成果の可視化に関する重要性の認知とその活用が進んでいることが伺えます。本調査の実施に関しては、引き続き実施費用の援助の準備を進めていますので、継続的な実施と活用について、ご協力の程、よろしく申し上げます。

## 3. FD・SD フォーラムと学習会

今年度の FD・SD フォーラムは、メインテーマを「学生の成長を支える授業設計」としました。立命館大学 教育開発推進機構 中島 英博 教授、本学人間学部 原田 知佳 准教授を講師としてお招きし、学生の成長を促すための授業設計について理論と実践の両面から探究し、教育実践に活かせる具体的な示唆についてご講演いただきました（1月8日（水）、Zoom ウェビナーによるオンライン開催）。当日は多くの参加があり、質疑応答も活発に行われ、如何に分析し、その結果をいかなる手段で教育に反映させるかについて、関心の高さが伺えました。お忙しい中、貴重な時間を割いて参加いただいた教職員の皆様には、心より御礼申し上げます。

また、第20回 FD・SD 学習会は、九州大学教育学部教授・基幹教育院教授・インクルージョン支援推進室長の田中 真理氏を講師としてお招きし、「高等教育における合理的配慮～アクティブ・ラーニングの進め方と成績評価の手法～」のテーマで開催しました（8月1日（木）、Zoom 開催）。障害者基本法の改正および障害者差別解消法の制定による合理的配慮の義務化に対して、如何に授業を構成し展開すればよいのか、さらには、成績評価については如何に平準化すればよいのかについて、具体例を交えてわかりやすく解説頂きました。多くの参加者から高い関心と好評を博し、活発な意見交換が行われました。

## 4. 新任教員向け研修の改善

これまで対面形式で行っていた新任教員 FD・SD 研修を見直し、全国私立大学 FD 連携フォーラム「実践的 FD プログラム」のオンデマンド教材を導入しました。このプログラムは「高等教育論」「教授学習理論」「授業設計論」「心理学」「研究者倫理」「大学管理運営」など、多岐にわたる分野をカバーしており、新任の先生方個々のスキルや興味に合った講座を受講することが可能となり、受講率も100%を確保することができました。

## 5. 名城サプリメント教育と学習支援の強化

入学前教育と名城サプリメント教育では、紙ベースの教材をオンライン化し、学習効率や質問対応の即時性を向上させました。さらに、学習サポートルームでは、対面・リモートのいずれの方法でも相談を受け付ける体制を整え、学生の多様なニーズに応じています。

## 6. FD・SD NEWSの発刊

令和7年3月にVol.19を発刊し、「学修者本位の教育の更なる推進について」を特集テーマとしました。FD・SD NEWSは、FD・SD活動や高等教育改革の最新動向を教職員間で迅速に共有するための重要な情報媒体として、引き続き活用を強化していきます。

### **今後の展望と期待**

本学のFD・SD活動は、教職員が主体的に取り組む現場感覚に基づく実践的な活動を核としています。「After コロナ」時代には、オンライン教育やハイブリッド型授業を含むICT活用を軸とした「学修者本位の教育への転換」が強く求められ、それに伴うFD・SD活動も新たな局面を迎えています。

また、数理データサイエンス・AIやDX人材の育成といった新たな社会的ニーズへの対応も急務であり、これらの領域における教育体制の再構築と強化が急務です。教職員の皆様には、引き続き、本学の教育の質向上に向けた積極的なご協力とご理解をお願い申し上げます。



## **2. 令和6年度**

# **大学教育開発センター委員会**



## 令和6年度 大学教育開発センター委員会委員

所属等	職名	氏名	職名	氏名
大学教育開発センター長	委員長・教授	山田 宗男		
学務センター長	教授	山本 雄吾		
法学部	教授	松本 俊太	准教授	仁井田 崇
経営学部	教授	堀川 新吾	准教授	相川 奈美
経済学部	教授	谷村 光浩	教授	名和 洋人
理工学部	准教授	吉川 泰晴	准教授	榎本 和城
情報工学部	准教授	宇佐見 庄五	准教授	鈴木 秀和
農学部	教授	近藤 歩	准教授	平見 慎太郎
薬学部	教授	大津 史子	准教授	黒羽子 孝太
都市情報学部	教授	稲葉 千晴	教授	柄谷 友香
人間学部	教授	岡戸 浩子	助教	高橋 香苗
外国語学部	教授	津村 文彦	助教	安達 孝信
総合学術研究科	准教授	神藤 定生		
教職センター	教授	木村 美奈子		
学務センター	事務部長	犬飼 斉		
大学教育開発センター	事務部長	鶴田 弘樹		

## 令和6年度 大学教育開発センター委員会 専門委員会 分担表

### 【教育支援専門委員会（12名）】

所属等	職名	氏名	備考
大学教育開発センター	センター長	山田 宗男	座長
法学部	准教授	仁井田 崇	
経営学部	准教授	相川 奈美	
経済学部	教授	谷村 光浩	
理工学部	准教授	榎本 和城	
情報工学部	准教授	宇佐見 庄五	
農学部	教授	近藤 歩	
薬学部	准教授	黒羽子 孝太	
都市情報学部	教授	稲葉 千晴	
人間学部	助教	高橋 香苗	
外国語学部	助教	安達 孝信	
学務センター	事務部長	犬飼 齊	

### 【FD・SD専門委員会（14名）】

所属等	職名	氏名	備考
大学教育開発センター	センター長	山田 宗男	
学務センター	センター長	山本 雄吾	
法学部	教授	松本 俊太	
経営学部	教授	堀川 新吾	
経済学部	教授	名和 洋人	
理工学部	准教授	吉川 泰晴	
情報工学部	准教授	鈴木 秀和	
農学部	准教授	平見 慎太郎	
薬学部	教授	大津 史子	座長
都市情報学部	教授	柄谷 友香	
人間学部	教授	岡戸 浩子	
外国語学部	教授	津村 文彦	
総合学術研究科	准教授	神藤 定生	
教職センター	教授	木村 美奈子	

# 令和6年度 大学教育開発センター委員会活動記録

- [第1回 令和6年4月4日(木)]

## 【はじめに】

1. 大学教育開発センター委員会について
  - (1) 令和6年度委員について
  - (2) 令和6年度開催日程について
  - (3) 令和6年度委員会欠席の際の取り扱いについて(委任状)

## 【確認事項】

1. 議事要旨(案) 令和5年度 大学教育開発センター委員会(第10回)

## 【審議事項】

1. 令和6年度副委員長の選出について
2. 令和6年度委員会活動について
  - (1) 令和6年度 MS-26戦略プラン及び事業計画(大学教育開発センター)について
  - (2) 令和6年度専門委員会の設置について
3. 院高度化費について
  - (1) 令和6年度院高度化費の使途及び予算配分額について
  - (2) 令和6年度大学院生研究助成(A)・(B)の募集要項、申請書等について
  - (3) 令和6年度大学院生研究助成(A)・(B)の審査方法・項目について
  - (4) 令和6年度大学院生研究助成(A)・(B)の審査担当及び審査スケジュールについて
  - (5) 令和6年度大学院生のプレFD企画参加支援について

## 【報告事項】

1. 令和6年度 学習サポートルーム相談員 一次募集結果について

- [第2回 令和6年5月2日(木)]

## 【確認事項】

1. 議事要旨(案) 大学教育開発センター委員会(第1回)

## 【審議事項】

1. 各学部・研究科等におけるFD・SD活動の実施について
2. 令和6年度FD・SDフォーラム/FD・SD学習会の年間予定について
3. 令和6年度前期授業改善アンケートについて
4. 令和6年度FD・SD活動の刊行物の発刊について
5. 令和6年度名城大学教育年報(教育実践報告)募集要項について
6. 令和6年度「スタディサプリ」の申し込み結果および再募集について

## 【報告事項】

1. 大学教育開発センター委員会専門委員会の分担について

2. 令和6年度大学院生研究助成(A)・(B)の審査担当について
3. 令和6年度大学院生研究助成(A)・(B)の申請件数について
4. 令和6年度学習サポートルーム相談員(二次募集)結果について

• [第3回 令和6年6月6日(木)]

**【確認事項】**

1. 議事要旨(案)大学教育開発センター委員会(第2回)

**【審議事項】**

1. 令和6年度院高度化費の用途及び予算配分額について
2. 令和6年度大学院生研究助成の採択者決定等について
3. 令和6年度「大学院生プレFD企画参加助成」募集要項について
4. 第20回FD・SD学習会の実施について

**【報告事項】**

1. 令和6年度「スタディサプリ」追加募集の申し込み結果について
2. 令和6年度入学者向け入学前オリエンテーションの報告について
3. 令和6年度入学者向けMECプログラム最終報告
4. 入学前自校教育の報告について
5. レポートの書き方講座

• [第4回 令和6年7月4日(木)]

**【確認事項】**

1. 議事要旨(案)大学教育開発センター委員会(第3回)

**【審議事項】**

1. 各学部・研究科等におけるFD・SD活動報告(中間)の作成について
2. 附属高校特別推薦入学試験合格者を対象とした企画の見直しについて

**【報告事項】**

1. 令和6年度前期授業改善アンケートの実施について
2. GPS-Academic受検者向けのオンデマンド解説動画について
3. 第20回FD・SD学習会の周知について
4. 第2回大学評価委員会「全学課題」の対応について

• [第5回 令和6年9月5日(木)]

**【確認事項】**

1. 議事要旨(案)大学教育開発センター委員会(第4回)

**【審議事項】**

1. 令和6年度後期学習サポートルームの実施について
2. 附属高校特別推薦入学試験合格者を対象とした企画の見直しについて

3. 令和7年度入学者向け入学前オリエンテーションについて（案）
4. 令和7年度入学者向け MEC プログラムについて（案）
5. 第2回大学評価委員会「全学課題」の対応について

**【報告事項】**

1. 令和6年度前期名城サプリメント教育の実績報告について
2. 令和6年度「スタディサプリ」後期募集申し込み結果および後期再募集について
3. 令和6年度前期学習サポートルームの実績報告について
4. 令和6年度前期授業改善アンケート集計結果報告について
5. 第20回 FD・SD 学習会実施報告について

• [第6回 令和6年10月3日（木）]

**【確認事項】**

1. 議事要旨（案）大学教育開発センター委員会（第5回）

**【審議事項】**

1. 令和6年度教育功労賞の募集について
2. 令和7年度学修成果の把握にむけた外部調査実施の希望調査について
3. 令和6年度後期授業改善アンケートの実施について
4. 令和7年度入学者向け入学前自校教育の実施について

**【報告事項】**

1. 令和7年度入学者向け入学前オリエンテーションの実施方法について
2. 令和6年度「スタディサプリ」後期募集申込結果について

**【その他】**

1. 第26回 FD・SD フォーラムの日程について

• [第7回 令和6年11月7日（木）]

**【確認事項】**

1. 議事要旨（案）大学教育開発センター委員会（第6回）

**【審議事項】**

1. 令和6年度 各学部・研究科等における FD・SD 活動報告の作成について
2. 授業改善アンケートの見直しについて

**【報告事項】**

1. 令和7年度学修成果の把握に係る外部調査実施の希望聴取結果について
2. 令和6年度前期授業改善アンケート結果報告
3. 令和6年度 新任教員 FD・SD 研修の実施報告

• [第8回 令和6年12月5日(木)]

【確認事項】

1. 議事要旨(案) 大学教育開発センター委員会(第7回)

【審議事項】

1. 第26回 FD・SD フォーラムの実施について

【報告事項】

1. 令和6年度後期授業改善アンケートについて
2. 令和6年度教育年報の投稿結果・原稿確認依頼及び今後のスケジュールについて
3. 令和7年度入学者向け入学前オリエンテーションについて
4. 令和7年度 MS-26戦略プラン/事業計画書について

• [第9回 令和7年1月9日(木)]

【確認事項】

1. 議事要旨(案) 大学教育開発センター委員会(第8回)

【審議事項】

1. 授業改善アンケートの見直しについて
2. 授業改善アンケートの名称変更について

【報告事項】

1. 令和7年度出前講義テーマの登録及び確認について

• [第10回 令和7年2月13日(木)]

【確認事項】

1. 議事要旨(案) 大学教育開発センター委員会(第9回)

【審議事項】

1. 授業改善アンケートの見直しに係る各学部からの再意見集約結果について

【報告事項】

1. 第26回 FD・SD フォーラム企画「学生の成長を支える授業設計」実施報告

• [第11回 令和7年3月6日(木)]

【確認事項】

1. 議事要旨(案) 大学教育開発センター委員会(第10回)

【審議事項】

1. 科目別学修振り返りアンケートについて(大学協議会報告を受けて)
2. 令和7年度名城サプリメント教育及び学習サポートルームの実施について
3. 令和7年度学習サポートルーム相談員の募集について
4. 令和7年度新任教員 FD・SD 研修会について
5. FD・SD NEWS vol.19の発刊について

**【報告事項】**

1. 令和6年度後期名城サプリメント教育の実績報告について
2. 令和6年度後期学習サポートルームの実績報告について
3. 大学教育開発センター刊行物の編集状況について
  - (1) 名城大学教育年報
  - (2) FD・SD 活動報告書
4. 令和7年度学修成果の可視化に係る外部調査の予算査定結果について
5. 令和6年度後期授業改善アンケート回答結果報告について
6. 令和6年度 自己点検・評価報告書（兼 事業報告書）について



# **3. 令和6年度 FD・SD活動一覽**



# 令和6年度 FD・SD 活動一覧

## 1. 第26回 FD・SD フォーラム

日 時：令和7年1月8日（水）13：00～14：50

開催方法：Zoom ウェビナーによるオンライン開催

テ ー マ：学生の成長を支える授業設計

基調講演テーマ：授業時間中の学習を促す授業設計

基 調 講 演 講 師：中島 英博 氏（立命館大学 教育開発推進機構 教授）

事例報告テーマ：どうしたら学生の成長を支えることができるのか 心理学の授業における  
一考察

事 例 報 告 講 師：原田 知佳 氏（人間学部 准教授）

参加者数：130人

## 2. 第20回 FD・SD 学習会

日 時：令和6年8月1日（木）11：00～12：00

開催方法：Zoom によるオンライン開催

テ ー マ：高等教育における合理的配慮～アクティブ・ラーニングの進め方と成績評価の手法～

講 師：田中 真理 氏（九州大学教育学部教授・基幹教育院教授・インクルージョン支援推進  
室長）

参加者数：124人

## 3. 新任教員 FD・SD 研修会

日 時：令和6年4月22日（月）～9月13日（金）まで

プログラム名：全国私立大学FD連携フォーラム「実践的FDプログラム」【オンデマンド】

対象講義：「FD」区分の中から一講義以上、「SD」区分の中から一講義以上を受講

受講者数：27人

## 4. 令和6年度前・後期授業改善アンケート

実施期間：前期…令和6年7月1日～令和6年7月22日

後期…令和6年12月10日～令和7年1月11日

対象科目：学部の授業を担当する専任教員及び非常勤講師について、原則1人1科目以上対象科目を持つこととし、昨年度（令和5年度）前・後期にアンケートを実施した授業科目を中心として対象科目を設定した。昨年度の対象科目がない場合は、担当授業科目のうち、最も履修者数が多いものを対象科目とした。（ただし、体育科目、オムニバス形式の科目、実験・実習・演習科目、履修者数が10名未満の科目は除く）

実施科目数：前期775科目（学生回答数：延べ24,252件）

後期788科目（学生回答数：延べ18,985件）

概要：学生の視点から授業改善の手がかりを探り、授業改善につなげることで教育の質を向上させることを目的に実施した。アンケートはLMSであるWebClass上で実施。集計結果は教員個人にフィードバックするほか、分析結果を報告書としてまとめ、学内及びホームページにて公開している。

## 5. 名城大学 FD・SD NEWS

(Vol.19) 発刊日：令和7年3月

内容：急速な少子化を踏まえた学修者本位の教育の更なる推進について

## 6. 名城大学教育年報 第19号発刊

発刊日：令和7年3月

投稿資格：名城大学の教職員（教員・事務職員）。本大学の教育に携わる他大学等の教育職員（非常勤講師）の投稿も可。退職者については退職後3年以内を目安とする。

概要：本学における教育活動の研究・実践活動を共有・蓄積し、広く教育の質の向上に資することを目的として、教育実践報告を募集、教育功労賞受賞者による特別寄稿を依頼した。投稿・寄稿された原稿は、大学教育開発センターの専門委員会委員によるチェックを経たうえで、本学ホームページ上に掲載する。教育年報の種別・内容等は次のとおりである。

区分	令和6年度件数	内容等
特別寄稿	3件	教育功労賞受賞者による特別寄稿
教育実践報告	1件	教育実践を対象とした取り組みで、本学及び他大学の学部・研究科・センター・部署の参考になる報告

## 7. 令和6年度FD・SD活動報告書発刊

発刊日：令和7年3月

概要：令和6年度の本学におけるFD・SD活動についてまとめたもの。本学ホームページ上に掲載する。

## 8. 教育功労賞表彰

概要：教育功労賞は、教職員の教育改善に対する意識を高め、組織の活性化を図り、本学の教育の質の向上に資することを目的とし、各学部及び研究科等において、教育活動及び教育改善に大きく貢献した専任教員またはグループ（事務職員を含む）に授与するもの。大学教育開発センター委員会による審査を経て、大学協議会で協議の結果、相応しい内容であることから、表彰すると共に本報告書に活動内容を記載し、周知を図ることとする。

## 【令和6年度教育功労賞受賞一覧】

### 1. 教育功労賞受賞者

該当者なし

### 2. 特別教育功労賞受賞者

該当者なし

## 9. 令和6年度学外セミナー・研究集会等への派遣

【大学教育開発センター把握分のみ掲載】

No.	開催日	企画名称	主催機関	派遣人数
1	令和6年 4月23日	認証評価実務説明会	公益財団法人 大学基準協会	6名
2	6月8・ 9日	大学教育学会第46回（2024）大会	一般社団法人 大学教育学会	1名
3	6月15日	2024年度全国私立大学 FD 連携フォーラム シンポジウム	全国私立大学 FD 連携フォーラム	4名
4	6月25日	大学コンソーシアムひょうご神戸 FD・SD セミナー	一般社団法人 大学コンソーシアムひょうご神戸	3名
5	7月11日	GPS-Academic ユーザー会	株式会社ベネッセ i-キャリア	1名
6	8月22日	MATLAB を活用した AI・データサイエンス FD セミナー	株式会社 Math Works	44名
7	8月24・ 25日	高等教育質保証学会	大学改革支援・学位授与機構	1名
8	8月31日	IR フォーラム	株式会社リアセック	2名
9	11月21・ 22日	学生募集広報デジタルマーケティングセミナー	進研アド	1名
10	11月25日	第2回東海ブロック会議	数理・データサイエンス・AI 教育 強化拠点コンソーシアム 東海ブ ロック	4名
11	令和7年 1月28日	立命館大学 第1回教学実践フォーラム	立命館大学	2名
12	2月21日	2024年度 FD 講演会	関西学院大学高等教育推進セン ター	1名
13	3月1・ 2日	2024年度 第30回 FD・SD フォーラム	大学コンソーシアム京都	2名

No.	開催日	企画名称	主催機関	派遣人数
14	3月5日	大学コンソーシアムひょうご神戸 リカレントフォーラム	一般社団法人 大学コンソーシアムひょうご神戸	1名
15	3月8日	大学教育改革フォーラム in 東海2025	大学教育改革フォーラム in 東海 2025実行委員会	2名

## **4. 令和6年度 正課外教育活動一覽**



# 令和6年度正課外教育活動一覧

## 1. 令和7年度入学者向け 入学前オリエンテーション

### (1) 概要

- ・対象者：総合型選抜、学校推薦型選抜、特別入試の合格者を対象とし、以下の方法で実施。
- ・視聴・出席人数：824名（令和7年3月11日時点）

学部名	期間	方法	出席人数
法学部	12/7～3/31	学部HP	96名
経営学部	12/7～3/31	YouTube	99名
経済学部	12/7～3/31	YouTube	142名
理工学部	12/7～3/31	YouTube	172名
農学部	12/21	対面	82名
薬学部	12/7～3/31	YouTube	45名
都市情報学部	12/7～3/31	YouTube	56名
人間学部	12/7～3/31	YouTube	55名
外国語学部	12/7～3/31	YouTube	30名
情報工学部	12/21	Zoom	47名

### (2) アンケート結果

質問1. 入学前オリエンテーションについて伺います。あなたは、主にどのような方法で視聴・参加されましたか？

	法学部	経営学部	経済学部	理工学部	農学部	薬学部	都市情報学部	人間学部	外国語学部	情報工学部
スマートフォン	90.6%	91.9%	93.7%	89.5%	0.0%	93.3%	83.9%	92.7%	93.3%	63.8%
パソコン	8.3%	6.1%	4.2%	8.1%	0.0%	6.7%	10.7%	5.5%	6.7%	27.7%
対面	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	1.0%	2.0%	2.1%	2.3%	0.0%	0.0%	5.4%	1.8%	0.0%	8.5%

質問2. 学部・学科の学びについて理解できましたか。

	法学部	経営学部	経済学部	理工学部	農学部	薬学部	都市情報学部	人間学部	外国語学部	情報工学部
強く思う	57.3%	59.6%	57.0%	51.7%	64.6%	62.2%	60.7%	56.4%	66.7%	55.3%
やや思う	41.7%	40.4%	40.8%	45.9%	35.4%	35.6%	39.3%	40.0%	33.3%	42.6%
どちらともいえない	1.0%	0.0%	2.1%	1.7%	0.0%	2.2%	0.0%	3.6%	0.0%	2.1%
あまり思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全く思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

**質問 3. 大学と高校の違いについて理解できましたか。**

	法学部	経営学部	経済学部	理工学部	農学部	薬学部	都市情報学部	人間学部	外国語学部	情報工学部
強くそう思う	74.0%	79.8%	73.2%	75.6%	76.8%	80.0%	73.2%	70.9%	83.3%	68.1%
ややそう思う	25.0%	20.2%	26.1%	24.4%	23.2%	20.0%	25.0%	29.1%	16.7%	31.9%
どちらともいえない	1.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%
あまりそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全くそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

**質問 4. 大学で学びたい学問について考えるようになりましたか。**

	法学部	経営学部	経済学部	理工学部	農学部	薬学部	都市情報学部	人間学部	外国語学部	情報工学部
強くそう思う	68.8%	67.7%	58.5%	58.7%	64.6%	71.1%	69.6%	56.4%	73.3%	63.8%
ややそう思う	30.2%	31.3%	39.4%	37.8%	35.4%	28.9%	30.4%	41.8%	26.7%	29.8%
どちらともいえない	1.0%	1.0%	2.1%	3.5%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	4.3%
あまりそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%
全くそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

**質問 5. 大学入学前に、高校までの学習の復習が必要だと感じましたか。**

	法学部	経営学部	経済学部	理工学部	農学部	薬学部	都市情報学部	人間学部	外国語学部	情報工学部
強くそう思う	65.6%	75.8%	82.4%	87.2%	82.9%	95.6%	78.6%	76.4%	76.7%	76.6%
ややそう思う	27.1%	21.2%	15.5%	11.6%	17.1%	2.2%	17.9%	20.0%	23.3%	19.1%
どちらともいえない	5.2%	3.0%	2.1%	1.2%	0.0%	2.2%	3.6%	3.6%	0.0%	4.3%
あまりそう思わない	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全くそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

**質問 6. クラブ・サークル活動に興味関心を持つことができましたか。**

	法学部	経営学部	経済学部	理工学部	農学部	薬学部	都市情報学部	人間学部	外国語学部	情報工学部
とても興味関心を持った	54.2%	55.6%	52.8%	39.5%	63.4%	33.3%	62.5%	50.9%	36.7%	48.9%
やや興味関心を持った	35.4%	37.4%	35.9%	46.5%	35.4%	55.6%	33.9%	47.3%	53.3%	40.4%
どちらともいえない	7.3%	6.1%	10.6%	11.0%	1.2%	11.1%	3.6%	1.8%	10.0%	10.6%
あまり興味関心を持てなかった	3.1%	1.0%	0.0%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全く興味関心を持てなかった	0.0%	0.0%	0.7%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

**質問 7. 入学前オリエンテーションを振り返って、全体として満足しましたか。**

	法学部	経営学部	経済学部	理工学部	農学部	薬学部	都市情報学部	人間学部	外国語学部	情報工学部
強くそう思う	64.6%	61.6%	59.9%	56.4%	65.9%	66.7%	67.9%	72.7%	63.3%	78.7%
ややそう思う	32.3%	38.4%	37.3%	36.6%	32.9%	31.1%	30.4%	23.6%	33.3%	19.1%
どちらともいえない	2.1%	0.0%	2.8%	5.8%	1.2%	2.2%	1.8%	3.6%	3.3%	0.0%
あまりそう思わない	1.0%	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%
全くそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

## 2. 令和7年度入学者向け入学前学習プログラム（MECプログラム）

### （1）概要

本学の総合型選抜、学校推薦型選抜、特別入試に合格後、学習習慣を維持するとともに、入学後に大学での学習を円滑に開始するための一助とすることを目的とした教育プログラム。本プログラムは、各学科で指定されている講座の中から3講座を選択し、受講する。各講座は、「プレテスト」、「オンライン授業・演習」、「課題提出」、「添削結果の確認・オンライン授業復習」、「アフターテスト」の5つのステップで構成されている。

#### 【1講座の受講の流れ】

- ① 1講座は12単元で構成。自宅でオンライン授業を受講前にプレテストを受講。
- ② オンライン授業（DVDも可）を自宅で受講。
- ③ 各講座の指定された単元に、課題をWEB上で提出。
- ④③の課題の添削結果の確認、およびオンライン授業で復習。
- ⑤ 12単元まで受講後、アフターテストを受講。



### 01 プレテスト

自宅で授業を受ける前に、自分の理解力を確認。  
プレテスト実施後WEB上で提出。



### 02 オンライン授業（DVDも可）・演習

大学の専門教育の基礎となる内容をわかりやすく解説した  
授業を自宅で受講。



### 03 課題提出（該当单元のみ）

授業の内容を、どれだけ理解できたかを確認。  
該当单元のみ、WEB上で課題を提出。



### 04 添削結果の確認・授業復習

03の課題の添削結果を確認し、間違えた部分については、  
再度授業を確認することで復習。



### 05 アフターテスト

12単元の内容を、どれだけ理解できたかを確認。  
アフターテスト実施後WEB上で提出。

## (2) 受講者の選択科目状況（令和7年2月17日時点）

学部名	対象者数	受講者数	申込率	選択された科目名						
				国語	英語	数学	物理	化学	生物	社会
法学部	259名	161名	62.2%	161名	161名	15名	－	－	－	146名
経営学部	222名	175名	78.8%	74名	196名	128名	－	－	－	127名
経済学部	226名	171名	75.7%	50名	156名	154名	－	－	－	153名
理工学部	558名	323名	57.9%	57名	87名	507名	271名	42名	5名	－
農学部	190名	82名	43.2%	0名	53名	44名	30名	37名	82名	－
薬学部	97名	78名	80.4%	－	－	56名	47名	72名	59名	－
都市情報学部	141名	87名	61.7%	87名	87名	87名	－	－	－	－
人間学部	116名	98名	84.5%	98名	98名	15名	－	－	－	83名
外国語学部	115名	58名	50.4%	19名	131名	－	－	－	－	24名
情報工学部	96名	39名	40.6%	19名	29名	63名	6名	－	－	－
合計	2020名	1272名	63.0%	565名	998名	1069名	354名	151名	146名	533名

※同一科目内で複数講座が設定されているため、選択された科目数が受講者数を超える場合があります。

## (3) 実施スケジュール

### 【スケジュール】

案内冊子発送	12月16日（月）
申し込み締切	1月5日（日）
教材発送日	1月31日（金）
学習期間	2月3日（月）～3月25日（火）

### 3. 名城サプリメント教育

本学の専門教育を履修する上で特に重要な内容であるにもかかわらず、高等学校段階において未履修、もしくは学習が不十分な教科・科目について補習を行い、正課における学修の充実を図る教育プログラム。

#### (1) 対面実施について

実施期間：令和6年4月26日～6月21日

実施回数：全7回

実施方法：対面

〈開講科目〉

科目名称	開講期・曜日・時間（キャンパス）		実施回数	参加者数※
薬学部向け物理	前期	金曜日 16:30～18:00（八事）	7回	504名

※参加者数は延べ人数

#### (2) スタディサプリ（オンライン実施）について

実施期間：令和6年5月13日～令和7年3月31日

実施方法：オンライン

〈受講状況（令和7年3月11日現在）〉

スタディサプリの1講座の平均講義数は、24講義。1講義の動画時間は平均1時間であるが、倍速視聴を考慮し、12時間以上を受講完了者として算出した。

	法学部	経営学部	経済学部	理工学部	農学部	薬学部	都市情報学部	人間学部	外国語学部	情報工学部	全体	率
登録者数	7	4	8	16	22	4	4	4	6	5	80	—
受講完了者数 ※1	0	0	0	2	2	1	0	0	1	0	6	8%
受講未完了者数 ※2	7	2	4	8	13	2	3	3	5	4	51	64%
未着手者数 ※3	0	2	4	6	7	1	1	1	0	1	23	29%
確認テスト未着手者数 ※4	1	1	4	8	5	1	1	1	0	1	23	29%
平均視聴時間 (時間)	2.4	2.6	1.7	3.2	4.6	13.7	3.5	4.3	7.3	2.3	4.2	—
最低視聴時間 (時間)	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	—
最大視聴時間 (時間)	7.2	10.3	10.4	22.9	47.1	37.2	9.6	7.0	21.2	8.9	47.1	—

※1：講座視聴時間が12時間以上

※2：講座視聴時間が12時間未満（講座視聴時間が0時間の者を除く）

※3：講座視聴時間が0時間

※4：確認テスト受講数が0件

## 4. 学習サポートルーム

### (1) 概要

主に学部生の学びに関する相談を受け付ける窓口。大学教育開発センター委員会にて選考した大学院生を在室させ、時間割を組むことにより、授業時間中は安心して相談できる体制を構築している。Zoomによる遠隔相談を選択できる形でも実施している。

また、自習スペースとして利用できるほか、室内限定で利用できるスタディサブリ学習用の端末も備えている。

#### 《開室時間帯》

	前期	後期
天白キャンパス	月～金：10：50～16：20	月～金：10：50～16：20
ナゴヤドーム前 キャンパス	月・水・金：10：50～12：20 火・木：10：50～16：20	火・木：10：50～16：20 水：14：50～16：20 金：10：50～12：20

### (2) 利用者数延べ数

天白キャンパス	前期（令和6年4月22日～7月22日）	12名
	後期（令和6年9月24日～12月27日）	3名
ナゴヤドーム前 キャンパス	前期（令和6年4月22日～7月22日）	2名
	後期（令和6年9月24日～12月27日）	6名

### (3) 相談内容（利用実績）

- 授業の内容、課題についての相談
- レポートの書き方に関する相談
- 学習計画に関する相談
- 履修登録に関する相談
- 発表方法・プレゼンテーションスキル・グループワークに関する相談
- 研究室配属に関する相談

**5. 令和6年度  
各学部・研究科等における  
FD・SD 活動報告**



## 各学部・研究科等における FD・SD 取組を推進する組織一覧

学部	推進組織名	推進組織構成メンバー
法学部	FD・SD 委員会	法学部長、協議員、大学教育開発センター委員（教務委員、学生委員の兼任を含む）、FD・SD 委員
法学研究科	FD・SD 研究会	修士課程部会および博士後期課程部会構成員全員
経営学部	GP 等教育支援プロジェクト委員会・経営学部 FD・SD 委員会	経営学部長、経営学部協議員、経営学科長、国際経営学科長、キャリア委員、教務委員、大学教育開発センター委員、担当委員
経営学研究科	研究科委員会	経営学研究科長、主任教授、経営学部協議員、経営学研究科長が指名した者
経済学部	経済学部 FD・SD 委員会	経済学部長、協議員、経済学科長、産業社会学科長、教務委員
経済学研究科	経済学研究科 FD・SD 委員会	研究科長、主任教授、研究科委員
理工学部	理工学部 教育改善委員会	委員長、学科委員（11名）、教養教育委員、物理教室委員、教務委員長、学部評価副委員長、大学教育開発センター委員（2名）、事務職員（2名）
理工学研究科	理工学研究科 教育改善委員会	委員長、専攻委員（11名）、教養教育委員、物理教室委員、教務委員長、学部評価副委員長、大学教育開発センター委員（2名）、事務職員（2名）
情報工学部	情報工学部 FD・SD 委員会	委員長（協議員）1名、委員4名、担当事務職員1名
農学部	農学部 FD・SD 委員会	農学部 FD・SD 委員を中心とする農学部関係教職員（生物資源学科、応用生物化学科、生物環境科学科の各学科会議および農場教員会議を分科会と位置づける）
農学研究科	農学研究科 FD・SD 委員会	農学研究科大学院運営委員会（農学研究科主任教授、農場長、生物資源学科長、応用生物化学科長、生物環境科学科長、農学部学務担当職員で構成）
薬学部	薬学部 FD・SD 委員会	FD・SD 委員長、協議員、教務委員長、学生委員長、就職委員長、国試・CBT 対策委員長、教育開発センター長、臨床教育・研究推進センター長、前 FD・SD 委員長、教務係事務職員1名
薬学研究科	大学院薬学研究科 FD・SD 委員会	薬学研究科主任教授、FD・SD 委員2名、各専修分野長、大学院担当事務職員1名。委員長は薬学研究科主任教授を充てる。
都市情報学部	都市情報学部 FD・SD 委員会	委員長、委員4名、担当事務職員1名
都市情報学研究科	大学院学務委員会	委員長（主任教授）、委員4名、担当事務職員1名
人間学部	人間学部 FD・SD 委員会	FD・SD 委員長、FD・SD 委員（4名）、教務事務職員1名
人間学研究科	人間学研究科 FD・SD 委員会	FD・SD 委員長（主任教授）、FD・SD 委員（2名）、教務事務職員1名
外国語学部	外国語学部 FD・SD 委員会	FD・SD 委員会委員長、FD・SD 委員会委員（教員3名＋事務職員1名）
総合学術研究科	総合学術研究科教育検討部会	◎志村ゆず准教授 ○神藤定生准教授 伊藤康児教授 木村美奈子教授 衣斐大祐准教授
教職センター	教職センターFD・SD 委員会	木村美奈子（教授・大学教育開発センター委員会委員） 谷口正明（教授・教職センター）



### 5) 教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討について (FD/SD)

学部にかかる授業科目の GP 分布を算出し、現状について周知を行い、授業方法の改善と GP の制度設計のあり方について意見交換を行った。とりわけ同一科目で担当者が異なる場合についての望ましいあり方、ならびに、講義科目と演習科目における S 評価のあり方について、より具体的な議論を行い、意識を共有することができた。

### 6) 「法学部 教材共有ページ」の開設 (FD)

各教員が作成した教材を共有することでより効果的な授業を実施できるようにすることを主な目的として、webclass 上に「法学部 教材共有ページ」を開設した。これにより、授業教材の効率的な利用とより質の高い授業教材の開発にむけての土台を構築するとともに、授業教材にかかる日常的な意見交換の場を設けることができた。

## 2. 今後の課題、方向性

本学部においては、とりわけ初年次教育研究会を中心とした FD・SD 活動が定着しており、教員間の授業運営にかかる意識と知識の共有はかなりの程度において進んできている。したがって、基本的には大きく体制を変化させることなく、これまでの成果をさらに発展させる方向での活動を行いたい。ただし、FD・SD 活動を組織的かつ系統的なものとし、学部での定着を図るため、FD・SD 委員会の運用を改善する試みが必要であると思われ、前年度からその取り組みを開始している。また、高校における新学習指導要領に対応した授業運営のあり方について議論を積み重ねていくことも、直近の課題として取り組んでいるところである。

## 3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和6年4月10日 ～6月16日	GPS-Academic の実施 (1年次対象)	SD	【実施主体】 FD・SD 委員会
2	令和6年6月13日	FD・SD 活動計画の策定ならびに新任教員との意見交換会にかかる検討 [第1回 FD・SD 委員会 (対面審議)]	SD	仁井田、松本、西村、萩野、代田 計5名
3	令和6年7月25日	新任教員との意見交換会	SD	仁井田、萩野、代田、久米、高橋、 森、松浦 計7名
4	令和6年7月25日	法学部 教材共有ページの開設	FD	【実施主体】 FD・SD 委員会
5	令和6年8月17日	成績評価基準の平準化に係る検討 [第2回 FD・SD 委員会 (メール審議)]	SD	仁井田、松本、西村、萩野、代田 計5名

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
6	令和6年9月10日 ～10月31日	GPS-Academicの実施（3年次対象）	SD	【実施主体】 FD・SD委員会
7	令和6年9月26日	授業運営のあり方という観点からの 成績評価基準の平準化に係る検討	FD	伊川、伊藤（博）、伊藤（亮）、植木、 仮屋、河北、川元、北見、近藤、 庄村、高松、西村、二本柳、野口、 萩野、日比野、前田、松田、松本、 柳澤（武）、柳沢（雄）、渡邊、高橋、 米田、川原、笹岡、代田、滝谷、 仁井田、長谷川、濱村、見崎、薬袋、 矢嶋、山下、久米、佐藤、仲、松浦、 森 計40名
		GPのより良い制度設計についての検討	SD	
8	令和7年1月10日	小論文講評会の実施	SD	【実施主体】 FD・SD委員会
9	令和7年1月15日	授業改善の方法論にかかる検討〔第 3回FD・SD委員会（メール審議）〕	SD	仁井田、松本、西村、萩野、代田 計5名
10	令和7年2月26日	初年次教育研究会の開催 （1）法学部におけるFD・SD活動 の現況について—これまでの初 年次教育の展開と今後の課題	SD	伊川、植木、仮屋、河北、川元、 近藤、庄村、西村、野口、萩野、 前田、松本、柳澤（武）、柳沢（雄）、 渡邊、代田、滝谷、仁井田、薬袋、 久米、森、石山（特任助手） 計22名
		（2）法学入門における取組の一例— 講義科目における法的思考訓練 の成果と課題	FD	

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 法学研究科 ）

## 1. 令和6年度の活動報告

### （1）修士論文中間報告会

9月11日（水）、修士課程2年の学生6名が、修士論文のテーマに関する判例を挙げて分析する形で報告を行った。ひきつづき、参加した教員・学生と報告者の間で質疑応答が行われた。あわせて、研究科委員会FD・SD部会として、9月26日（木）のFD・SD研究会において中間報告会・論文指導の在り方について議論を行うことが確認された。

### （2）大学院法学研究科修士課程一般入学試験の面接試験の運用の検討・改革

昨年度、従来の論文試験2科目と外国語1科目による試験およびその名称を、「専修科目」1科目・「選択科目」1科目の「筆記試験」に改めたことをうけて、当面の間、面接試験の運用について検討を加えることとした。これに合わせて、面接官の人数および構成について、従来の2名から「2名または3名」に変更するとともに、外国語を選択科目とした受験者の面接官のうち1名は、受験者が選択した専修科目以外の担当教員とすること、面接官の人数および構成は、専修分野の意思を尊重のうえ、研究科長・大学院主任教授・専修科目担当教員の合意に基づくことを決定している。今年度も、この運用について検討を加える。

### （3）博士後期課程のコースワーク（平成31年度導入）とリサーチワークの検証

平成31年度より博士後期課程のコースワークとリサーチワークを明確に分けたカリキュラム改正を行い、令和3年度に完成年度を迎えたことを受け、博士後期課程指導教員・科目担当教員から報告を行った。

## 2. 今後の課題、方向性

### （1）修士論文中間報告会

今年は報告者が6名と昨年度（1名）より多くなったため、報告および質疑応答の時間を1名30分にした。質疑への応答に時間を要する場面、タイムコントロールが必要な場面もあったが、概ね、今後の修士論文作成および面接にあたって有意義な質疑応答が行われていたと評価できる。

### （2）大学院法学研究科修士課程一般入学試験の面接試験の運用の検討・改革

今年度も、3名の面接官による面接試験が行われることになるが、その効果や問題点を確認したうえで、来年度の運用を検討することになる。

(3) 博士後期課程のコースワーク（平成31年度導入）とリサーチワークの検証

昨年度に続き、博士後期課程論文提出者が1名出たことから、コースワーク（平成31年度導入）とリサーチワークの検証を踏まえて、今後の指導の在り方を検討する。また、やはり昨年度に続き、博士論文公聴会も実施されたため、その在り方についても、さらに検討することになる。

### 3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和6年9月11日	・修士論文中間報告会	FD	中間報告会：前田（研究科長）、渡邊（主任教授）、伊川（指導教員）、野口（指導教員）、仮屋（指導教員）、北見（指導教員）、川元、植木、河北、見崎、山下、石山計12名 (大学院生6名も参加)
2	令和6年9月26日	・修士論文中間報告会の在り方について ・修士論文指導の在り方について	FD	伊川、伊藤（博）、伊藤（亮）、仮屋、河北、川元、近藤、庄村、高松、西村、二本柳、野口、萩野、日比野、前田、松田、松本、柳澤（武）、柳沢（雄）、渡邊、川原、笹岡、代田、滝谷、仁井田、長谷川、濱村、見崎、薬袋、矢嶋、山下 計31名
		・大学院法学研究科修士課程一般入学試験の面接試験の運用について	SD	
3	令和7年2月13日	1. ディプロマポリシーに基づくシラバスの作成、それに沿った授業 2. 学生の主体的な参加を促す授業形態 3. 研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導 4. 学生の学修時間（予習・復習）を確保するための方策 5. 厳格な成績評価を行うための方策	FD	伊川、伊藤（亮）、植木、仮屋、河北、川元、近藤、高松、西村、二本柳、野口、萩野、日比野、前田、松田、松本、柳澤（武）、柳沢（雄）、渡邊、川原、代田、滝谷、仁井田、萩野、長谷川、濱村、見崎、薬袋、矢嶋、山下 計30名
		1. 博士論文審査の在り方（予備審査、本審査、公聴会等）について	SD	

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 経営学部 ）

## 1. 令和6年度の活動報告

### ①学修成果を可視化する取組

- ・2024年度第1回経営学部FD・SD研修会において、本年度も「学修成果可視化の外部調査（PROGテスト）」の実施を決定した。
- ・2024年度第4回経営学部FD・SD研修会において、「学修成果可視化の外部調査（PROGテスト）」の実施形態、実施体制と役割分担、周知方法について変更点を踏まえながら決定した。
- ・2024年度第5回経営学部FD・SD研修会において、「学修成果可視化の外部調査（PROGテスト）」の実施報告を行った。
- ・経営学部懇談会の援助によって、簿記・情報処理・TOEIC 他各種資格取得を促している。
- ・専門ゼミナール単位での、インゼミ他に参加することを支援している。

### ②学部独自の取組

#### (i) 学生の主体的な学びに関する取組、かつ、多様な学修経験に関する取組

- ・「学びのコミュニティ創出支援事業」の資金的支援によって、「産官学」連携による新たなスマートモビリティサービス事業の創出、「ビジネスモデル」をキーワードとした創造的課題解決能力の育成事業、産学連携によるキャリア教育教材ゲームの共同開発、多様性への認識・理解促進のための取り組みなどの事業を実施した。
- ・多様な学修経験の機会のため、ゼミナールなどで企業訪問を行う予算を、実験実習費で措置している。
- ・多様な学修経験の機会のため、ゼミナールなどで企業の方を外部講師として招く予算を、実験実習費で措置している。
- ・基礎ゼミナールの一部において、FSP 講座を導入し、入学初年度から、実際の企業の現場での課題に触れる機会を持ち、大学での学びについて主体的に考えるよう促している。
- ・FSP 講座を4社の協力により「基礎ゼミナール」(1年配当) 4クラスで実施した。

#### (ii) カリキュラム改正検討委員会の設置

- ・現行カリキュラムの問題点を検討し、より質の高い教育を可能とするカリキュラムの策定を行うためにカリキュラム改正検討委員会を設置し、新カリキュラムの導入に向けた準備を進め、令和7年度4月より適用する新カリキュラムを決定した。

## 2. 今後の課題、方向性

名城大学および経営学部が目指す「生涯学びを楽しむ」「学びのコミュニティを創り広げる」ため、継続的な産学連携を可能とする（特定の個人に依存しない）制度的な受け皿の形成が課題となっている。そして、学部の取組については、今後もPDCAサイクルを推進する組織として、FD・SD委員会とGP等教育支援プロジェクト委員会を一体化し、実学としての経営学部の教育についてFD活動を進めている。

同委員会は、学部長・協議員・両学科長・キャリア委員・教務委員・FD委員（オブザーバーとして事務長）をメンバーとして、毎月1回の開催を目安に招集し、その都度、学部のGP/FD・SD活動の年度計画のPDCA活動を行うとともに、教授会開催前に、全構成員で教育改善のための議論を行っている。

## 3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	【教授会】 第1回 令和6年4月11日	障がい等を理由とする修学支援の配慮について	SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、相川、東、澤田（慎）、新美、村上、大西、澤田（貴）、高山、田中、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野、山本（計26名） 深川、森田、金丸 ※国内研究員：桑島 （委任者：関には別途資料配布）
2	【FD・SD研修会】 2024年度 第1回 令和6年4月25日	2024年度学びのコミュニティ創出支援事業について、2023年度被災地支援活動にかかる寄付について、各種「学びのコミュニティ」参加者募集について、経営学部教員・ゼミへの産官学連携依頼について、東邦高等学校との高大連携プロジェクトについて、FSPについて、今年度PROGテストについて	FD・SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、相川、東、澤田（慎）、新美、村上、大西、澤田（貴）、高山、田中、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野、山本（計26名） 深川、森田、金丸 ※国内研究員：桑島 （委任者：関には別途資料配布）
3	【教授会】 第2回 令和6年4月25日	障がい等を理由とする修学支援の配慮について	SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、相川、東、澤田（慎）、新美、村上、大西、澤田（貴）、高山、田中、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野、山本（計26名） 深川、森田、金丸 ※国内研究員：桑島 （委任者：関には別途資料配布）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
4	【教授会】 第3回 令和6年5月9日	定期試験の実施方法及び試験アンケートについて、障がい学生の受講上の配慮のお願いについて	FD・SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、相川、東、澤田（慎）、新美、村上、大西、澤田（貴）、高山、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野、山本（計25名） 深川、森田、金丸 ※国内研究員：桑島 （委任者：田中、関には別途資料配布）
5	【教授会】 第4回 令和6年5月23日	障がい学生の受講上の配慮のお願いについて	SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、長尾、橋場、柳田、相川、東、澤田（慎）、新美、村上、関、大西、澤田（貴）、高山、田中、西垣、東田、村松、山岡、中川、西野、山本（計25名） 深川、森田、金丸 ※国内研究員：桑島 （委任者：鳥居、堀川には別途資料配布）
6	【FD・SD研修会】 2024年度 第2回 令和6年6月13日	各種「学びのコミュニティ」について、各種「学びのコミュニティ」参加者募集結果応募状況について、東邦高等学校との高大連携プロジェクトについて現状報告、FSP 現状報告	FD・SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、相川、東、澤田（慎）、新美、村上、関、大西、澤田（貴）、高山、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野、山本（計26名） 深川、森田、金丸 ※国内研究員：桑島 （委任者：田中には別途資料配布）
7	【教授会】 第5回 令和6年6月13日	障がい学生の定期試験上の配慮のお願いについて、障がい学生の受講上の配慮のお願いについて	FD・SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、相川、東、澤田（慎）、新美、村上、関、大西、澤田（貴）、高山、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野、山本（計26名） 深川、森田、金丸 ※国内研究員：桑島 （委任者：田中には別途資料配布）
8	【教授会】 第6回 令和6年6月27日	2025年度～カリキュラム改正に伴う確認事項について、シラバスに記載したフィードバックの実施について	FD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、相川、東、澤田（慎）、新美、村上、関、大西、澤田（貴）、高山、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野（計24名） 深川、森田、金丸 ※国内研究員：桑島 （委任者：柳田、田中、山本には別途資料配布）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
9	【教授会】 第7回 令和6年7月11日	令和5（2023）年度春期インターンシップの単位認定について、令和7年度学位授与方針対応表等を用いた教育課程の自己点検の実施について①、経営学部教育課程改正に係る名城大学学則の一部改正について、教育課程編成方針（カリキュラムポリシー）の変更について	FD・SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、東、澤田（慎）、新美、村上、関、大西、澤田（貴）、高山、田中、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、山本（計25名） 深川、森田、金丸 ※国内研究員：桑島 （委任者：相川、西野には別途資料配布）
10	【FD・SD研修会】 2024年度 第3回 令和6年7月25日	各種「学びのコミュニティ」実施報告、東邦高等学校との高大連携プロジェクト（第1回目）実施報告、2024年度中小企業経営者と学生のキャリア（就職）相談会実施報告、FSP実施報告、キャリア特論現状報告	FD・SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、相川、東、澤田（慎）、村上、関、大西、澤田（貴）、高山、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野、山本（計25名） 深川、森田、金丸 ※国内研究員：桑島 （委任者：新美、田中には別途資料配布）
11	【教授会】 第8回 令和6年7月25日	令和6（2024）年度夏期海外英語研修実施に伴う単位認定の検討について、令和7年度学位授与方針対応表等を用いた教育課程の自己点検の実施について②	FD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、相川、東、澤田（慎）、村上、関、大西、澤田（貴）、高山、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野、山本（計25名） 深川、森田、金丸 ※国内研究員：桑島 （委任者：新美、田中には別途資料配布）
12	【教授会】 第9回 令和6年9月5日	2024年度後期 資格等による単位認定について、令和6（2024）年度夏期海外ボランティア・インターンシップ in ベトナム実施に伴う単位認定の検討について、2025年度カリキュラム生～他学科履修の条件・登録方法について、障がい等を理由とする修学支援について、2025年度科目等履修生（交換留学生を含む）の履修できる授業科目・条件について	FD・SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、長尾、橋場、柳田、相川、東、澤田（慎）、新美、村上、大西、澤田（貴）、高山、西垣、東田、山岡、中川、山本（計21名） 深川、森田、金丸 ※国内研究員：桑島 （委任者：鳥居、関、田中、堀川、村松、西野には別途資料配布）
13	【FD・SD研修会】 2024年度 第4回 令和6年9月19日	各種「学びのコミュニティ」実施報告、教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討について、2024年度 PROG テストについて、東邦高等学校との高大連携プロジェクト（第2回目）について、2024年度第2回中小企業経営者と学生のキャリア（就職）相談会開催について	FD・SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、相川、澤田（慎）、新美、村上、関、大西、澤田（貴）、高山、田中、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野、山本（計26名） 深川、森田、金丸 ※国内研究員：桑島 （委任者：東には別途資料配布）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
14	【教授会】 第10回 令和6年9月19日	2025年度 編入学試験入学前修得単位認定（案）について、障がい等を理由とする修学支援について、令和7年度学位授与方針対応表等を用いた教育課程の自己点検の実施について【最終】	FD・SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、相川、澤田（慎）、新美、村上、関、大西、澤田（貴）、高山、田中、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野、山本（計26名） 深川、森田、金丸 ※国内研究員：桑島 （委任者：東には別途資料配布）
15	【教授会】 第11回 令和6年10月10日	2024年度 後期 試験アンケートについて、2024年度 後期 試験監督について、2025年度 転学部等試験内容について	FD・SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、相川、東、澤田（慎）、新美、村上、関、大西、澤田（貴）、高山、田中、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川（計25名） 深川、森田、金丸 ※国内研究員：桑島 （委任者：西野、山本には別途資料配布）
16	【教授会】 第12回 令和6年10月24日	「海外語学実習」の単位認定について、交換留学生（派遣）帰国後の単位認定（案）について、2025年度 経営学部カリキュラム「英文科目名」について	FD・SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、相川、東、澤田（慎）、新美、村上、関、大西、澤田（貴）、高山、田中、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野（計26名） 深川、森田、金丸 ※国内研究員：桑島 （委任者：山本には別途資料配布）
17	【教授会】 第13回 令和6年11月14日	2025年度 経営学部カリキュラム「英文科目名」について【継続】、2025年度 時間割編成等【確認事項】について、2025年度 基礎ゼミナールの統一シラバスについて	FD・SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、相川、東、澤田（慎）、新美、村上、関、大西、澤田（貴）、高山、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野、山本（計26名） 深川、森田、金丸 ※国内研究員：桑島 （委任者：田中には別途資料配布）
18	【FD・SD 研修会】 2024年度 第5回 令和6年11月28日	各種「学びのコミュニティ」実施報告、教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討について【継続審議】、2024年度第2回中小企業経営者と学生のキャリア（就職）相談会について、2024年度 PROG テストについて（実施報告とお願い）、次年度以降の高大連携事業についての提案、次年度学びのコミュニティ創出支援事業新規申請に向けて	FD・SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、相川、東、澤田（慎）、新美、村上、大西、澤田（貴）、高山、西垣、東田、堀川、山岡、中川、西野、山本（計24名） 深川、森田、金丸 ※国内研究員：桑島 （委任者：関、田中、村松には別途資料配布）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
19	【教授会】 第14回 令和6年11月28日	2024年度 定期試験時間割表（案）について、2024年度 後期 経営学部試験監督表について、2024年度 修学指導について【結果報告】、2025年度 経営学部カリキュラム「英文科目名」について【報告】、愛知学長談話会 令和7年度単位互換事業について、障がい等を理由とする修学支援について	FD・SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、相川、東、澤田（慎）、新美、村上、大西、澤田（貴）、高山、西垣、東田、堀川、山岡、中川、西野、山本（計24名） 深川、森田、金丸 ※国内研究員：桑島 （委任者：関、田中、村松には別途資料配布）
20	【FD・SD 研修会】 2024年度 第6回 令和6年12月12日	教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討についての現状報告【継続審議】、次年度学びのコミュニティ創出支援事業新規申請について	FD・SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、相川、東、澤田（慎）、村上、関、大西、澤田（貴）、高山、田中、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野、山本（計26名） 深川、森田、金丸 ※国内研究員：桑島 （委任者：新美には別途資料配布）
21	【教授会】 第15回 令和6年12月12日	令和6（2024）年度夏季インターンシップにおける単位認定について、令和7年度 開講授業における対面／遠隔並行授業を試行する科目の選定等について、2025年度 時間割編成等【確認事項】について、令和7年度 ノルマ表（曜日時限有）について、2025年度 経営学部 時間割（案）について、令和6年度後期シラバスに記載したフィードバックの実施について	FD・SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、相川、東、澤田（慎）、村上、関、大西、澤田（貴）、高山、田中、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野、山本（計26名） 深川、森田、金丸 ※国内研究員：桑島 （委任者：新美には別途資料配布）
22	【教授会】 第16回 令和7年1月16日	2024年度 夏期（特I）海外インターンシップの単位認定について、2025年度 単位認定申請について、2025年度 経営学部学生便覧「履修要項」について、2025年度 自動履修登録科目・履修調整科目・他学部他学科履修許可科目について、令和7年度教職課程変更届の確認について、高等教育の就学支援新制度に係る実務経験のある教員、担当科目等の情報提供及びシラバスへの実務経験と授業内容の関係の確認について、シラバスの校正について	FD・SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、相川、東、澤田（慎）、新美、村上、関、大西、澤田（貴）、高山、西垣、東田、村松、山岡、中川、西野、山本（計25名） 深川、森田、金丸 ※国内研究員：桑島 （委任者：田中、堀川には別途資料配布）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
23	【FD・SD 研修会】 2024年度 第7回 令和7年1月30日	各種「学びのコミュニティ」実施報告、次年度 FSP 授業のスケジュールについて	FD・SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、相川、東、澤田（慎）、新美、村上、関、大西、澤田（貴）、高山、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野、山本（計26名） 深川、森田、金丸 ※国内研究員：桑島 （委任者：田中には別途資料配布）
24	【教授会】 第17回 令和7年1月30日	令和6年度 教養教育部門カリキュラム編成状況調査の実施について、令和6年度教職課程自己点検シートの提出について	FD・SD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、相川、東、澤田（慎）、新美、村上、関、大西、澤田（貴）、高山、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野、山本（計26名） 深川、森田、金丸 ※国内研究員：桑島 （委任者：田中には別途資料配布）
25	【教授会】 第18回 令和7年2月14日	令和6（2024）年度春期海外英語研修実施に伴う単位認定の検討について、2025年度経営学部時間割（案）について	FD	五十畑、伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、相川、東、澤田（慎）、新美、村上、関、大西、澤田（貴）、高山、田中、西垣、東田、堀川、村松、中川、西野（計25名） 深川、森田 ※国内研究員：桑島 （委任者：山岡、山本には別途資料配布）
26	【FD・SD 研修会】 2024年度 第8回 令和7年2月27日	各種「学びのコミュニティ」実施報告、2025年度学びのコミュニティ創出支援事業審査結果及び予算支援（案）について、2025年度 PROG テストについて	FD・SD	伊藤、瀬川、田澤、田代、鳥居、長尾、橋場、柳田、相川、東、澤田（慎）、新美、村上、大西、澤田（貴）、高山、西垣、東田、堀川、村松、山岡、中川、西野、山本（計24名） 深川、森田 ※国内研究員：桑島 （委任者：五十畑、関、田中には別途資料配布）

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 経営学研究科 ）

## 1. 令和6年度の活動報告

### ①研究科独自の取組

- ・後期に修士論文事前報告会を実施。

## 2. 今後の課題、方向性

入学定員確保に向けて、在学生向け及び海外協定校向けの説明会を実施した。また、学生確保における日本語運用力問題解決の試みを含め、海外協定校との連携強化および愛知県社会保険労務士会等との連携強化の他、学内の他研究科との連携についても協議する。また、学生の学修成果を可視化する取組として、学部における「学修成果可視化の外部調査（PROGテスト）」の結果を踏まえ、大学院における学修成果可視化の外部調査導入の検討（予算措置含む）を行う。

## 3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	【研究科委員会】 令和6年4月11日	2024（令和6）年度経営学研究科修士課程指導教員について、2024年度（9月）修士学位論文提出要領について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田（慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、田代、鳥居、長尾、中川、西垣、橋場、東田、堀川、山岡、山本（計19名） 深川、森田 （委任者：田中、柳田には別途資料配布）
2	【研究科委員会】 令和6年5月9日	9月修了修士学位論文事前報告会について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田（慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、田代、鳥居、中川、西垣、橋場、東田、柳田、堀川、山本（計18名） 深川、森田 （委任者：長尾、田中、山岡には別途資料配布）
3	【研究科委員会】 令和6年5月23日	2024（令和6）年度大学院学業優秀奨学生候補者の選考について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田（慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、田代、田中、長尾、中川、西垣、橋場、東田、柳田、山岡、山本（計19名） 深川、森田 （委任者：鳥居、堀川には別途資料配布）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
4	【研究科委員会】 令和6年6月13日	令和7年度 学位授与方針対応表を用いた教育課程の自己点検の実施について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田(貴)、瀬川、高山、田澤、田代、鳥居、長尾、中川、西垣、橋場、東田、柳田、山岡、山本(計18名) 深川、森田 (委任者：澤田(慎)、田中、堀川には別途資料配布)
5	【研究科委員会】 令和6年6月27日	令和6年度 後期追加(変更)履修登録について	FD	五十畑、伊藤、大西、澤田(慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、田澤、田代、鳥居、長尾、中川、西垣、橋場、東田、堀川、山岡(計17名) 深川、森田 (委任者：相川、田中、柳田、山本には別途資料配布)
6	【研究科委員会】 令和6年7月11日	令和6年度 大学院学業優秀奨学生候補者の推薦について	FD	五十畑、伊藤、大西、澤田(慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、中川、西垣、橋場、東田、堀川、柳田、山岡、山本(計20名) 深川、森田 (委任者：相川には別途資料配布)
7	【研究科委員会】 令和6年9月19日	入学者受け入れ方針(AP)と令和7年度入試方式との対応表の更新について、令和6年度 修士学位論文提出要領について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田(慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、田澤、田代、鳥居、長尾、中川、橋場、東田、堀川、柳田、山本、深川、森田(計20名) (委任者：田中、西垣、山岡には別途資料配布)
8	【研究科委員会】 令和6年10月10日	2025年度経営学研究科(修士課程)時間割編成について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田(慎)、澤田(貴)、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、中川、西垣、橋場、東田、堀川、柳田、山岡(計19名) 深川、森田 (委任者：瀬川、山本には別途資料配布)
9	【研究科委員会】 令和6年10月24日	2025年度経営学研究科(修士課程)時間割編成について《継続》、2024年度経営学研究科修士学位論文事前報告会(案)について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田(慎)、澤田(貴)、瀬川、高山、田澤、田代、田中、鳥居、長尾、中川、西垣、橋場、東田、堀川、柳田、山岡(計20名) 深川、森田 (委任者：山本には別途資料配布)

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
10	【研究科委員会】 令和6年11月14日	2025年度経営学研究科（修士課程） 時間割案について、2025年度シラバ スの作成について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田 （慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、 田澤、田代、鳥居、長尾、中川、 西垣、橋場、東田、堀川、柳田、 山岡、山本（計20名） 深川、森田 （委任者：田中には別途資料配布）
11	【研究科委員会】 令和6年11月28日	2025年度経営学研究科（修士課程） 時間割案について《継続》、2025年度 シラバスの作成について《継続》、 「MS-26戦略プラン（部署版）」「2025 年度事業計画書（部署版）」について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田 （慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、 田澤、田代、鳥居、長尾、中川、 西垣、橋場、山岡、山本（計17名） 深川、森田 （委任者：田中、東田、堀川、柳田 には別途資料配布）
12	【研究科委員会】 令和6年12月12日	大学院収容定員充足率向上に向けた 対応について、2025年度経営学研究 科（修士課程）時間割案について《継 続》	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田 （慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、 田澤、田代、田中、鳥居、長尾、 中川、西垣、橋場、東田、堀川、 柳田、山岡（計20名） 深川、森田 （委任者：山本には別途資料配布）
13	【研究科委員会】 令和7年1月16日	2025年度中部地区大学院単位互換制 度について、2025年度国公私単位互 換制度について、2025年度シラバス 第三者チェックの実施に伴う修正に ついて	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田 （慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、 田澤、田代、鳥居、長尾、中川、 東田、山本（計15名） 深川、森田 （委任者：田中、西垣、橋場、堀川、 柳田、山岡には別途資料配布）
14	【研究科委員会】 令和7年1月30日	令和6年度教職課程自己点検シート （各研究科版）の提出について	FD	相川、五十畑、伊藤、大西、澤田 （慎）、澤田（貴）、瀬川、高山、 田澤、田代、鳥居、長尾、中川、 西垣、橋場、東田、堀川、柳田、 山岡、山本（計20名） 深川、森田 （委任者：田中には別途資料配布）
15	【研究科委員会】 令和7年2月14日	2025年度経営学研究科（修士課程） 時間割案について《継続》	FD	五十畑、伊藤、大西、澤田（慎）、 澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、 田代、田中、鳥居、中川、西垣、 橋場、東田、堀川、柳田（計17名） 深川、森田 （委任者：相川、長尾、山岡、山本 には別途資料配布）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
16	【研究科委員会】 令和7年2月27日	2025年度経営学研究科（修士課程） 時間割案について《継続》	FD	相川、伊藤、大西、澤田（慎）、 澤田（貴）、瀬川、高山、田澤、 田代、鳥居、長尾、中川、西垣、 橋場、東田、堀川、柳田、山岡、 山本（計19名） 深川、森田 （委任者：五十畑、田中には別途 資料配布）

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 経済学部 ）

## 1. 令和6年度の活動報告

今年度の活動目標を「学生が生涯にわたって主体的、自立的に学ぶ能力を身に付けるために、教育内容、教育環境、教育技法の改善に取り組む」とし、FD・SD取組を推進する組織一覧表に明記した。

全学的な今年度の共通テーマとなった「学生の学修成果を可視化する取組を踏まえた教育改善」については、10月に学部3年生を対象として「GPS-Academic」を実施した。その集計結果については年度内に分析し、教育改善へとつなげていく所存である。

大学教育開発センターの主催で開催された第20回FD・SD学習会（8月1日）に5名、FDセミナー（8月22日）に3名の教員が参加した。第26回FD・SDフォーラム（1月8日）には7名の教員と職員が参加した。

## 2. 今後の課題、方向性

「MS-26戦略プラン（部署版）」「2024年度事業計画書（部署版）」に即した取組が求められている。とくに「FD・SD取組を推進する組織」の中の今年度の具体的取組内容として、「一人一人の修学意欲の向上を促す対策の検討」をテーマとしたが、その中の「初年次教育の内容（レポートの書き方の指導を含む）、困難を抱える学生に提供する学習環境、アクティブ・ラーニングの技法などの改善」については、今後も継続して取り組む必要があると考えられる。次年度以降も、これらに即したFD・SD懇談会を可能な限り進めていきたい。

学修成果を可視化する取組に基づく教育改善については、ダッシュボード掲載の各種資料とGPS-Academicや卒業時アンケートなどの集計結果をふまえて、年度内に学部FD・SD懇談会において報告し教育改善に結びつけることを検討する。

### 3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和6年4月 ～9月	新任教員FD・SD研修(大学教育開発センター)	FD	松田、名和(計2名)
2	令和6年5月16日	経済学部FD・SD委員会「FD・SD取組を推進する組織について」(新年度の修正、更新)	SD	勝浦、伊藤(健)、伊藤(志)、杉本、名和(計5名)
3	令和6年5月23日	経済学部FD・SD懇談会「FD・SD取組の推進組織の更新について」(活動目標および具体的取組内容(予定)を中心に検討し新年度版を作成した)	SD	勝浦、斎藤、佐土井、谷村、壺内、名和、西山、松尾、大瀧、神野、松田、伊藤(健)、井内、蟹、渋井、杉本、山本、門、小泉、澤田、薄井(計21名)
4	令和6年8月1日	名城大学第20回FD・SD学習会「高等教育における合理的配慮」(大学教育開発センター)	FD	山本、野口、勝浦、谷村、名和(計5名)
5	令和6年8月22日	名城大学第18回FDセミナー「MATLABを活用したAIデータサイエンスFDセミナー」(大学教育開発センター)	FD	勝浦、佐土井、名和(計3名)
6	令和6年8月28日	経済学部FD・SD委員会「FD・SD活動報告(中間)、前期のFD・SD活動、後期のFD・SD活動」	SD	勝浦、伊藤(健)、伊藤(志)、杉本、名和(計5名)
7	令和6年9月5日	経済学部FD・SD懇談会「FD・SD活動報告(中間)、前期のFD・SD活動、後期のFD・SD活動」	SD	伊藤(志)、勝浦、川森、斎藤、壺内、名和、西山、野口、松尾、大瀧、松田、伊藤(健)、井内、蟹、山本、門、小泉、澤田、薄井(計19名)
8	令和6年9月5日	教授会「教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化について」(成績評価(得点分布)一覧によって各科目の分布状況を共有し、個々の担当科目と他の教員の担当科目との比較を行った)	FD	伊藤(志)、勝浦、川森、斎藤、谷村、壺内、名和、西山、野口、松尾、大瀧、松田、伊藤(健)、井内、蟹、山本、門、小泉、澤田、薄井(計20名)
9	令和6年10月1日 ～30日	「大学生調査GPS-Academic」実施	FD	-
10	令和6年10月17日	経済学部FD・SD委員会「学修成果の把握に向けた外部調査の実施について」(次年度実施に向けて詳細内容を検討した)	FD	勝浦、伊藤(健)、伊藤(志)、名和、薄井(計5名)
11	令和6年10月24日	経済学部教授会「学修成果の把握に向けた外部調査実施の希望調査について」(次年度実施に向けて詳細内容を検討し決定した)	FD	伊藤(志)、勝浦、川森、斎藤、佐土井、谷村、壺内、名和、西山、野口、松尾、大瀧、李、伊藤(健)、井内、蟹、渋井、杉本、山本、太田、門、小泉、山田、薄井(計24名)

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
12	令和7年1月6日	経済学部FD・SD委員会「一人一人の修学意欲の向上を促す対策の検討(1) アクティブ・ラーニングをめぐる近年の問題点、論文・レポート作成の指導法」	FD	勝浦、伊藤(健)、伊藤(志)、杉本、名和、薄井(計6名)
13	令和7年1月8日	名城大学 第26回FD・SDフォーラム「学生の成長を支える授業設計」(大学教育開発センター)	FD	伊藤(健)、勝浦、澤田、谷村、名和、野口、山本(計7名)
14	令和7年1月9日	経済学部FD・SD懇談会「一人一人の修学意欲の向上を促す対策の検討(1) アクティブ・ラーニングをめぐる近年の問題点、論文・レポート作成の指導法」	FD	伊藤(志)、勝浦、川森、斎藤、佐土井、谷村、壺内、名和、西山、野口、松尾、赤木、大瀧、神野、松田、李、伊藤(健)、井内、蟹、洪井、杉本、山本、太田、小泉、山田、澤田、薄井(計27名)
15	令和7年2月25日	経済学部FD・SD委員会「学生アンケート、卒業時アンケート、GPS-Academic などから考える経済学部の教育」	FD	勝浦、伊藤(健)、伊藤(志)、杉本、小泉、名和、薄井(計7名)
16	令和7年2月27日	経済学部FD・SD懇談会「学生アンケート、卒業時アンケート、GPS-Academic などから考える経済学部の教育」	FD	伊藤(志)、勝浦、川森、斎藤、佐土井、谷村、名和、西山、松尾、赤木、大瀧、神野、松田、焼田、李、伊藤(健)、井内、蟹、洪井、杉本、山本、太田、門、小泉、山田、澤田、薄井(計27名)

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 経済学研究科 ）

## 1. 令和6年度の活動報告

今年度の活動目標を「院生が生涯にわたって主体的、自立的に学ぶ能力を身に付けるために、教育内容、教育環境、教育技法の改善に取り組む」とし、FD・SD取組を推進する組織一覧表に明記した。

今年度は、初の取組として「論文作成の指導法」をテーマにFD・SD懇談会を開催した。

大学教育開発センターの主催で開催された第20回FD・SD学習会（8月1日）に5名、FDセミナー（8月22日）に3名の教員が参加した。第26回FD・SDフォーラム（1月8日）には6名の教員と職員が参加した。

## 2. 今後の課題、方向性

また「MS-26戦略プラン（部署版）」「2024年度事業計画書（部署版）」に即した取組も求められている。この点については、「論文作成の指導法」をテーマとしたFD・SD懇談会を今後も継続していく予定である。

全学的な今年度の共通テーマとなった「学生の学修成果を可視化する取組を踏まえた教育改善」については、GPS-Academicや卒業時アンケートを活用できる学部と異なり、研究科での手法は更なる検討が必要である。この点については、年度内にFD・SD懇談会において追究する予定である。

## 3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD区分	出席者
1	令和6年4月～9月	新任教員FD・SD研修（大学教育開発センター）	FD	松田、名和（計2名）
2	令和6年5月16日	経済学研究科FD・SD委員会「FD・SD取組を推進する組織について」（新年度の修正、更新）	SD	勝浦、杉本、名和（計3名）
3	令和6年5月23日	経済学研究科FD・SD懇談会「FD・SD取組の推進組織の更新について」（活動目標および具体的取組内容（予定）を中心に検討し新年度版を作成した）	SD	勝浦、斎藤、佐土井、谷村、壺内、名和、西山、松尾、大瀧、松田、伊藤（健）、井内、蟹、渋谷、杉本、山本、門、薄井（計18名）
4	令和6年8月1日	名城大学第20回FD・SD学習会「高等教育における合理的配慮」（大学教育開発センター）	FD	山本、野口、勝浦、谷村、名和（計5名）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
5	令和6年8月22日	名城大学 第18回 FD セミナー 「MATLAB を活用した AI データサイエンス FD セミナー」(大学教育開発センター)	FD	勝浦、佐土井、名和 (計3名)
6	令和6年8月28日	経済学研究科 FD・SD 委員会「FD・SD 活動報告 (中間)、前期の FD・SD 活動、後期の FD・SD 活動」	SD	勝浦、杉本、名和 (計3名)
7	令和6年9月5日	経済学研究科 FD・SD 懇談会「FD・SD 活動報告 (中間)、前期の FD・SD 活動、後期の FD・SD 活動」	SD	伊藤 (志)、勝浦、川森、斎藤、壺内、名和、西山、野口、松尾、大瀧、松田、伊藤 (健)、井内、蟹、山本、門、薄井 (計17名)
8	令和6年10月17日	経済学研究科 FD・SD 委員会「今後取り組むべき課題」	FD	勝浦、佐土井、名和、薄井 (計4名)
9	令和7年1月6日	経済学研究科 FD・SD 委員会「一人一人の修学意欲の向上を促す対策の検討 (1) 論文作成の指導法」	FD	勝浦、佐土井、杉本、名和、薄井 (計5名)
10	令和7年1月8日	名城大学 第26回 FD・SD フォーラム 「学生の成長を支える授業設計」(大学教育開発センター)	FD	伊藤 (健)、勝浦、谷村、名和、野口、山本 (計6名)
11	令和7年1月9日	経済学研究科 FD・SD 懇談会「一人一人の修学意欲の向上を促す対策の検討 (1) 論文作成の指導法」	FD	伊藤 (志)、勝浦、川森、斎藤、佐土井、谷村、壺内、名和、西山、野口、松尾、赤木、大瀧、松田、李、伊藤 (健)、井内、蟹、洪井、杉本、山本、太田、山田、薄井 (計24名)
12	令和7年2月25日	経済学研究科 FD・SD 委員会「学修成果の可視化・評価・改善」	SD	勝浦、佐土井、杉本、名和、薄井 (計5名)
13	令和7年2月27日	経済学研究科 FD・SD 懇談会「学修成果の可視化・評価・改善」	FD	伊藤 (志)、勝浦、川森、斎藤、佐土井、谷村、名和、西山、松尾、赤木、大瀧、門、松田、焼田、李、伊藤 (健)、井内、蟹、洪井、杉本、山本、太田、山田、薄井 (計24名)

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 理工学部 ）

## 1. 令和6年度の活動報告

学部教育に必要な学生の基礎学力向上と教育改善を推進し、学生が満足できる教育体制の構築を目的とした。具体的な取り組みとして、基礎演習科目の履修促進、数学相談室・物理相談室の開設などを行い、目標とする基礎学力向上、教育改善への取り組みを引き続き進める。更に、教員の学生指導能力向上に関わる教育フォーラム（FD・SD フォーラム）への参加を促した。また、各学科のFD・SD会議の活動を強化し、推進組織である本教育改善委員会で各学科のFD・SD会議議事録を集約した。今後、各学科FD・SD会議の活動内容を検討し、連携を図る。

「学生の学修成果を可視化する取組」としては、GPS-Academic、PROGを用いた外部機関による調査を行っている。ただし、理工学部には10の学科があり、統一的な外部調査を実施するのではなく、先にあげた2つの外部調査機関が実施する調査方法の有効性判断を含め、各学科が外部調査方法を選択し、実施している。選択した外部調査方法はGPS-Academic（数学科、機械工学科、環境創造工学科）、PROGテスト（電気電子工学科、材料機能工学科、応用化学科、交通機械工学科、メカトロニクス工学科、社会基盤デザイン工学科、建築学科）である。将来的には理工学部全体として同一の学修成果調査方法を選定し、学科間で連携が取れるように各学科のFD・SD会議の母体となる教育改善委員会で検討を進めていきたい。

理工学部では基礎学力に自信がない新入学生向けに数学・物理学・化学・英語の基礎演習科目を置くとともに、数学・英語に関しては更に発展的な内容を勉強できるよう基礎演習（アドバンスコース）科目も開講している。入学時に、数学習熟度診断テストを実施し、学生が自ら習熟度の判断ができるように診断テストの点数により、これらの科目の活用を促すように指導した。

例年、数学相談室、物理相談室の運営状況は本委員会で報告され、実施結果等に基づき、今後の実施方法等について、検討を行っている。令和6年度については、数学相談室の利用者増加策として、1年次開講科目の「線形代数Ⅰ・Ⅱ」、「微分積分Ⅰ・Ⅱ」において、講義内にて数学相談室開室に関する周知を行うことや開催場所を11号館から、学生が利用しやすく目につく共通講義棟での開催に変更するなどの対応策を講じた。

## 2. 今後の課題、方向性

学修成果の追跡調査は、教育を改善していく上で重要な情報を与える。そのためには、複数年にわたり個々の学生の調査を実施することが必要となる。現在、各学科が独自に外部調査を実施し、その有効性を判断している段階である。このような中で、FD・SDに取り組む教育改善委員会としては、学部全体としての方向性を示し、統一した学修成果可視化の調査が必要かどうかを検討する必要がある、今後の課題としたい。

現在、各学科のFD・SD会議は順調に機能しており、個々の課題解決に向けた検討がなされている。多様な学科から成る理工学部では、このような個別会議は重要な役割を果たす。しかし、それらを取りまとめる教育改善委員会では、共通の課題を設定して理工学教育の改善に反映していきたい。

### 3. 活動記録

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
1	令和6年5月22日 ～5月24日 [遠隔]	・令和6年度物理相談室について	FD	來海, 山中, 小澤, 田崎, 岩谷, 榎本, 田中, 吉川, 菅, 芦澤, 松本, 広瀬, 佐藤, 森口, 中山, 宇佐見 (教員計16名) 東海林, 加城 (職員計2名)
		・令和6年度理工学部および理工学研究科の事業計画について ・東海工学教育協会 会員入会のご案内	SD	
2	令和6年6月17日 ～各締切日まで [遠隔]	・FD・SD学習会「働き方を学びほぐすアンラーニング」への協力について ・令和6年度物理相談室について ・MECプログラムの見直し(推薦入学者向けの入学前教育)について	FD	來海, 山中, 小澤, 田崎, 岩谷, 榎本, 田中, 吉川, 菅, 芦澤, 松本, 広瀬, 佐藤, 森口, 中山, 宇佐見 (教員計16名) 西村, 加城, 濱松 (職員計3名)
3	令和6年7月9日 ～7月16日 [遠隔]	・令和6年度FD・SD活動報告書(中間)の作成について ・令和5年度前期数学相談室の開催について ・第4回大学教育開発センター委員会報告	FD	來海, 山中, 小澤, 田崎, 岩谷, 榎本, 田中, 吉川, 菅, 芦澤, 松本, 広瀬, 佐藤, 森口, 中山, 宇佐見 (教員計16名) 西村, 加城, 濱松 (職員計3名)
4	令和6年7月9日 ～8月23日 [遠隔]	・推薦入学者向けの入学前教育の科目選択と推奨コース・フローチャートの作成について	FD	來海, 山中, 小澤, 田崎, 岩谷, 榎本, 田中, 吉川, 菅, 芦澤, 松本, 広瀬, 佐藤, 森口, 中山, 宇佐見 (教員計16名) 西村, 加城, 濱松 (職員計3名)
5	令和6年8月20日 ～9月13日 [遠隔]	・教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討について	FD	來海, 山中, 小澤, 田崎, 岩谷, 榎本, 田中, 吉川, 菅, 芦澤, 松本, 広瀬, 佐藤, 森口, 中山, 宇佐見 (教員計16名) 西村, 加城, 濱松 (職員計3名)
6	令和6年9月11日 ～9月20日 [遠隔]	・令和7年度入学者向け入学前オリエンテーションについて ・第5回大学教育開発センター委員会報告	FD	來海, 山中, 小澤, 田崎, 岩谷, 榎本, 田中, 吉川, 菅, 芦澤, 松本, 広瀬, 佐藤, 森口, 中山, 宇佐見 (教員計16名) 西村, 加城, 濱松 (職員計3名)
7	令和6年10月7日 ～10月18日 [遠隔]	・附属高等学校特別推薦入学者への入学前指導について	SD	來海, 山中, 小澤, 田崎, 岩谷, 榎本, 田中, 吉川, 菅, 芦澤, 松本, 広瀬, 佐藤, 森口, 中山, 宇佐見 (教員計16名) 西村, 加城, 濱松 (職員計3名)
		・学修成果把握に向けた外部調査の実施について	FD	

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
8	令和6年11月13日 ～11月25日 [遠隔]	・令和6年度理工学部教育推進 フォーラムの開催について	FD	來海, 山中, 小澤, 田崎, 岩谷, 榎本, 田中, 吉川, 菅, 芦澤, 松本, 広瀬, 佐藤, 森口, 中山, 宇佐見 (教員計16名) 西村, 加城, 濱松 (職員計3名)
各学科 FD・SD 会議				
数学科 FD・SD 会議				
1	令和6年6月20日	・障がい学生に対する合理的配慮	FD	植松, 内村, 大西, 小澤, 鍛冶, 許斐, 齊藤, 佐藤, 柴田, 田中, 土田, 富田, 長郷, 伯田, 橋本, 日比野, 前野, 三町, 村瀬 (計19名)
2	令和6年11月28日	・教育実習における学生指導	FD	植松, 内村, 大西, 小澤, 鍛冶, 齊藤, 佐藤, 柴田, 田中, 土田, 富田, 長郷, 伯田, 日比野, 前野, 三町, 村瀬 (計17名)
		・授業方法とその改善	SD	
電気電子工学科 FD・SD 会議				
1	令和6年4月11日	・遠隔講義について ・フレッシュマンセミナーについて	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 榊田, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計17名)
2	令和6年4月25日	・障がいのある学生への対応について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 榊田, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計17名)
3	令和6年5月23日	・卒業研究に関する行動記録について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 榊田, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計17名)
4	令和6年6月6日	・学業優秀学生について ・三者面談について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 榊田, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計17名)
5	令和6年6月20日	・成績不振者への対応について ・修士・卒研生の中間発表について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 榊田, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計17名)
6	令和6年7月11日	・入学前教育について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 榊田, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計17名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
7	令和6年9月5日	・高等教育における合理的配慮について ・MATLABのデータサイエンス活用について	SD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 榑田, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計17名)
		・GPAを用いた平準化について	FD	
8	令和6年9月19日	・遠隔講義方法について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 榑田, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計17名)
		・企業から見た大学教育について	SD	
9	令和6年11月7日	・卒論修論発表方法について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 榑田, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計17名)
10	令和6年11月28日	・授業改善アンケートについて	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 榑田, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計17名)
11	令和7年1月9日	・学生の成長を支える授業設計について	SD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 榑田, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計17名)
材料機能工学科 FD・SD 会議				
1	令和6年4月25日	・入試総括・大学院推薦基準確認	FD	宇佐美, 上山, 赤堀, 服部, 田中, 成塚, 六田, 今井, 榑本 (計9名)
2	令和6年5月23日	・学位授与方針・教育課程編成方針 対応表と履修系統図の自己点検実 施について ・改組関係について	FD	宇佐美, 上山, 成塚, 岩谷, 六田, 宮嶋, 田中, 今井, 服部, 榑本, 赤堀 (計11名)
3	令和6年6月20日	・理工学部・情報工学部の共同開講 解消について ・理工学部・情報工学部統一試験の 変更について ・2年生の個別面談について	FD	宇佐美, 上山, 竹内, 成塚, 岩谷, 宮嶋, 田中, 今井, 赤堀, 六田, 服部 (計11名)
4	令和6年9月19日	・JABEE 実地審査に向けての対応	FD	宇佐美, 服部, 榑本, 赤堀, 六田, 田中, 宮嶋 (計7名)
5	令和6年10月17日	・在学生ガイダンス, 侵入オリエン テーション, 卒論の取り組みなど について確認した ・材料機能工学実験Iの担当テーマ に関して議論した	FD	宇佐美, 榑本, 田中, 今井, 赤堀, 服部, 上山, 六田, 成塚 (計9名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
6	令和6年11月28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度シラバス作成について説明があった。詳細は資料2の通り。特にシラバスに遠隔講義を記載する必要があることが説明された。シラバスチェックが行われることもあわせて説明があった（教務委員+1名）</li> <li>・成績不振による強制面談学生の対応に関して</li> </ul>	FD	宇佐美, 上山, 竹内, 成塚, 岩谷, 宮嶋, 田中, 今井, 赤堀, 六田, 服部 (計11名)
7	令和6年12月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・副専攻制度の履修証明制度への変更について説明があった。所属学生が受講できるようになり, 半導体工学プログラム修了後に学修証明書が発行されるとの説明があり, 本履修証明制度案について了承が得られた。機械系プログラム等も設置してはどうかと提案があった。</li> <li>・卒業研究の研究室配属に関して</li> </ul>	FD	宇佐美, 上山, 成塚, 岩谷, 六田, 宮嶋, 田中, 今井, 服部, 榎本, 赤堀 (計11名)
応用化学科 FD・SD 会議				
1	令和6年4月11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義実施体制のあり方について</li> <li>・教員の在外研究制度利用時のサポート体制について</li> </ul>	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中, 谷口 (計10名)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科レクリエーション実施について</li> <li>・研究費用の配分について</li> </ul>	SD	
2	令和6年4月25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生受け入れ方針について</li> <li>・在籍期間が長期化した学生への対応について</li> <li>・学科設備の使用法について</li> </ul>	SD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 田浦, 田中, 谷口 (計9名)
3	令和6年5月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究設備充実について</li> <li>・セミナー開催環境整備について</li> </ul>	SD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中, 谷口 (計10名)
4	令和6年7月6日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常勤講師の担当科目について</li> </ul>	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中, 谷口 (計10名)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の受講態度の改善について</li> <li>・セミナー開催環境設備の充実</li> </ul>	SD	
5	令和6年7月25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常勤講師担当の講義の効率化について</li> <li>・卒業研究の発表日程について</li> </ul>	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中, 谷口 (計10名)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・副専攻制度の見直しについて</li> <li>・非常勤講師の選定</li> <li>・定期試験の実施方法について</li> </ul>	SD	
6	令和6年9月5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討について</li> </ul>	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中, 谷口 (計10名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
7	令和6年9月19日	・カリキュラムの進級要件の見直し	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中, 谷口 (計10名)
8	令和6年10月17日	・共同開講科目の整理 ・他学部・他学科履修許可科目の整理 ・学修成果の把握スケジュール	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中, 谷口 (計10名)
		・実験室・研究室の掲示 ・共有実験スペースの整理	SD	
9	令和6年11月28日	・講義における合理的配慮について ・非常勤講師の雇用方針 ・卒研着手の条件	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中, 谷口 (計10名)
		・カリキュラム修了に伴う資格整備 ・学科での助成金申請	SD	
10	令和6年12月19日	・副専攻制度の充実	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中, 谷口 (計10名)
機械工学科 FD・SD 会議				
1	令和6年4月11日	・入試総括, 分析について	FD	大島, 池本, 川村, 來海, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 松原, 横田, 吉川 (計13名)
2	令和6年5月23日	・遠隔講義のあり方について	FD	大島, アブラハ, 池本, 川村, 來海, 久保, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 松原, 横田, 吉川 (計 15名)
3	令和6年6月20日	・過年度生の履修について	FD	大島, アブラハ, 池本, 川村, 來海, 久保, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 松原, 横田, 吉川 (計15名)
4	令和6年7月25日	・初年度開講オムニバス科目につ いて	FD	アブラハ, 池本, 川村, 來海, 久保, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 松原, 横田, 吉川 (計14名)
5	令和6年9月5日	・FD・SD 学習会「高等教育におけ る合理的配慮」参加について ・FD セミナー「MATLAB を活用し た AI データサイエンス」参加に ついて	SD	大島, 池本, 川村, 來海, 久保, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 松原, 横田, 吉川 (計14名)
		・教員間もしくは授業科目間の成績 評価基準の平準化に係る検討につ いて	FD	

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
6	令和6年10月17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初年度開講オムニバス科目について</li> <li>・3年次開講科目「機械技術者倫理」について</li> <li>・学修成果の把握スケジュールについて</li> </ul>	FD	大島, アブラハ, 池本, 川村, 來海, 久保, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 横田, 吉川 (計14名)
7	令和6年11月28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年次開講非常勤講師担当科目について</li> <li>・シラバス表記について</li> <li>・卒論発表の実施方法について</li> <li>・webclassの活用方法について</li> </ul>	FD	大島, 池本, 川村, 久保, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 松原, 横田, 吉川 (計13名)
8	令和6年12月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・副専攻およびプログラムの創設について</li> <li>・3年次開講非常勤講師担当科目について</li> </ul>	FD	大島, アブラハ, 池本, 川村, 來海, 久保, 清水, 塚田, 古川, 松田, 松原, 横田, 吉川 (計13名)
9	令和7年1月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理工学部教育推進フォーラム参加について</li> </ul>	SD	大島, アブラハ, 池本, 川村, 來海, 久保, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 松原, 横田, 吉川 (計15名)
交通機械工学科 FD・SD 会議				
1	令和6年4月11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フレッシュマンセミナーの実施方法について</li> <li>・理的配慮が必要な学生への対応について</li> </ul>	SD	西村, 相馬, 鈴木, 中島, 大藏, 富岡, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾, 山崎, 早藤 (計14名)
2	令和6年4月25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのある学生への対応フローについて</li> </ul>	SD	西村, 相馬, 鈴木, 中島, 大藏, 富岡, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾, 山崎, 早藤 (計14名)
3	令和6年6月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム改正による科目名称の変更について</li> </ul>	FD	西村, 相馬, 鈴木, 中島, 大藏, 富岡, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾, 山崎, 早藤 (計14名)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・R6年度成績不振者への対応について</li> <li>・推薦入学者向けオリエンテーションの実施について</li> </ul>	SD	
4	令和6年7月11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員業績評価について</li> <li>・外部評価委員の委員選出について</li> </ul>	FD	西村, 鈴木, 中島, 大藏, 富岡, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾, 山崎, 早藤 (計13名)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度フレッシュマンセミナーについて</li> </ul>	SD	
5	令和6年7月24日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績不振学生呼び出しと面談の実施について</li> <li>・入学者前教育の科目及びコース設定について</li> </ul>	SD	西村, 相馬, 中島, 大藏, 富岡, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾, 山崎, 早藤 (計13名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
6	令和6年9月5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化について</li> <li>・アセスメントプランとアセスメントポリシーの確認について</li> <li>・外部評価委員会へのエビデンスの提出について</li> </ul>	FD	西村, 相馬, 鈴木, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾, 山崎 (計11名)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績不振者への面談実施の報告について</li> </ul>	SD	
7	令和6年9月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員間ネットワークの該当科目と構成メンバーの確認について</li> <li>・学科FD委員会各種WGのメンバーの確認について</li> </ul>	FD	西村, 相馬, 中島, 大藏, 富岡, 菅, 横谷, 菅野, 宮田, 村尾, 山崎 (計11名)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・PROGテストの実施方法について</li> <li>・アドミッションポリシーと入試方式の対応表の更新について</li> </ul>	SD	
8	令和6年10月3日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科内FD委員会各WGメンバーと教員間ネットワークのメンバーと該当科目の確認について</li> <li>・教員業績評価の集計について</li> </ul>	FD	西村, 相馬, 鈴木, 中島, 大藏, 富岡, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾, 山崎, 早藤 (計14名)
9	令和6年10月17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度 PROG テストの実施方法について</li> </ul>	SD	西村, 相馬, 鈴木, 中島, 大藏, 富岡, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 村尾, 山崎, 早藤 (計13名)
10	令和6年11月7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・附属高等学校特別推薦入学試験合格者への入学前指導について</li> </ul>	SD	西村, 相馬, 鈴木, 中島, 大藏, 富岡, 菅, 横谷, 山崎, 村尾, 早藤 (計11名)
11	令和6年11月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者への合理的配慮の義務化について</li> <li>・シラバスの記載方法と第三者チェックについて</li> </ul>	FD	西村, 相馬, 鈴木, 中島, 大藏, 富岡, 菅, 横谷, 菅野, 宮田, 村尾, 山崎, 早藤 (計13名)
12	令和6年11月28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善アンケートについて</li> <li>・外部評価委員会による点検に向けたエビデンスの準備について</li> <li>・教員間ネットワークの開催について</li> </ul>	FD	西村, 中島, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾, 山崎, 早藤 (計11名)
13	令和6年12月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理工学部教育推進フォーラムの開催について</li> <li>・教員間ネットワーク振動・制御分科会の報告について</li> </ul>	FD	西村, 相馬, 鈴木, 中島, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田, 村尾, 山崎 (計12名)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生 TOEIC の受験状況について</li> <li>・PROG テスト受験結果について</li> </ul>	SD	
14	令和7年1月9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生 TOEIC の再受験について</li> <li>・MS-26に関連した事業所見学会の計画について</li> </ul>	SD	西村, 相馬, 鈴木, 中島, 大藏, 富岡, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 村尾, 山崎, 早藤 (計13名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
メカトロニクス工学科 FD・SD 会議				
1	令和6年4月11日	・メンターの割り振りと面談について ・フレッシュマンセミナーの活用方法について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 佐藤 (計12名)
2	令和6年4月25日	・演習室の管理運営について ・推薦入試について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 佐藤 (計12名)
3	令和6年5月23日	・障がい学生の対応について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 佐藤 (計12名)
4	令和6年6月6日	・授業改善アンケート選定科目について ・演習科目のグループ分けと講義内容について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 佐藤 (計12名)
5	令和6年6月13日	・障がい学生に対する対応について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 佐藤 (計12名)
6	令和6年6月20日	・入学前オリエンテーションについて	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 佐藤 (計12名)
7	令和6年7月25日	・障がい学生の対応について ・時間割・科目担当について ・副専攻について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 佐藤 (計12名)
8	令和6年9月5日	・成績不振学生への対応について ・配慮が必要な学生への対応について ・成績分布の平準化について ・演習科目の運用について	FD	楊, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 星野, 佐藤 (計7名)
9	令和6年9月19日	・カリキュラムの切り替えについて ・演習科目の運用について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 目黒, 星野, 佐藤 (計10名)
10	令和6年10月3日	・講義内容でのノートPCの扱いについて	FD	楊, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 佐藤 (計10名)
11	令和6年10月17日	・オリエンテーション・ガイダンスについて ・学修成果の把握にむけた外部調査について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 佐藤 (計11名)
12	令和6年11月28日	・演習における製作物について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 佐藤 (計11名)
13	令和6年12月19日	・学修成果の把握にむけた外部調査の結果について ・卒業研究の実施方法について	FD	楊, 井上, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 佐藤 (計9名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
社会基盤デザイン工学科 FD・SD 会議				
1	令和6年4月11日	・「フレッシュマンセミナーの実施」について ・「卒業前意識調査集計」のまとめ	SD	石川, 岩下, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岡本 (計11名)
2	令和6年4月25日	・「指定校推薦」について	SD	石川, 岩下, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岡本 (計12名)
3	令和6年5月23日	・「講義欠席時の扱い」「入学後意識調査アンケート」について	FD	石川, 岩下, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岡本 (計12名)
4	令和6年6月20日	・「社会基盤デザインセミナーⅡ」の実施要領について	FD	石川, 岩下, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 岡本 (計10名)
		・「プレイズメントテストの結果」について	SD	
5	令和6年7月25日	・「社会基盤デザインセミナーⅡ」の実施計画について	SD	石川, 岩下, 葛, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岡本 (計11名)
6	令和6年9月5日	・教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討について	FD	石川, 岩下, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岡本 (計12名)
7	令和6年9月19日	・「令和7年度入試動向」「研究室配属」「副査面談」について	FD	石川, 岩下, 葛, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岡本 (計11名)
		・「令和5年分 JABBE 報告書」について	SD	
8	令和6年10月17日	・「入学試験基本事項」「GPS-Academic」について	SD	石川, 岩下, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岡本 (計11名)
9	令和6年11月28日	・「キャリアデザインと社会基盤デザイン総合演習Ⅰの実施方法」「副査面談」について	FD	石川, 岩下, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岡本 (計12名)
10	令和6年12月19日	・「副専攻制度」「次年度の実験科目の履修登録」「R6年度卒業関連行事」について	FD	石川, 岩下, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岡本 (計12名)
11	令和7年1月7日	・「定期試験に対する危機管理」について	SD	石川, 岩下, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岡本 (計12名)
環境創造工学科 FD・SD 会議				
1	令和6年4月11日	・卒業研究の実施方法	FD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤 (計10名)
2	令和6年6月20日	・数学相談室の開催	FD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤 (計10名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
3	令和6年7月25日	・合理的配慮に関するFD・SD学習会の開催	SD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤 (計10名)
		・MECプログラムの見直し, フローチャートの作成 ・新カリキュラムの必修科目の基本方針	FD	
4	令和6年9月5日	・成績評価基準の平準化 ・GPS-Academicの実施	FD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤 (計10名)
5	令和6年10月17日	・次年度の外部調査の実施について ・附属高等学校入学前指導の実施について	SD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤 (計10名)
6	令和6年11月28日	・GPS-Academicの結果について ・附属推薦入学者入学前指導の協力学生について	SD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤 (計10名)
		・授業改善アンケートの見直し	FD	
7	令和6年12月19日	・数学相談室の開催 ・理工学部教育推進フォーラムについて	FD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤 (計10名)
8	令和7年1月23日	・「コミュニケーションスキル」講義に関する意見交換	FD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤 (計10名)
建築学科 FD・SD会議				
1	令和6年4月11日	・スーパーサイエンスクラス修了生の受入について ・フレッシュマンセミナーについて	SD	武藤, 吉久, 高井, 寺西, 岡田, 石井, 生田, 谷田, 大塚, 平岩, 三浦, 高橋, 米澤, 松田, 佐藤, 萩原, 張 (計17名)
2	令和6年4月25日	・附属高等学校学部学科説明会について ・2025年度指定校推薦枠について	FD	武藤, 吉久, 高井, 寺西, 岡田, 石井, 生田, 吉永, 谷田, 大塚, 平岩, 三浦, 高橋, 米澤, 松田, 佐藤, 萩原, 張 (計18名)
3	令和6年5月9日	・CADデザインでの合理的配慮について ・エクステンション講座について	SD	武藤, 吉久, 高井, 寺西, 岡田, 石井, 生田, 吉永, 谷田, 大塚, 平岩, 三浦, 高橋, 米澤, 松田, 佐藤, 萩原, 張 (計18名)
4	令和6年6月20日	・転学部・転学科の出願条件強化について	FD	武藤, 吉久, 高井, 寺西, 石井, 生田, 吉永, 谷田, 大塚, 平岩, 三浦, 高橋, 米澤, 松田, 佐藤, 萩原, 張 (計17名)
5	令和6年7月11日	・外部評価委員について	FD	武藤, 吉久, 高井, 寺西, 生田, 吉永, 谷田, 大塚, 平岩, 三浦, 高橋, 米澤, 松田, 佐藤, 萩原, 張 (計16名)
		・ワークショップの授業について	SD	

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
6	令和6年7月25日	・副専攻制度について ・成績不振者への対応について	SD	武藤, 吉久, 高井, 寺西, 岡田, 石井, 生田, 吉永, 谷田, 大塚, 平岩, 三浦, 高橋, 米澤, 松田, 佐藤, 萩原, 張 (計18名)
7	令和6年9月5日	・2024年度の外部評価委員会について	FD	武藤, 吉久, 高井, 寺西, 生田, 吉永, 大塚, 平岩, 高橋, 米澤, 松田, 佐藤, 萩原, 張 (計14名)
8	令和6年10月10日	・外部評価委員会の内容について	FD	武藤, 吉久, 高井, 寺西, 岡田, 石井, 生田, 吉永, 谷田, 平岩, 三浦, 米澤, 松田, 佐藤, 萩原, 張 (計16名)
		・フレッシュマンセミナーについて	SD	
9	令和6年11月28日	・学科の備品設備について ・外部評価委員構成について	FD	武藤, 吉久, 寺西, 石井, 生田, 吉永, 谷田, 大塚, 三浦, 高橋, 米澤, 松田, 佐藤, 萩原, 張 (計15名)
		・学科カリキュラムの変更について ・授業評価アンケート改善について	SD	
10	令和6年12月19日	・建築学科の対外的PRの方策について	FD	武藤, 吉久, 高井, 寺西, 石井, 生田, 吉永, 谷田, 大塚, 平岩, 三浦, 高橋, 米澤, 松田, 佐藤, 萩原, 張 (計17名)
		・副専攻制度について ・ゼミ配属の時期変更について	SD	
教養教育 FD・SD 会議				
1	令和6年4月11日	・障がい学生に対する配慮依頼	FD	田中, 中村, 中山, 大久保, 森口, 山本, 本田, 加藤, 松本, 齊藤, 景山, 大知, 土屋, 長澤, 榎本, 神藤 (計16名)
2	令和6年4月25日	・障がいのある学生へ対応フローについて	FD	田中, 中村, 中山, 大久保, 森口, 山本, 本田, 加藤, 松本, 齊藤, 大知, 土屋, 遠藤, 長澤, 榎本, 鈴木, 神藤 (計17名)
3	令和6年5月23日	・障がいのある学生対応について	FD	田中, 中村, 中山, 大久保, 森口, 山本, 本田, 加藤, 松本, 齊藤, 景山, 大知, 土屋, 遠藤, 長澤, 榎本, 鈴木, 神藤 (計18名)
4	令和6年6月20日	・障がい学生の受講の配慮について	FD	田中, 中村, 中山, 大久保, 森口, 山本, 本田, 加藤, 松本, 齊藤, 景山, 大知, 遠藤, 長澤, 榎本, 鈴木, 神藤 (計17名)
5	令和6年7月25日	・教員業績評価について ・理工談話会の開催について ・FD・SD学習会の開催について ・合理的配慮を必要とする学生について	FD	中村, 田中, 土屋, 中山, 加藤, 齊藤, 遠藤, 鈴木, 森口, 山本, 松本, 本田, 景山, 神藤, 榎本, 大知, 長澤, 大久保 (計18名)
6	令和6年9月5日	・キャンパスハラスメント防止研修について ・成績評価基準の平準化について ・JABEE資料の提出について	FD	中村, 田中, 大久保, 景山, 神藤, 齊藤, 森口, 松本, 榎本, 長澤, 大知, 加藤, 鈴木, 遠藤, 中山 (計15名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
7	令和6年9月19日	・キャンパスハラスメント防止研修 について	FD	田中, 中村, 中山, 大久保, 森口, 山本, 本田, 加藤, 松本, 齊藤, 景山, 大知, 長澤, 榎本, 鈴木, 神藤, 土屋 (計17名)
8	令和6年11月29日	・喫煙スペースの問題について ・授業アンケートの改革について ・地区懇親会用のビデオ撮影につ いて ・卒業生のメールアドレス運用につ いて	FD	田中, 土屋, 中山, 加藤, 齊藤, 遠藤, 鈴木, 森口, 山本, 松本, 本田, 景山, 神藤, 榎本, 長澤, 大久保 (計16名)
9	令和6年12月19日	・理工学部教育推進フォーラムにつ いて	FD	田中, 大久保, 景山, 神藤, 齊藤, 森口, 松本, 榎本, 長澤, 大知, 加藤, 鈴木, 遠藤, 中山, 土屋, 本田, 山本 (計17名)

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 理工学研究科 ）

## 1. 令和6年度の活動報告

高等教育の改革に伴い、令和2年度から大学院博士（後期）課程において授業科目の単位制を導入した。これによりリサーチワークだけでなくコースワークとして特殊講義科目を設定し、博士（前期）課程・特論科目との連携体制を敷いた。このような連携により修士（博士前期）課程と博士（後期）課程が密接に関わり合い、学生の多様な要望に応える基盤となりうる。また、各専攻科の大学院FD・SD活動については、各学科のFD・SD会議において、合同で大学院FD・SDに関する議題の報告および審議を行っている。

理工学研究科では、各専攻FD・SD会議を中心として、修士課程の特論講義の実施方法、実験活動、学会発表などの教育研究分野において、コロナ禍で培った手法と従前の教育研究手法の良い点を組み合わせた教育が行われ、日常の教育や研究活動に社会状況や環境の影響を受けにくい堅牢な教育、研究環境を構築しつつある。

大学院生は国内外での積極的な学会発表により、大きな成長を遂げることが多い。近年は対面だけでなくハイブリッドでの学会開催やウェビナーなどのコロナ禍前には少なかった開催形態が多数行われており、学生の積極的な参加が容易になっている。それに伴い、参加者数も増えてきている。このような新しい環境においても学生が十分な力を発揮できる様に、発表方法や質疑応答、情報発信の方法などを指導し、各専攻FD・SD会議を中心として検討を行っている。

理工学分野における英語教育の重要性は、学際的情報を全世界に発信するという観点から必要不可欠である。入学条件としてもTOEIC受験を課し、理工学部3年在籍時に全学生が受験している。幅広くコミュニケーションを行う能力を追求するTOEICは、学際的情報発信という観点に立ち学生たちに大学院進学を意識させ、大学院の英語教育へと円滑に導く一翼を担うものである。このことに加え、各専攻で独自に開設する科学技術英語は、専門性を高めるとともに国際的に活動できる知識・能力をもつ若手研究者・技術者養成の礎となる。このように学部から大学院教育へと円滑に導く体制の整備活動を継続して実施している。

## 2. 今後の課題、方向性

大学院FD・SDの中心組織は、大学院理工学研究科教育改善委員会であり、各専攻FD・SD会議（各学科FD・SD会議と合同）と連絡を密にしながら理工学専攻科としての大学院FD・SD活動を推進する。「集中講義」については、専攻横断的な研究プロジェクトとして始め、教員間の研究プロジェクトを基盤として発足させ、学生に対する啓蒙を行い学生が自主的に参加して行くという方向性を出したが、新型コロナウイルス感染症の流行が始まった2020年以降十分な議論が進められていない。そのため、昨今の時代に即した内容となっているか経緯を含め再度確認し、実施について検討する必要がある。一方で教務委員会においては「特別講義Ⅰ・Ⅱ」の実施形態が

検討されていることもあり、単位制度のみに注目するのではなく、大学院生が早い段階で研究方針を立て、自ら実践して結果を得ることができる能力を身につけさせることが重要であり、教育偏重にならないように検討し、方向性を打ち出す必要がある。そして前述のような資質が得られた大学院生においては、修士・博士課程に早期修了の仕組みがあるため、それらの制度を利用することで柔軟なキャリア形成を後押しし、多くの高度人材を輩出していくことが重要と考えられる。

### 3. 活動記録

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
1	令和6年5月22日 ～5月24日 [遠隔]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度物理相談室について</li> <li>・令和6年度理工学部および理工学研究科の事業計画について、東海工学教育協会 会員入会のご案内</li> </ul>	FD  SD	来海, 山中, 小澤, 田崎, 岩谷, 榎本, 田中, 吉川, 菅, 芦澤, 松本, 広瀬, 佐藤, 森口, 中山, 宇佐見 (教員計16名) 東海林, 加城 (職員計2名)
2	令和6年6月17日 ～各締切日まで [遠隔]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FD・SD学習会「働き方を学びほぐすアンラーニング」への協力について</li> <li>・令和6年度物理相談室について</li> <li>・MECプログラムの見直し(推薦入学者向けの入学前教育)について</li> </ul>	FD	来海, 山中, 小澤, 田崎, 岩谷, 榎本, 田中, 吉川, 菅, 芦澤, 松本, 広瀬, 佐藤, 森口, 中山, 宇佐見 (教員計16名) 西村, 加城, 濱松 (職員計3名)
3	令和6年7月9日 ～7月16日 [遠隔]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度FD・SD活動報告書(中間)の作成について</li> <li>・令和5年度前期数学相談室の開催について</li> <li>・第4回大学教育開発センター委員会報告</li> </ul>	FD	来海, 山中, 小澤, 田崎, 岩谷, 榎本, 田中, 吉川, 菅, 芦澤, 松本, 広瀬, 佐藤, 森口, 中山, 宇佐見 (教員計16名) 西村, 加城, 濱松 (職員計3名)
4	令和6年7月9日 ～8月23日 [遠隔]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推薦入学者向けの入学前教育の科目選択と推奨コース</li> <li>・フローチャートの作成について</li> </ul>	FD	来海, 山中, 小澤, 田崎, 岩谷, 榎本, 田中, 吉川, 菅, 芦澤, 松本, 広瀬, 佐藤, 森口, 中山, 宇佐見 (教員計16名) 西村, 加城, 濱松 (職員計3名)
5	令和6年8月20日 ～9月13日 [遠隔]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討について</li> </ul>	FD	来海, 山中, 小澤, 田崎, 岩谷, 榎本, 田中, 吉川, 菅, 芦澤, 松本, 広瀬, 佐藤, 森口, 中山, 宇佐見 (教員計16名) 西村, 加城, 濱松 (職員計3名)
6	令和6年9月11日 ～9月20日 [遠隔]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度入学者向け入学前オリエンテーションについて</li> <li>・第5回大学教育開発センター委員会報告</li> </ul>	FD	来海, 山中, 小澤, 田崎, 岩谷, 榎本, 田中, 吉川, 菅, 芦澤, 松本, 広瀬, 佐藤, 森口, 中山, 宇佐見 (教員計16名) 西村, 加城, 濱松 (職員計3名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
7	令和6年10月7日 ～10月18日 [遠隔]	・附属高校特別推薦入学者への入学 前指導について	SD	來海, 山中, 小澤, 田崎, 岩谷, 榎本, 田中, 吉川, 菅, 芦澤, 松本, 広瀬, 佐藤, 森口, 中山, 宇佐見 (教員計16名) 西村, 加城, 濱松 (職員計3名)
		・学修成果把握に向けた外部調査の 実施について	FD	
8	令和6年11月13日 ～11月25日 [遠隔]	・令和6年度理工学部教育推進 フォーラムの開催について	FD	來海, 山中, 小澤, 田崎, 岩谷, 榎本, 田中, 吉川, 菅, 芦澤, 松本, 広瀬, 佐藤, 森口, 中山, 宇佐見 (教員計16名) 西村, 加城, 濱松 (職員計3名)
数学専攻 FD・SD 会議				
1	令和6年7月6日	・院生指導の基本的な考え方	SD	植松, 大西, 小澤, 鍛冶, 齊藤, 佐藤, 柴田, 田中, 土田, 富田, 長郷, 伯田, 日比野, 前野, 三町, 村瀬 (計16名)
電気電子工学専攻 FD・SD 会議				
1	令和6年4月11日	・遠隔講義について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 榑田, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計17名)
2	令和6年4月25日	・障がいのある学生への対応につ いて ・特別講義について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 榑田, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計17名)
3	令和6年6月20日	・修士・卒研生の間接発表について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 榑田, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計17名)
4	令和6年9月5日	・高等教育における合理的配慮につ いて ・MATLABのデータサイエンス活 用について	SD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 榑田, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計17名)
5	令和6年9月19日	・遠隔講義方法について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 榑田, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計17名)
		・企業から見た大学教育について	SD	
6	令和6年11月7日	・卒論修論発表方法について	FD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 榑田, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計17名)
7	令和7年1月9日	・学生の成長を支える授業設計につ いて	SD	伊藤, 内田, 太田, 熊谷, 児玉, 榑田, 平松, 堀田, 村田, 村本, 山中, 小林, 竹田, 田崎, 益田, 増山, 村上 (計17名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
材料機能工学専攻 FD・SD 会議				
1	令和6年4月25日	・入試総括・大学院推薦基準確認	FD	宇佐美, 上山, 赤堀, 服部, 田中, 成塚, 六田, 今井, 榎本 (計9名)
2	令和6年5月23日	・学位授与方針・教育課程編成方針 対応表と履修系統図の自己点検実施について ・改組関係について	FD	宇佐美, 上山, 成塚, 岩谷, 六田, 宮嶋, 田中, 今井, 服部, 榎本, 赤堀 (計11名)
3	令和6年6月20日	・理工学部・情報工学部の共同開講 解消について ・大学院入試に関して ・大学院特別講義について	FD	宇佐美, 上山, 竹内, 成塚, 岩谷, 宮嶋, 田中, 今井, 赤堀, 六田, 服部 (計11名)
4	令和6年11月28日	・大学院入試(2次)に関して	FD	宇佐美, 上山, 竹内, 成塚, 岩谷, 宮嶋, 田中, 今井, 赤堀, 六田, 服部 (計11名)
5	令和6年12月5日	・M1の中間発表に関して	FD	宇佐美, 上山, 岩谷, 服部, 榎本, 今井 (計6名)
6	令和6年12月19日	・修論公聴会に関して ・大学院入試に関して	FD	宇佐美, 上山, 成塚, 岩谷, 六田, 宮嶋, 田中, 今井, 服部, 榎本, 赤堀 (計11名)
応用化学専攻 FD・SD 会議				
1	令和6年4月11日	・講義実施体制のあり方について ・教員の在外研究制度利用時のサ ポート体制について	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中, 谷口 (計10名)
		・専攻レクリエーション実施 ・研究費用の配分について	SD	
2	令和6年4月25日	・講義の実施体制について	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中 (計9名)
		・学科設備の使用法について	SD	
3	令和6年5月23日	・科目担当者の調整	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中, 谷口 (計10名)
		・研究設備充実について ・セミナー開催環境整備について	SD	
4	令和6年7月25日	・公聴会日程について	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中, 谷口 (計10名)
		・非常勤講師の選定	SD	
5	令和6年9月5日	・教員間もしくは授業科目間の成績 評価基準の平準化に係る検討 ・次年度の開講スケジュール	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中, 谷口 (計10名)
6	令和6年10月17日	・実験室・研究室内の掲示 ・共有実験スペースの整理	SD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中, 谷口 (計10名)
7	令和6年11月28日	・次年度講義の回数確保の方針	FD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中, 谷口 (計10名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
8	令和6年12月19日	・定員充足に向けた広報方針	SD	丸山, 中村, 永田, 坂東, 池邊, 小澤, 才田, 田浦, 田中, 谷口 (計10名)
機械工学専攻 FD・SD 会議				
1	令和6年5月23日	・閉講科目について	FD	大島, アブラハ, 池本, 川村, 來海, 久保, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 松原, 横田, 吉川 (計15名)
2	令和6年6月20日	・特別講義について	FD	大島, アブラハ, 池本, 川村, 來海, 久保, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 松原, 横田, 吉川 (計15名)
3	令和6年9月5日	・FD・SD 学習会「高等教育における合理的配慮」参加について ・FD セミナー「MATLAB を活用した AI データサイエンス」参加について	SD	大島, 池本, 川村, 來海, 久保, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 松原, 横田, 吉川 (計14名)
4	令和6年11月28日	・シラバス記載について	FD	大島, 池本, 川村, 久保, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 松原, 横田, 吉川 (計13名)
交通機械工学専攻 FD・SD 会議				
1	令和6年4月11日	・大学院修士課程推薦入学試験学内推薦基準について	FD	西村, 相馬, 鈴木, 中島, 大藏, 富岡, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田 (計11名)
		・合理的配慮が必要な学生への対応について	SD	
2	令和6年4月25日	・障がいのある学生への対応フローについて	SD	西村, 相馬, 鈴木, 中島, 大藏, 富岡, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田 (計11名)
3	令和6年6月6日	・大学院修士課程推薦入学試験学内推薦基準の見直しについて	FD	西村, 相馬, 中島, 大藏, 富岡, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田 (計11名)
4	令和6年9月5日	・アセスメントプランとアセスメントポリシーの確認について	FD	西村, 相馬, 鈴木, 大藏, 菅, 横谷, 菅野, 仙場, 宮田 (計9名)
5	令和6年11月21日	・交通機械工学専攻のポリシーと担当教員の確認について ・学位授与基準(修士)について ・シラバスの記載方法と第三者チェックについて ・障がい者への合理的配慮の義務化について	FD	西村, 相馬, 鈴木, 中島, 大藏, 富岡, 菅, 横谷, 菅野, 宮田 (計10名)
6	令和7年1月9日	・MS-26に関連した事業所見学会の計画について	SD	西村, 相馬, 鈴木, 中島, 大藏, 富岡, 菅, 横谷, 菅野, 仙場 (計10名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
メカトロニクス工学専攻 FD・SD 会議				
1	令和6年4月25日	・演習室の管理運営について ・推薦入試について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 佐藤 (計12名)
2	令和6年5月23日	・障がい学生の対応について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 佐藤 (計12名)
3	令和6年6月13日	・障がい学生に対する対応について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 佐藤 (計12名)
4	令和6年6月20日	・推薦入試について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 佐藤 (計12名)
5	令和6年7月25日	・障がい学生の対応について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 佐藤 (計12名)
6	令和6年9月5日	・配慮が必要な学生への対応につ いて	FD	楊, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 星野, 佐藤 (計7名)
7	令和6年10月3日	・講義内容でのノートPCの扱いに ついて	FD	楊, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 佐藤 (計10名)
8	令和6年10月17日	・オリエンテーション・ガイダンス について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 佐藤 (計11名)
9	令和6年11月28日	・講義担当者について	FD	楊, 大原, 井上, 佐伯, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 佐藤 (計11名)
10	令和6年12月19日	・修士論文中間発表について	FD	楊, 井上, 関山, 芦澤, 市川, 畑, 目黒, 星野, 佐藤 (計9名)
社会基盤デザイン工学専攻 FD・SD 会議				
1	令和6年4月18日	・「令和7年度学位授与方針及び教育 課程編成方針対応表の確認」につ いて	FD	石川, 岩下, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岡本 (計12名)
2	令和6年6月20日	・R8年度以降の大学院特別講義に ついて	SD	石川, 岩下, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 岡本 (計10名)
3	令和6年7月25日	・大学院奨学生の選考方法について	SD	石川, 岩下, 葛, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岡本 (計11名)
4	令和6年9月19日	・「入学者受け入れ方針」について	FD	石川, 岩下, 葛, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岡本 (計11名)
5	令和6年12月19日	・「土木学会中部支部支部長賞」につ いて	SD	石川, 岩下, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岡本 (計12名)

回	日程	議題	FD・SD 区分	出席者氏名
6	令和7年1月7日	・「大学院入試」について	SD	石川, 岩下, 葛, 小高, 鈴木, 中村, 原田, 藤井, 松本, 溝口, 渡辺, 岡本 (計12名)
環境創造工学専攻 FD・SD 会議				
1	令和6年4月25日	・学位授与方針及び教育課程編成方針について	FD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤 (計10名)
2	令和6年6月20日	・修士論文進捗状況報告会の実施方法について	FD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤 (計10名)
3	令和6年9月5日	・アセスメントプランについて	FD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤 (計10名)
4	令和6年11月28日	・修士論文中間発表会および公聴会の実施方法について	FD	道正, 西山, 日比, 三宅, 吉村, 小塩, 片桐, 広瀬, 深川, 武藤 (計10名)
建築学専攻 FD・SD 会議				
1	令和6年4月25日	・科学技術英語について	SD	武藤, 吉久, 高井, 寺西, 岡田, 石井, 生田, 吉永, 谷田, 大塚, 平岩, 三浦, 高橋, 米澤, 松田, 佐藤, 萩原, 張 (計18名)
2	令和6年5月9日	・2024年度国際専門研修について	SD	武藤, 吉久, 高井, 寺西, 岡田, 石井, 生田, 吉永, 谷田, 大塚, 平岩, 三浦, 高橋, 米澤, 松田, 佐藤, 萩原, 張 (計18名)
3	令和6年7月11日	・外部評価委員について	FD	武藤, 吉久, 高井, 寺西, 生田, 吉永, 谷田, 大塚, 平岩, 三浦, 高橋, 米澤, 松田, 佐藤, 萩原, 張 (計16名)
4	令和6年9月5日	・2024年度の外部評価委員会内容について	FD	武藤, 吉久, 高井, 寺西, 生田, 吉永, 大塚, 平岩, 高橋, 米澤, 松田, 佐藤, 萩原, 張 (計14名)
5	令和6年12月5日	・大学院学生募集に向けたポスター制作について ・令和7年度国際専門研修プログラムの企画について	SD	武藤, 吉久, 高井, 寺西, 石井, 生田, 吉永, 谷田, 大塚, 平岩, 三浦, 高橋, 米澤, 松田, 佐藤, 萩原, 張 (計17名)

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 情報工学部 ）

## 1. 令和6年度の活動報告

数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）に係る取組として、新入生オリエンテーションでデータサイエンス・AI応用基礎サブカリキュラムの周知を行い、令和6年度入学者184名中181名の登録に至った。また、令和5年度データサイエンス・AI応用基礎サブカリキュラムの自己点検評価結果の周知や、オープンバッジの検討を行った。

教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る取組として、成績評価が著しく易しい科目および著しく厳しい科目の抽出、担当教員へのヒアリング調査などを踏まえた検討結果を取りまとめ、分析結果と効果的な改善策について周知した。

さらにGPS-Academicによる学修行動調査を実施し、その分析結果を教職員に共有するために、ベネッセiキャリアの外部講師を招いたSDミーティングを開催した。

## 2. 今後の課題、方向性

本学部で推進するPBL学習の学修効果を分析し、外部との連携を含めたPBL学習の継続的な改善の検討を行う。また、学生の主体的な参加を促す授業形態の導入状況を調査し、課題を抽出して組織内で共有する。

## 3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD区分	出席者
1	令和6年4月4日	データサイエンス・AI応用基礎サブカリキュラム登録の周知	FD	旭, 宇佐見, 亀谷, 川澄, 小中, 佐川, 鈴木, 高比良, 竹本, 田中, 寺本, 中野, 野崎, 坂野, 水沼, 向井, 柳田, 山田(啓), 山本, 吉川, 米澤, 楯, 山木, 大榎 計24名
2	令和6年4月8日	数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）申請に係る検討および申請書作成	FD	宇佐見, 鈴木, 高比良, 田中, 中野, 野崎, 米澤, 楯, 辻永, 山木 計10名
3	令和6年4月11日	データサイエンス・AI応用基礎サブカリキュラムに関する点検・評価結果の周知	FD	旭, 宇佐見, 川澄, 佐川, 鈴木, 高比良, 竹本, 田中, 寺本, 中野, 坂野, 水沼, 向井, 柳田, 山田(啓), 山田(宗), 山本, 吉川, 米澤, 楯, 辻永, 山木 計21名

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
4	令和6年5月23日	情報工学部におけるFD・SD取組の推進組織および具体的取組内容の周知	FD	旭, 宇佐見, 亀谷, 小中, 佐川, 鈴木, 高比良, 寺本, 中野, 野崎, 坂野, 水沼, 向井, 柳田, 山田(啓), 山田(宗), 山本, 吉川, 米澤, 楯, 辻永, 山木 計22名
5	令和6年7月19日	授業エビデンスの保存方法の検討	FD	宇佐見, 鈴木, 高比良, 田中, 野崎 計5名
6	令和6年7月30日	教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に関する検討	FD	宇佐見, 鈴木, 高比良, 田中, 野崎 計5名
7	令和6年8月28日	新入生の入学前教育に関する検討	FD	宇佐見, 鈴木, 高比良, 田中, 野崎 計5名
8	令和6年8月30日	GPS-Academicによる学修行動調査結果に関する検討	SD	宇佐見, 鈴木, 高比良, 田中, 野崎 計5名
9	令和6年9月5日	数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)認定の周知	FD	旭, 宇佐見, 亀谷, 小中, 佐川, 鈴木, 高比良, 竹本, 田中, 寺本, 中野, 野崎, 水沼, 向井, 柳田, 山田(啓), 山田(宗), 山本, 米澤, 楯, 辻永, 山木 計22名
10	令和6年9月19日	・数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)に係る情報工学部のオープンバッジデザインの検討 ・教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に関する検討結果の報告	FD	旭, 宇佐見, 亀谷, 川澄, 小中, 佐川, 鈴木, 高比良, 竹本, 田中, 寺本, 中野, 野崎, 坂野, 水沼, 向井, 柳田, 山田(啓), 山本, 吉川, 米澤, 楯, 辻永, 山木 計24名
11	令和6年10月8日	GPS-Academic実施報告書の作成	SD	宇佐見, 鈴木, 高比良, 田中, 野崎 計5名
12	令和6年10月17日	数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)に係る情報工学部オープンバッジのメタデータ検討結果の報告	FD	旭, 宇佐見, 亀谷, 川澄, 小中, 佐川, 鈴木, 高比良, 竹本, 田中, 寺本, 野崎, 坂野, 水沼, 向井, 柳田, 山田(啓), 山田(宗), 山本, 吉川, 米澤, 楯, 辻永, 山木 計24名
13	令和6年10月24日	GPS-Academic実施報告	SD	旭, 宇佐見, 亀谷, 川澄, 小中, 佐川, 鈴木, 竹本, 田中, 寺本, 中野, 野崎, 坂野, 水沼, 向井, 柳田, 山田(啓), 山田(宗), 山本, 吉川, 米澤, 楯, 辻永, 山木 計24名
14	令和6年10月31日	学修行動調査や外部テスト等の評価結果をもとに教育課程及びその内容, 方法における課題の抽出と対策の検討	FD	宇佐見, 鈴木, 高比良, 田中, 野崎 計5名

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
15	令和6年10月31日	情報工学部SDミーティング「今年度の情報工学部1年次・3年次のGPS-Academic受験結果について」の実施	SD	旭, 宇佐見, 高比良, 竹本, 田中, 野崎, 坂野, 水沼, 向井, 柳田, 山田(啓), 山田(宗), 山本, 吉川, 大榎, 楯, 山木 計17名
16	令和7年1月9日	授業エビデンスの保存方法の周知	FD	旭, 宇佐見, 亀谷, 川澄, 小中, 佐川, 鈴木, 高比良, 竹本, 田中, 寺本, 中野, 野崎, 坂野, 水沼, 向井, 柳田, 山田(啓), 山田(宗), 山本, 吉川, 米澤, 辻永, 山木 計24名

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 農学部 ）

## 1. 令和6年度の活動報告

農学部は、生物資源学科、応用生物化学科、生物環境科学科の各学科会議および農場教員会議を分科会と位置づけFD・SD活動に取り組んでいる。これらの分科会および分科会を統括する教授会において、学生の修学および生活について教職員間で意見交換を行い、農学部のディプロマ・ポリシーに基づく教育および研究活動の充実を行っている。具体的な取り組みとして、定例で開催されている学科会議や農場教員会議等において、教育改善のための意見交換を行い、授業満足度調査からの授業内容のほかに、実験実習、研究活動、キャリア教育などの充実も視野に入れ、総合的な教育改善を検討し推進している。そのために、学部FD・SD委員を中心に現状を分析し、各学科にて改善策を講じ、学務委員会や学部FD・SD委員会でそれらをまとめてカリキュラムの検討・検証および、同系の授業科目群の目標を設定し、それらを各教員が教育や研究に反映する。学科および農場に共通する案件については学部教授会等の時間に学部全教員で情報交換することで、教育改善への具体的取り組みについてのイメージを共有できるようにする。さらに、本年度より障がいを持つ学生への配慮、対応についてきめ細かな情報共有を図り、その対応について検討を進めている。

## 2. 今後の課題、方向性

経常的な課題として、入試区分や入学時の成績、在学中のGPAベースでの成績、キャリア形成支援に至る学生個別のポートフォリオを作成することで、より学修行動に限定せず、学生そのものの属性と動向を紐付け調査し、教育効果を高める方法について検討する必要がある。そのため、入試委員会、学務委員会、キャリア委員会との連携が必要である。さらに、上記の通り、引き続き障がいを持つ学生への配慮、対応についてきめ細かな情報共有を図り、その対応について検討を進めていく。

今後も学科会議および農場教員会議単位での検討体制に変わりなく、従来からの一貫性と継続性を強く意識した対応の在り方を模索する。また、個別の学科に限定せず、学科横断的に検討すべき、ならびに学部全体で取り組むべき、ひいては大学院教育ともリンケージさせた対応を提言する、という立場から、農学部FD・SD委員会で積極的に情報交換を行うこととする。

遠隔授業の実施を経て、学部や学科等の組織単位ならびに教員個々の単位でメリットとデメリットが蓄積され、原則講義は対面で実施することが決定している。今後オンライン授業が浸透した中高生に対して、大学の講義の在り方について議論する必要がある。

### 3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
部1	令和6年4月11日	第1回農学部教授会 ・学生の満足度（学生アンケート結果報告書から）(運) ・障がい学生支援について（前年度からの更新手続き）(障) ・障がい学生支援について（配慮申請があった際の対応）(障)	FD SD SD	氏田（学部長） 教授：磯井、上船、氏田、大浦、奥村、長田、加藤、近藤、鈴木、田村、塚越、津呂、新妻、林（利）、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山口 准教授：天野、荒川、太田垣、香村、兒島、志水、藤、中尾、橋本、濱本、林（義）、平見、細田、森田（隆）、森田（裕） 助教：黒川、辻本、長澤、植崎、藤原、武藤（計：43名）
部2	令和6年4月25日	第2回農学部教授会 ・障がい学生支援について（配慮申請の申し出状況）(障)	SD	氏田（学部長） 教授：磯井、上船、氏田、大浦、奥村、長田、加藤、近藤、鈴木、田村、塚越、津呂、新妻、林（利）、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山口 准教授：荒川、太田垣、香村、兒島、志水、藤、中尾、橋本、濱本、林（義）、平見、細田、森田（隆）、森田（裕） 助教：黒川、近澤、辻本、長澤、植崎（計：40名）
部3	令和6年5月23日	第3回農学部教授会 ・各学科の教員編成方針について（報） ・障がい学生のオンライン学修ルール ・学生の懲戒ガイド（学） ・各学部・研究科等におけるFD・SD活動の実施について（開） ・令和6年度FD・SDフォーラム/FD・SD学習会の年間予定について（開） ・令和6年度前期授業改善アンケートについて（開） ・令和6年度FD・SD活動の刊行物の発刊について（開） ・令和6年度名城大学教育年報（教育実践報告）募集要項について（開）	FD SD FD FD FD FD FD FD	氏田（学部長） 教授：磯井、上船、氏田、大浦、奥村、長田、加藤、近藤、鈴木、田村、塚越、津呂、新妻、林（利）、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山口 准教授：天野、荒川、太田垣、香村、兒島、志水、藤、中尾、橋本、濱本、林（義）、平見、森田（隆）、森田（裕） 助教：黒川、近澤、辻本、長澤、藤原、武藤（計：42名）

回	日 程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
部 4	令和 6 年 6 月 13 日	<p>第 4 回農学部教授会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学前オリエンテーションの実施に係わる在り方について（開）</li> <li>・配慮申請者の「試験上の配慮」に関する周知（学）</li> </ul>	FD SD	<p>氏田（学部長）</p> <p>教授：磯井、上船、氏田、大浦、奥村、長田、加藤、近藤、鈴木、田村、塚越、津呂、新妻、林（利）、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山口</p> <p>准教授：天野、荒川、太田垣、香村、兒島、志水、藤、中尾、橋本、濱本、林（義）、平児、細田、森田（隆）、森田（裕）</p> <p>助教：近澤、辻本、長澤、檜崎、藤原、武藤（計：43名）</p>
部 5	令和 6 年 6 月 27 日	<p>第 5 回農学部教授会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学前オリエンテーションの実施に係わる在り方について（継続審議）（開）</li> <li>・成績不振者への対応基準の見直し結果の報告（学）</li> </ul>	FD FD	<p>氏田（学部長）</p> <p>教授：磯井、上船、氏田、大浦、奥村、長田、加藤、近藤、鈴木、田村、塚越、津呂、新妻、林（利）、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山口</p> <p>准教授：天野、荒川、太田垣、香村、兒島、志水、藤、中尾、橋本、濱本、林（義）、平児、細田、森田（隆）、森田（裕）</p> <p>助教：黒川、近澤、辻本、長澤、藤原、武藤（計：43名）</p>
部 6	令和 6 年 7 月 11 日	<p>第 6 回農学部教授会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい学生支援について第三者から質問のあった場合への対応方針を決定（学）</li> <li>・障がい学生に関わる研修会の案内（障）</li> <li>・各学部・研究科における FD・SD 活動報告（中間）の作成について関係委員などに作業依頼（開）</li> <li>・附属高校特別推薦入学試験合格者を対象とした企画の見直しについて（開）</li> <li>・令和 6 年度前期授業改善アンケートの実施について（開）</li> <li>・GPS-Academic 受検者向けのオンデマンド解説動画について（開）</li> <li>・第 20 回 FD・SD 学習会の周知について</li> </ul>	SD SD FD FD FD SD	<p>氏田（学部長）</p> <p>教授：磯井、上船、氏田、奥村、長田、加藤、近藤、鈴木、田村、塚越、津呂、新妻、林（利）、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山口</p> <p>准教授：荒川、太田垣、香村、兒島、志水、藤、中尾、橋本、濱本、平児、細田、森田（隆）、森田（裕）</p> <p>助教：黒川、近澤、辻本、長澤、檜崎、藤原、武藤（計：41名）</p>

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
部7	令和6年7月25日	第7回農学部教授会 ・ハラスメント防止委員会報告	SD	氏田(学部長) 教授: 磯井、上船、氏田、大浦、奥村、加藤、近藤、鈴木、田村、塚越、津呂、新妻、林(利)、平野、前林、松儀、村野、森上、山口 准教授: 荒川、太田垣、香村、兒島、志水、藤、中尾、橋本、濱本、林(義)、平見、細田、森田(隆)、森田(裕) 助教: 黒川、近澤、辻本、長澤、藤原、武藤(計: 40名)
部8	令和6年9月5日	第8回農学部教授会 ・教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化に係る検討(学) ・障がい学生に対する受講上および評価上の配慮について(障) ・第12回東海地区障害学生支援フォーラム大会の開催について	FD SD SD	氏田(学部長) 教授: 上船、氏田、大浦、奥村、長田、近藤、田村、津呂、新妻、林(利)、平野、前林、湊、森上 准教授: 天野、太田垣、香村、兒島、藤、中尾、橋本、濱本、林(義)、平見、細田、森田(隆)、森田(裕) 助教: 近澤、辻本、長澤、檜崎、武藤(計: 33名)
部9	令和6年10月3日	第9回農学部教授会 ・附属高校特別推薦入学試験合格者を対象とした企画の見直し(開) ・令和7年度入学者向け入学前オリエンテーションの概要(開) ・令和6年度前期授業改善アンケート集計結果(開) ・第20回FD・SD学習会実施報告(開)	FD FD FD FD	氏田(学部長) 教授: 磯井、上船、氏田、大浦、奥村、長田、近藤、鈴木、田村、塚越、津呂、新妻、林(利)、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山口 准教授: 天野、荒川、太田垣、香村、兒島、志水、藤、中尾、橋本、濱本、林(義)、平見、細田、森田(隆)、森田(裕) 助教: 黒川、近澤、辻本、長澤、藤原、武藤(計: 42名)
部10	令和6年10月17日	第10回農学部教授会 ・障がい学生対応ガイドラインの改正案について(障) ・令和7年度学修成果の把握にむけた外部調査の実施の希望調査(開) ・令和7年度入学者向け入学前オリエンテーションの実施方法について(開)	SD FD FD	氏田(学部長) 教授: 磯井、上船、氏田、大浦、奥村、長田、加藤、近藤、鈴木、田村、塚越、津呂、新妻、林(利)、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山口 准教授: 天野、荒川、太田垣、香村、兒島、志水、藤、中尾、橋本、濱本、平見、細田、森田(隆)、森田(裕) 助教: 黒川、近澤、辻本、長澤、檜崎、藤原、武藤(計: 44名)

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
部11	令和6年11月14日	第11回農学部教授会 ・授業評価アンケートの見直しについて(開) ・障がい学生支援に関するガイドライン改訂に対する農学部の意見について(障) ・令和6年度前期授業改善アンケートの結果について(開)	FD SD FD	氏田(学部長) 教授:磯井、上船、氏田、大浦、奥村、長田、加藤、近藤、田村、塚越、津呂、新妻、林(利)、前林、松儀、湊、森上、山口 准教授:天野、荒川、太田垣、香村、兒島、志水、中尾、橋本、濱本、平児、森田(隆)、森田(裕) 助教:黒川、近澤、辻本、長澤、檜崎、藤原、武藤(計:38名)
部12	令和6年11月28日	第12回農学部教授会 ・授業改善アンケートの見直しについて(継続)(開) ・ハラスメントの防止について(ハラスメント防止研修)(学部長)	FD FD	氏田(学部長) 教授:磯井、上船、氏田、大浦、奥村、長田、加藤、田村、塚越、津呂、新妻、林(利)、前林、松儀、湊、森上、山口 准教授:天野、荒川、太田垣、香村、兒島、中尾、橋本、濱本、平児、森田(隆)、森田(裕) 助教:近澤、辻本、長澤、檜崎、藤原、武藤(計:35名)
部13	令和6年12月12日	第13回農学部教授会 ・障がい学生ガイドラインの修正案の検討状況の報告、教職員対象研修会の実施案内等(障) ・学科における論文・レポートの書き方について(学部長)	SD	氏田(学部長) 教授:磯井、上船、氏田、大浦、奥村、長田、加藤、近藤、鈴木、田村、塚越、津呂、新妻、林(利)、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山口 准教授:天野、荒川、太田垣、香村、兒島、志水、藤、中尾、橋本、濱本、平児、細田、森田(隆)、森田(裕) 助教:近澤、辻本、長澤、檜崎、藤原、武藤(計:42名)
資1	令和6年4月25日	第2回生物資源学科会議 ・教育組織編成方針 ・障がい学生について ・令和6年度のFD・SD取組の推進組織について	FD SD FD	上船(学科長)、森上、平野、津呂、鈴木、荒川、太田垣、兒島、塚越、平児、黒川、武藤(計:12名)
資2	令和6年5月23日	第3回生物資源学科会議 ・障がい学生対応について ・学位授与方針対応表に掲載される履修系統図の表記について	SD FD	上船(学科長)、森上、平野、津呂、鈴木、荒川、太田垣、兒島、塚越、平児、黒川、藤原、武藤(計:13名)
資3	令和6年6月13日	第4回生物資源学科会議 ・障がい学生対応について	SD	上船(学科長)、森上、平野、津呂、鈴木、塚越、荒川、太田垣、兒島、平児、藤原、武藤(計:12名)
資4	令和6年6月27日	第5回生物資源学科会議 ・障がい学生対応について	SD	上船(学科長)、森上、平野、津呂、鈴木、塚越、荒川、太田垣、兒島、平児、藤原、黒川、武藤(計:13名)

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
資5	令和6年7月11日	第6回生物資源学科会議 ・障がい学生支援委員会の設置について ・論文・レポートの書き方の指導について	SD FD	上船(学科長)、森上、平野、津呂、鈴木、塚越、荒川、太田垣、兒島、平児、藤原、黒川、武藤(計:13名)
資6	令和6年7月25日	第7回生物資源学科会議 ・農学部障がい学生支援委員会の設置について	SD	上船(学科長)、森上、平野、津呂、鈴木、塚越、荒川、太田垣、兒島、平児、藤原、黒川、武藤(計:13名)
資7	令和6年9月5日	第8回生物資源学科会議 ・GPS-Academicについて ・論文・レポートの書き方の指導における引用文献について ・ハラスメント防止委員より	FD FD SD	上船(学科長)、森上、平野、津呂、太田垣、兒島、平児、武藤(計:8名)
資8	令和6年9月12日	第10回生物資源学科会議 ・障がい学生支援の面談結果について	SD	上船(学科長)、森上、平野、津呂、鈴木、塚越、荒川、太田垣、兒島、平児、藤原、黒川、武藤(計:13名)
資9	令和6年9月24日	第11回生物資源学科会議(メール) ・障がい学生に関する様式5について	SD	上船(学科長)、森上、平野、津呂、鈴木、塚越、荒川、太田垣、兒島、平児、藤原、黒川、武藤(計:13名)
資10	令和6年10月3日	第12回生物資源学科会議 ・障がい学生に関する対応の経過について	SD	上船(学科長)、森上、平野、津呂、鈴木、塚越、荒川、太田垣、兒島、平児、藤原、黒川、武藤(計:13名)
資11	令和6年10月17日	第13回生物資源学科会議 ・障がい学生支援ガイドラインの改訂について	SD	上船(学科長)、森上、平野、津呂、鈴木、塚越、荒川、太田垣、兒島、平児、藤原、黒川、武藤(計:13名)
資12	令和6年11月14日	第14回生物資源学科会議 ・授業改善アンケートの見直しについて ・様式5の記載内容の追加について	FD SD	上船(学科長)、森上、津呂、塚越、荒川、太田垣、兒島、平児、藤原、黒川、武藤(計:11名)
資13	令和6年12月9日	第16回生物資源学科会議(メール) ・農学部障がい学生支援委員会の設置について	SD	上船(学科長)、森上、平野、津呂、鈴木、塚越、荒川、太田垣、兒島、平児、藤原、黒川、武藤(計:13名)
資14	令和6年12月24日	第18回生物資源学科会議 ・定期試験上の配慮に関する様式5について ・修了時アンケートについて ・ハラスメントにおける注意喚起	SD FD FD	上船(学科長)、森上、平野、鈴木、荒川、太田垣、兒島、平児、武藤(計:9名)
資15	令和7年1月9日	第19回生物資源学科会議 ・農学部障がい学生支援委員会の設置について	FD	上船(学科長)、森上、平野、津呂、鈴木、塚越、荒川、太田垣、兒島、平児、藤原、武藤(計:12名)
資16	令和7年2月27日	第21回生物資源学科会議 ・2025年度GPS-Academicについて	FD	上船(学科長)、森上、平野、津呂、鈴木、塚越、荒川、太田垣、兒島、平児、藤原、武藤(計:12名)

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
化1	令和6年4月11日	第1回応用生物化学科会議 ・教員組織の編成方針について ・2年次ミキサーについて	FD FD	湊(学科長)、加藤、奥村、林(利)、 前林、松儀、山口、天野、志水、 濱本、長澤(計:11名)
化2	令和6年4月25日	第2回応用生物化学科会議 ・教員組織の編成方針について(継続) ・オープンキャンパスについて ・農学部指定校推薦入試制度の在り方について ・学生会との折衝について ・2024年度研究室配属スケジュールについて ・障がいをもつ学生について	FD FD FD FD SD	湊(学科長)、奥村、林(利)、前林、 松儀、山口、天野、志水、濱本、 近澤、長澤(計:11名)
化3	令和6年5月23日	第3回応用生物化学科会議 ・令和5年度研究室配属スケジュールについて(継続) ・学位授与方針対応表の自己点検について ・オープンキャンパスについて(継続)	FD FD FD	湊(学科長)、加藤、奥村、林(利)、 前林、松儀、山口、天野、志水、 濱本、近澤、長澤(計:12名)
化4	令和6年6月13日	第4回応用生物化学科会議 ・研究室配属説明会について ・学科における論文・レポートの書き方と参考文献の記載方法の統一について	FD FD	湊(学科長)、加藤、奥村、林(利)、 前林、松儀、山口、天野、志水、 濱本、近澤、長澤(計:12名)
化5	令和6年6月27日	第5回応用生物化学科会議 ・学科における論文・レポートの書き方と参考文献の記載方法の統一について(継続) ・障がい学生の受講上の配慮のお願いについて	FD SD	湊(学科長)、奥村、林(利)、前林、 松儀、山口、天野、志水、濱本、 長澤(計:10名)
化6	令和6年7月11日	第6回応用生物化学科会議 ・2024年度学部生の研究室配属について ・障がい学生支援委員会の設置について	FD SD	湊(学科長)、奥村、林(利)、前林、 松儀、山口、天野、志水、濱本、 長澤(計:10名)
化7	令和6年9月5日	第7回応用生物化学科会議 ・不機嫌ハラスメントについての研修 ・レポート等における不正行為について	FD FD	湊(学科長)、奥村、林(利)、長澤、 前林、天野、濱本、近澤(計:8名)
化8	令和6年9月12日	第8回応用生物化学科会議 ・不機嫌ハラスメントについての研修(継続)	FD	湊(学科長)、奥村、林(利)、長澤、 前林、天野、松儀、山口、濱本、 近澤(計:10名)

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
化9	令和6年10月3日	第9回応用生物化学科会議 ・レポート等における不正行為について（継続） ・学科における論文・レポートの書き方と参考文献の記載方法の統一について ・農学部・農学研究科における生成AIの利活用に関する指針について	FD FD FD	湊（学科長）、奥村、林（利）、長澤、前林、天野、松儀、山口、濱本、志水、近澤（計：11名）
化10	令和6年10月17日	第10回応用生物化学科会議 ・障がい学生支援体制について	SD	湊（学科長）、奥村、林（利）、長澤、前林、天野、松儀、山口、濱本、加藤、志水、近澤（計：12名）
化11	令和6年11月14日	第11回応用生物化学科会議 ・2025年度授業アンケートの改討について ・実験・実習における受講生に関する情報共有について	FD FD	湊（学科長）、奥村、林（利）、長澤、前林、天野、松儀、山口、濱本、加藤、志水、近澤（計：12名）
化12	令和6年11月28日	第12回応用生物化学科会議 ・学生のレポート不正への対応について ・学生の配慮申請について	FD SD	湊（学科長）、奥村、林（利）、長澤、前林、天野、松儀、山口、濱本、加藤、志水、近澤（計：12名）
化13	令和7年1月9日	第14回応用生物化学科会議 ・学生実験における就学支援について ・学生への合理的配慮について	FD SD	湊（学科長）、奥村、林（利）、前林、天野、松儀、山口、濱本、加藤、志水、近澤（計：11名）
化14	令和7年1月28日	第15回応用生物化学科会議 ・学生実験における就学支援について（継続） ・学生への合理的配慮について（継続）	FD SD	湊（学科長）、奥村、林（利）、長澤、前林、天野、松儀、山口、濱本、加藤、志水、近澤（計：12名）
環1	令和6年4月1日 ～3日	第1回生物環境科学科会議（メール審議） ・障がい学生の受講上の配慮申請について	SD	磯井（学科長）、長田、辻本、新妻、大浦、村野、近藤、藤、田村、細田、橋本、檜崎（計：12名）
環2	令和6年4月11日	第2回生物環境科学科会議 ・教員組織の編成方針について ・2024年度事業計画について ・1年生オリエンテーションについて ・配慮が必要な学生について	FD FD SD SD	磯井（学科長）、長田、辻本、新妻、大浦、村野、近藤、藤、田村、細田、橋本、檜崎（計：12名）
環3	令和6年4月25日	第3回生物環境科学科会議 ・教員組織の編成方針について ・配慮が必要な学生について ・3年生ミキサーについて	FD SD SD	磯井（学科長）、長田、辻本、新妻、大浦、村野、近藤、藤、田村、細田、橋本、檜崎（計：12名）
環4	令和6年5月30日 ～6月1日	第5回生物環境科学科会議（メール審議） ・障がい学生への配慮（様式5（案））の修正について	SD	磯井（学科長）、長田、辻本、新妻、大浦、村野、近藤、藤、田村、細田、橋本、檜崎（計：12名）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
環5	令和6年6月13日	第6回生物環境科学科会議 ・カーボンニュートラル関連授業の調査について ・論文・レポートの書き方と参考文献の記載方法の統一について	FD FD	磯井（学科長）、長田、辻本、新妻、大浦、村野、近藤、藤、田村、細田、橋本、榑崎（計：12名）
環6	令和6年6月27日	第7回生物環境科学科会議 ・配慮が必要な学生の定期試験対応について	SD	磯井（学科長）、長田、辻本、新妻、大浦、村野、近藤、藤、田村、細田、橋本（計：11名）
環7	令和6年7月11日	第8回生物環境科学科会議 ・副指導教員について ・新入生オリエンテーション資料について	SD SD	磯井（学科長）、長田、辻本、新妻、村野、近藤、藤、田村、細田、橋本、榑崎（計：11名）
環8	令和6年9月19日	第10回生物環境科学科会議 ・配慮が必要な学生について ・レポート等における不正行為について	SD SD	磯井（学科長）、長田、辻本、新妻、村野、近藤、藤、田村、細田、大浦、橋本、榑崎（計：12名）
環9	令和6年10月3日	第11回生物環境科学科会議 ・配慮が必要な学生について ・学割証の不正使用について ・レポート等における不正行為について ・生成AIの利活用に関する指針について	SD SD SD SD	磯井（学科長）、長田、辻本、新妻、村野、近藤、藤、田村、細田、大浦、橋本、榑崎（計：12名）
環10	令和6年10月17日	第12回生物環境科学科会議 ・2025年度入学者目標人数について ・配慮が必要な学生について ・論文・レポートの書き方について	FD SD SD	磯井（学科長）、長田、辻本、新妻、村野、近藤、藤、田村、細田、大浦、橋本、榑崎（計：12名）
環11	令和6年11月14日	第13回生物環境科学科会議 ・生成AIの利活用に関する指針について ・学生への「研究者倫理教育」の実施について ・授業改善アンケートの見直しについて	SD SD SD	磯井（学科長）、長田、辻本、新妻、近藤、田村、大浦、橋本、榑崎（計：9名）
環12	令和6年11月28日	第14回生物環境科学科会議 ・新規採用教員の指導生について ・2023年度修了時アンケートについて ・2025年度事業計画書について	SD SD FD	磯井（学科長）、長田、辻本、新妻、藤、田村、細田、大浦、村野、橋本、榑崎（計：11名）
環13	令和6年12月12日	第15回生物環境科学科会議 ・ハラスメント防止対策について	SD	磯井（学科長）、長田、辻本、新妻、近藤、藤、田村、細田、大浦、村野、橋本、榑崎（計：12名）
環14	令和7年1月9日	第16回生物環境科学科会議 ・ハラスメント防止対策について ・2027年度入試一般選抜の見直しについて	SD FD	磯井（学科長）、長田、辻本、新妻、藤、田村、細田、大浦、村野、橋本、榑崎（計：11名）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
環15	令和7年1月23日	第17回生物環境科学科会議 ・ハラスメント防止対策について ・農学部障がい学生支援委員会の設置について ・指定校について	SD SD FD	磯井(学科長)、長田、辻本、新妻、近藤、藤、田村、細田、大浦、村野、橋本、榑崎(計:12名)
環16	令和7年2月13日	第18回生物環境科学科会議 ・指導教員面談について	SD	磯井(学科長)、長田、辻本、新妻、近藤、藤、田村、細田、大浦、村野、橋本、榑崎(計:12名)
農1	令和6年4月3日	第1回農場教員会議 ・農場教員編成方針について ・FD・SD活動について	FD FD	林(利)(農場長)、中尾、森田(隆)、林(義)、森田(裕)、増中、大塚(計:7名)
農2	令和6年5月1日	第2回農場教員会議 ・農場教員編成方針について ・FD・SD活動について	FD FD	林(利)(農場長)、林(義)、中尾、森田(隆)、森田(裕)、大塚(計:6名)
農3	令和6年6月5日	第3回農場教員会議 ・FD・SD活動について	FD	林(利)(農場長)、林(義)、中尾、森田(隆)、森田(裕)、増中、大塚(計:7名)
農4	令和6年7月3日	第4回農場教員会議 ・FD・SD活動について	FD	林(利)(農場長)、林(義)、中尾、森田(隆)、森田(裕)、増中、大塚(計:7名)
農5	令和6年8月7日	第5回農場教員会議 ・FD・SD活動について	FD	林(利)(農場長)、森田(隆)、森田(裕)、増中、大塚(計:5名)
農6	令和6年9月4日	第6回農場教員会議 ・FD・SD活動について	FD	林(利)(農場長)、林(義)、森田(隆)、森田(裕)、増中、大塚(計:6名)
農7	令和6年10月2日	第7回農場教員会議 ・FD・SD活動について	FD	林(利)(農場長)、林(義)、中尾、森田(隆)、森田(裕)、増中、大塚(計:7名)
農8	令和6年11月6日	第8回農場教員会議 ・令和7年度施設設備改修工事の要求について ・FD・SD活動について	FD FD	林(利)(農場長)、林(義)、中尾、森田(隆)、森田(裕)、増中、大塚(計:7名)
農9	令和6年12月4日	第9回農場教員会議 ・FD・SD活動について	FD	林(利)(農場長)、林(義)、中尾、森田(隆)、森田(裕)、増中、大塚(計:7名)
農10	令和7年1月8日	第10回農場教員会議 ・日本農業技術検定の団体受験について ・FD・SD活動について	FD FD	林(利)(農場長)、林(義)、中尾、森田(隆)、森田(裕)、増中、大塚(計:7名)
農11	令和7年2月5日	第11回農場教員会議 ・FD・SD活動について	FD	林(利)(農場長)、林(義)、中尾、森田(隆)、森田(裕)、増中、大塚(計:7名)
農12	令和7年3月5日	第12回農場教員会議 ・FD・SD活動について	FD	林(利)(農場長)、林(義)、中尾、森田(隆)、森田(裕)、増中、大塚(計:7名)

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 農学研究科 ）

## 1. 令和6年度の活動報告

活動方針：令和7年度から修士課程および博士後期課程ともに新しいカリキュラムに変更されることから、その適切な実施に向けた課題の抽出と対応策の検討を進める。

活動目標：令和7年度からの新カリキュラムの運用に向けた課題への対応

活動内容：

### ① FD 共通課題（学生の学修成果を可視化する取組を踏まえた教育改善）

大学院生全員が受講する農学特別演習において、毎回提出を義務づけているレポートの取り扱いについてこれを着実に遂行している。すなわち、発表者の発表内容に対する「価値・興味」および「疑問・意見」、ならびに発表全体に対する意見を、聴衆者である院生全員がレポートとして提出し、特任助手の協力により、集まったレポートに記されたコメントを発表者にフィードバックしている。

### ② SD 共通課題（ハラスメント）

ハラスメントの疑いがある事案については、個人情報の保護に気を配りながら教員と職員が協同して解決に向け取り組んでいる。

### ③ その他研究科独自の取組

主指導教員と副指導教員からなる指導教員グループによる修士課程あるいは博士後期課程の中間段階における研究進捗状況の確認作業を実施している。その修士課程における研究進捗状況の確認の一環として、7月6日（土）に修士論文中間発表会をポスター発表にて開催し、指導教員グループによる研究指導はもちろん、研究科所属の教員・院生が興味のある発表に対して活発な意見交換を行った。

## 2. 今後の課題、方向性

令和7年度から新カリキュラムに移行し、さらに修士課程の入学定員を見直し、30名に増員することから、新たな体制下でのカリキュラム運用と研究指導体制について議論を進める。

### 3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和6年4月11日	第1回農学研究科委員会（修士課程部会） ・学生派遣に関する申し合わせについて ・2024年度 農学特別演習の日程について	SD  FD	氏田研究科長 教授 磯井、上船、氏田、大浦、奥村、長田、加藤、近藤、鈴木、田村、塚越、津呂、新妻、林（利）、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山口 准教授 天野、荒川、太田垣、兒島、志水、藤、中尾、橋本、濱本、林（義）、平見、細田、森田（隆）、森田（裕） 助教 黒川、辻本、長澤、檜崎、藤原、武藤 陪席 香村（計43名）
2	令和6年4月25日	第2回農学研究科委員会（修士課程部会） ・修士課程の指導教員の確認について	FD	氏田研究科長 教授 磯井、上船、氏田、大浦、奥村、長田、加藤、近藤、鈴木、田村、塚越、津呂、新妻、林（利）、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山口 准教授 荒川、太田垣、兒島、志水、藤、中尾、橋本、濱本、林（義）、平見、細田、森田（隆）、森田（裕） 助教 黒川、長澤、辻本、長澤、藤原、武藤 陪席 香村（計42名）
		第1回農学研究科委員会（博士後期課程部会） ・博士後期課程の指導教員の確認について	FD	氏田研究科長 教授 磯井、上船、氏田、大浦、奥村、長田、加藤、近藤、鈴木、田村、塚越、津呂、新妻、林（利）、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山口（計22名）
3	令和6年5月23日	第3回農学研究科委員会（修士課程部会） ・2025（令和7）年度学位授与方針対応表等を用いた教育課程の自己点検の実施について ・大学院研究指導計画の確認について ・2024年度修士論文中間発表会について ・農学研究科におけるFD・SD取組の活動目標と具体的な取組内容について	FD  FD FD FD	氏田研究科長 教授 磯井、上船、氏田、大浦、奥村、長田、加藤、近藤、鈴木、田村、塚越、津呂、新妻、林（利）、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山口 准教授 天野、荒川、太田垣、兒島、志水、藤、中尾、橋本、濱本、林（義）、平見、森田（隆）、森田（裕） 助教 黒川、長澤、辻本、長澤、藤原、武藤（計42名）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
4	令和6年6月27日	第5回農学研究科委員会（修士課程部会） ・修士課程研究進捗状況報告書の提出について ・2024年度修士論文中間発表会について	FD FD	氏田研究科長 教授 磯井、上船、氏田、大浦、奥村、長田、近藤、鈴木、田村、塚越、津呂、新妻、林（利）、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山口 准教授 天野、荒川、太田垣、兒島、志水、藤、中尾、橋本、濱本、林（義）、平見、細田、森田（隆）、森田（裕） 助教 黒川、長澤、辻本、長澤、藤原、武藤 陪席 香村（計42名）
5	令和6年7月11日	第6回農学研究科委員会（修士課程部会） ・来年度の農学特別演習Ⅱの実施形態について ・2025年度新カリキュラムにおける研究指導計画について	FD FD	氏田研究科長 教授 磯井、上船、氏田、奥村、長田、加藤、近藤、鈴木、田村、塚越、津呂、新妻、林（利）、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山口 准教授 荒川、太田垣、兒島、志水、藤、中尾、橋本、濱本、平見、細田、森田（隆）、森田（裕） 助教 黒川、長澤、辻本、長澤、楢崎、藤原、武藤 陪席 香村（計41名）
6	令和6年9月5日	第8回農学研究科委員会（修士課程部会） ・GPS-Academic の受検について	FD	氏田研究科長 教授 上船、氏田、大浦、奥村、長田、近藤、田村、津呂、新妻、林（利）、平野、前林、湊、森上 准教授 天野、太田垣、兒島、藤、中尾、橋本、濱本、林（義）、平見、細田、森田（隆）、森田（裕） 助教 近澤、辻本、長澤、楢崎、武藤 陪席 香村（計33名）
7	令和6年10月3日	第10回農学研究科委員会（修士課程部会） ・アドミッションポリシーと入試方式との対応表の更新について	FD	教授 磯井、上船、氏田、大浦、奥村、長田、近藤、鈴木、田村、塚越、津呂、新妻、林（利）、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山口 准教授 天野、荒川、太田垣、兒島、志水、藤、中尾、橋本、濱本、林（義）、平見、細田、森田（隆）、森田（裕） 助教 黒川、長澤、辻本、長澤、藤原、武藤（計41名）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
8	令和6年11月28日	第14回農学研究科委員会（修士課程部会） ・2026（令和8）年度大学院農学研究科修士課程入学試験基本事項の修正	FD	教授 磯井、上船、氏田、大浦、奥村、長田、近藤、鈴木、田村、塚越、津呂、新妻、林（利）、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山口 准教授 天野、荒川、太田垣、兒島、藤、中尾、橋本、濱本、林（義）、平見、細田、森田（裕） 助教 黒川、長澤、辻本、長澤、檜崎、藤原、武藤 陪席 香村（計40名）
9	令和7年1月9日	第15回農学研究科委員会（修士課程部会） ・2026（令和8）年度大学院農学研究科修士課程入学試験基本事項の変更	FD	教授 磯井、上船、氏田、大浦、奥村、長田、加藤、近藤、鈴木、田村、塚越、津呂、新妻、林（利）、平野、前林、松儀、湊、村野、森上、山口 准教授 天野、荒川、太田垣、兒島、志水、藤、中尾、橋本、濱本、林（義）、平見、細田、森田（隆）、森田（将） 助教 近澤、辻本、檜崎、藤原、武藤 陪席 香村（計41名）

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 薬学部 ）

## 1. 令和6年度の活動報告

(1) 薬学部 FD・SD 委員会の活動目標ならびに活動項目を以下のように定める。

### 1) FD・SD 委員会活動目標

薬学部の教育理念および目標に到達するために、教職員組織で取り組む教育改善をサポートする。

### 2) FD・SD 委員会活動項目

#### A. 実質的な授業改善

①授業改善アンケートによる学生の学びの問題点の抽出

②学びの問題点に対する教育方法の検討・提案

#### B. 学生の主体的な学びの促進

①学生の主体的活動のサポートによる主体的な学びの促進

②学びの成果の可視化：学生の学修成果を可視化する取組に基づく教育改善（全学共通 FD 課題）

#### C. 教育活動の可視化と IR の実施

①教育活動の可視化

② IR の実施と教育改善の提案：教学 IR（全学共通 SD 課題）

(2) 令和6年度活動報告

#### A. 実質的な授業改善

①授業改善アンケートによる学生の学びの問題点の抽出

前期61科目実施：回答率は平均80.5%。

後期49科目実施：回答率は平均82.1%。

参考：令和5年度前期回答率85.7%（全体36.3%）、後期回答率82.0%（全体32.2%）。

・学生へのフィードバックとして、授業改善アンケートの自己評価部分をレーダーチャート化し、当該学年の平均を含めて可視化した。

・教員へのフィードバックとして、授業改善のヒントとなるように、以下のデータを作成してフィードバックを行った。

#### 【フィードバック内容】

当該科目の各アンケート項目の単純集計グラフ、学生の当該科目の授業スキル及び自己評価についてのレーダーチャート（全科目平均及び当該学年平均を含む）、当該科目成績と満足度の関係、当該科目成績と各指標の関連の散布図（基礎学力、授業外学修時間、授業集中、理解度、到達度、満足度）、各系列の科目の各指標の分布グラフ。

- ・教員から各科目履修学生への授業改善アンケートについてのフィードバックは、現在ポートフォリオで受付実施中（9月30日まで、昨年度前期100%を達成）。

## ②学びの問題点に対する教育方法の検討・提案

下記内容で、FD・SDワークショップを開催した。

- ・FD 報告（教学 IR 2018入学生評価）

実施日：令和6年10月4日

- ・FD・SD ワークショップ

実施日：令和7年3月11日

- 1) 講演：「GPS-Academicの結果から見た名城大学薬学部生の特徴（仮題）」

講師：森岡 氏（(株)ベネッセi-キャリア）

- 2) ワークショップ：「名城大学薬学部の抱える課題についての対応策は？」

昨年度「名城大学薬学部の抱える課題は？」と題してワークショップを行い、『明るい未来が描ける教育ができていない』ことが一番共感を得た問題点・課題であるという結果となった。本年度は、その解決策をグループワークにより提案し、最良策を議論する。

## B. 学生の主体的な学びの促進

### ①学生の主体的活動のサポートによる主体的な学びの促進

本年度は、コロナ禍により中断を余儀なくされていた学生フォーラムを復活させるべく、現在学生世話人を募って、開催に向けた準備を行っている。

第10回学生フォーラム「(仮題) 研究再発見 ～城薬の研究力、現在と未来～」

2025年2月15日

### ②学びの成果の可視化（全学共通FD・SD課題）

毎年1～4年生を対象に、ディプロマ・ルーブリックと学修成果サマリーを利用した振り返りを半期ごとに行っており、前期は2年生、3年生の指導教員との面接時に利用した。また、1、4年生を対象にして、外部指標としてGPS-Academicを実施した。

## C. 教育活動の可視化とIRの実施 → 【全学共通SD課題】教学IR

### ①教育活動の可視化

教育活動の可視化として、2021年度より行っているディプロマ・ルーブリックによる振り返りを半期ごとに実施するとともに、半期の学びを振り返る学修成果サマリーの作成を行い、学生の学修のサポートを行った。

#### ○振り返りの実施時期

前期：8月中（未実施は、再実施メールにて督促）

後期：3月中（未実施は、再実施メールにて督促）

## ○内容

- ・ディプロマ・ルーブリックを用いた振り返り
- ・半期の学びを振り返り、「満足な成果」「不満足な成果」について2科目ずつ選択し、以下の振り返りを行う
- ・思うようにいったこと、思うようにいかなかったこと、できるようになったこと
- ・まだ不十分なこと、つぎに活かすこと

## ② IR の実施と教育改善の提案

- ・令和4年度学位授与方針対応表の検証について

2018年度入学生に対して実施した。

- a. 領域、順次制、難易度を踏まえた体系性
- b. ディプロマ・ポリシーで謳う能力の育成とカリキュラムの整合性
- c. 学生の学修成果の確認
- d. アセスメントポリシーに基づく評価（学位プログラムの評価）

材料：間接データ：ディプロマ・ルーブリック、学修成果サマリー、授業評価アンケート学修スタイルなど

直接データ：GPS-Academic、ジャンル別成績、修得度、CBT、国家試験など

- e. 入学時からの成績変化
- ・進級状況の可視化について  
2018年度から2022年度における1年次から3年次までの定期試験不合格目調査（2018～2023年度）を行い、現状を把握するとともに、令和4年改訂薬学教育モデル・コア・カリキュラム対応の新しい教育プログラムの運用上の課題抽出を行う（10月前半）。
  - ・教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化について  
教務委員会から、同一科目名の授業において成績評価に大きな差がある科目担当教員に連絡し、格差の是正に努力するよう依頼した。

## 2. 今後の課題、方向性

変化し続ける未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成を目指し、医学・歯学・薬学教育の3領域で統一したキャッチフレーズ（「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」）の下、「薬学教育モデル・コア・カリキュラム」が改訂され（令和4年）、およそ1年の準備期間を経て、本年4月入学生から新しいカリキュラム（新カリ）がスタートした。6年後の完成年度を迎えるまでは、平成27年度入学生から適用されているコア・カリキュラム（旧カリ）と2つのカリキュラムが並走することとなるため、新たな取り組みがなされた新カリの成果や課題を旧カリのそれらとともに可視化しながら、本学におけるよりよい薬学教育の実現に向けた活動を行う。

### 3. 活動記録

回	日 程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和6年4月3日	第1回薬学部FD・SD委員会 (メール審議) ・2023年度薬学部FD・SD委員会年報報告 ・学生フォーラムについて	FD SD	飯田、大津、亀井、小森、田口、 丹羽、野田、村田、山田、能勢、 石川、犬山 計12名
2	令和6年4月19日	第2回薬学部FD・SD委員会 (メール審議) ・ディプロマポリシーの検証 について	FD	大津、亀井、小森、丹羽、野田、 村田、山田、能勢、石川 計9名
3	令和6年4月25日	第2回拡大教授会 ・学生フォーラムについて	FD	北垣、吉田、原、西川、坂井、井藤、 高谷、能勢、日坂、山田、水本、 根岸、都築、村田、橋本、柳澤、 神野、岡本誉、打矢、輪島、水野、 今西、杉山、藤井、小島、平松、 衣斐、間宮、小田、栗本、仲吉、 丹羽、近藤、灘井、加藤、風岡、 岡本、奥田、大津、田辺、野田、 吉見、築山、伊藤、早川、山本、 亀井、半谷、黒野、長谷川、伊東、 稲垣、守屋、牛田、梅田、金子、 飯田、小森、田口、黒羽子、植田、 武永、リバック、酒井、田巻、石川、 片岡、木下 計68名
4	令和6年7月11日	第3回薬学部FD・SD委員会 (メール審議) ・2023年度FD・SDワーク ショップの結果について	FD	大津、亀井、小森、丹羽、野田、 村田、山田、能勢、片岡 計9名
5	令和6年8月1日	第8回拡大教授会 ・2023年度FD・SDワーク ショップの結果について ・2024年度FD・SDワーク ショップの開催予定につい て	FD	北垣、吉田、原、西川、坂井、井藤、 高谷、能勢、日坂、山田、水本、 根岸、都築、村田、橋本、柳澤、 神野、岡本誉、打矢、輪島、水野、 今西、杉山、藤井、小島、平松、 衣斐、間宮、小田、栗本、仲吉、 丹羽、近藤、灘井、加藤、風岡、 岡本、奥田、大津、田辺、野田、 吉見、築山、伊藤、早川、山本、 亀井、半谷、黒野、長谷川、伊東、 稲垣、守屋、牛田、梅田、金子、 飯田、小森、田口、黒羽子、植田、 武永、リバック、酒井、田巻、石川、 片岡、木下 計68名

回	日 程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
6	令和6年9月6日	第4回薬学部FD・SD委員会 (メール審議) ・令和7年度学位授与方針対 応表等を用いた教育課程の 自己点検について	FD	大津、亀井、小森、丹羽、野田、 村田、山田、能勢、片岡 計9名
7	令和6年 9月19日～20日	第10回拡大教授会 ・令和7年度学位授与方針対 応表等を用いた教育課程の 自己点検について	FD	北垣、吉田、原、西川、坂井、井藤、 高谷、能勢、日坂、山田、水本、 根岸、都築、村田、橋本、柳澤、 神野、岡本誉、打矢、輪島、水野、 今西、杉山、藤井、小島、平松、 衣斐、間宮、小田、栗本、仲吉、 丹羽、近藤、灘井、加藤、風岡、 岡本、奥田、大津、田辺、野田、 吉見、築山、伊藤、早川、山本、 亀井、半谷、黒野、長谷川、伊東、 稲垣、守屋、牛田、梅田、金子、 飯田、小森、田口、黒羽子、植田、 武永、リバック、酒井、田巻、石川、 片岡、木下 計68名
8	令和6年10月4日	第5回薬学部FD・SD委員会 ・2018年度入学生IRデータに ついて ・2018年度から2023年度進級 状況について ・学生フォーラムについて	FD	大津、亀井、小森、丹羽、野田、 村田、山田、能勢、片岡 計9名
9	令和6年10月24日	第12回拡大教授会 ・2018年度入学生IRデータに ついて ・2018年度から2023年度進級 状況について	FD	北垣、吉田、原、西川、坂井、井藤、 高谷、能勢、日坂、山田、水本、 根岸、都築、村田、橋本、柳澤、 神野、岡本誉、打矢、輪島、水野、 今西、杉山、藤井、小島、平松、 衣斐、間宮、小田、栗本、仲吉、 丹羽、近藤、灘井、加藤、風岡、 岡本、奥田、大津、田辺、野田、 吉見、築山、伊藤、早川、山本、 亀井、半谷、黒野、長谷川、伊東、 稲垣、守屋、牛田、梅田、金子、 飯田、小森、田口、黒羽子、植田、 武永、リバック、酒井、田巻、石川、 片岡、木下 計68名
10	令和6年11月14日	第6回薬学部FD・SD委員会 ・「授業改善アンケートの見直 し」について	FD	大津、亀井、小森、丹羽、野田、 村田、山田、能勢、片岡 計9名

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
11	令和6年11月28日	第14回拡大教授会 ・「授業改善アンケートの見直し」について	FD	北垣、吉田、原、西川、坂井、井藤、高谷、能勢、日坂、山田、水本、根岸、都築、村田、橋本、柳澤、神野、岡本誉、打矢、輪島、水野、今西、杉山、藤井、小島、平松、衣斐、間宮、小田、栗本、仲吉、丹羽、近藤、灘井、加藤、風岡、岡本、奥田、大津、田辺、野田、吉見、築山、伊藤、早川、山本、亀井、半谷、黒野、長谷川、伊東、稲垣、守屋、牛田、梅田、金子、飯田、小森、田口、黒羽子、植田、武永、リバック、酒井、田巻、石川、片岡、木下 計68名
12	令和6年12月20日	第7回薬学部FD・SD委員会 ・「第9回学生フォーラム」について	FD	大津、亀井、小森、丹羽、野田、村田、山田、能勢、片岡 計9名
13	令和7年3月11日	令和6年度薬学部FD・SDワークショップ 「GPS-Academicの結果から見た名城大学薬学部生の特徴(仮題)」講師:森岡氏((株)ベネッセi-キャリア) 「名城大学薬学部の抱える課題についての対応策は?」	FD	伊東、井藤、稲垣、植田、牛田、打矢、大津、岡本浩一、奥田、小田、加藤、亀井、北垣、黒羽子、黒野、小島、小森、近藤、坂井、高谷、武永、都築、仲吉、灘井、西川、丹羽、根岸、能勢、野田、橋本、早川、日坂、平松、藤井、間宮、水野、水本、村田、守屋、山田、吉田、吉見、輪島、片岡 計44名

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 薬学研究科 ）

## 1. 令和6年度の活動報告

### 1) 大学院薬学研究科 FD・SD 委員会の活動方針と目標

薬学研究科における教育の質の向上を図るため、薬学研究科 FD・SD 委員会が中心となって FD・SD 活動を推進する。この活動を通じて研究科全教員が実効性の高い授業改善を進めるとともに、所属学生の研究活動が活性化されるよう教育遂行能力や指導力の向上を図る。

### 2) 令和6年度の FD・SD 委員会の活動内容

以下について活動を行った。(行っている。)

- 教員・学生に対する授業改善アンケートの実施と評価のフィードバック
- 教員・学生に対する特殊研究評価アンケートの実施と評価のフィードバック
- 副指導教員との面談の実施
- 授業改善アンケートの内容についての検討

### 3) FD・SD の取り組みを推進する具体的な活動実績

#### I. 授業改善アンケートを活用した今後の授業改善について

令和6年度「特論」科目（講義）に関するアンケートを前期終了時に実施した。

該当科目：4 教科、回答率 学生：71%、教員：50%（令和5年度前期 該当科目：2 教科、回答率 学生：100%、教員：70%、令和4年度前期：3 教科、回答率 学生：78%、教員：57%）アンケートの実施方法を Google Form を利用する方法に変更し、回収率向上につなげることができた。

アンケート結果を担当教員に配布し、次年度のシラバスや授業内容・方法の改善へ向けた情報としての利用を促した。後期開講科目についても実施する。

#### II. 特殊研究評価アンケートについて

12月初旬に特殊研究評価アンケート調査を行い、結果を教員・学生双方にフィードバックする予定である。

#### III. 副指導教員との面談について

昨年度に引き続き、副指導教員との面談機会を設け（面談シート回収率：85%）、主指導教員とは異なる多様な助言が得られるような環境づくりを推進している。

## 2. 今後の課題、方向性

### (1) 授業改善へ向けたアンケートの実施

次年度も今年度と内容を変更することなく、大学院講義に対するアンケートを実施する。学

生・教員双方からの要望や改善点を大学院運営委員会で報告・共有化し、講義が学生にとっての継続的な学びの場となるよう講義内容や実施方法を改善していく。また、必要に応じて、大学院講義の在り方について、学部FD・SD委員会と協同し、FDワークショップの実施を検討する。

(2) ディプロマポリシーに明示した学修成果の可視化

ディプロマポリシーに明示した学修成果を可視化する試みの一つとして、学生に対し後期開講科目の授業改善アンケート実施時に、年度振り返りアンケートを行った。

(3)「教育」の工夫や実践を知る機会の提案、提供

FD講演会の開催と教員への研修機会の提供は、今後の検討課題である。学部との共催も視野に入れ検討したい。

### 3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和6年 9月～10月	令和6年度 前期授業改善アンケート	FD	前期に特論を履修した大学院生 井藤千裕、打矢恵一、水野初、 亀井浩行、大津史子、藤井正徳、 山田修平、早川伸樹、村田富保、 柳澤聖、築山郁人、山本英督、 北垣伸治、原脩、丹羽敏幸、 半谷眞七子、田辺公一、灘井雅行、 加藤美紀、西川泰弘、坂井健男、 奥田知将、岡本浩一、能勢充彦、 野田幸裕、平松正行、小島良二、 間宮隆吉、衣斐大祐 (計29名)
2	令和6年 9月～10月	副指導教員との面談	FD	薬学研究科院生13名 野田幸裕、平松正行、築山郁人、 柳澤聖、井藤千裕、高谷義明、 灘井雅行、加藤美紀、神野透人、 岡本誉士典、水野初、亀井浩行、 半谷眞七子、原脩、坂井健男、 村田富保、大津史子、岡本浩一、 奥田知将 (計19名)

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
3	令和6年10月3日	第8回大学院薬学研究科運営委員会 前期授業改善アンケート結果の振り返り	SD	薬学研究科院生13名 飯田耕太郎、井藤千裕、打矢恵一、 大津史子、岡本浩一、小田彰史、 亀井浩行、北垣伸治、小森由美子、 黒野俊介、神野透人、田口忠緒、 築山郁人、灘井雅行、丹羽敏幸、 能勢充彦、野田幸裕、長谷川洋一、 原脩、早川伸樹、平松正行、 藤井正徳、水野初、村田富保、 柳澤聖、山田修平、山本英督、 伊東亜紀雄、伊藤佳織、今西進、 衣斐大祐、岡本誉士典、奥田知将、 加藤美紀、栗本英治、小島良二、 近藤啓太、坂井健男、杉山栄二、 高谷芳明、西川泰弘、根岸隆之、 橋本和宜、半谷眞七子、間宮隆吉、 水本秀二、吉田圭佑、吉見陽、 マーク・リバック、輪島丈明 (計50名)
4	令和6年12月 ～令和7年1月	令和6年度 後期授業改善アンケート	FD	後期に特論を履修した大学院生 築山郁人、マーク・リバック (計2名)
5	令和6年12月 ～令和7年1月	令和6年度 特殊研究評価アンケート	FD	薬学研究科院生13名 野田幸裕、築山郁人、井藤千裕、 灘井雅行、神野透人、亀井浩行、 原脩、柳澤聖、大津史子、岡本浩一 (計10名)
6	令和7年2月13日	令和6年度 後期授業改善アンケート 結果の振り返り	SD	薬学研究科院生13名 飯田耕太郎、井藤千裕、打矢恵一、 大津史子、岡本浩一、小田彰史、 亀井浩行、北垣伸治、小森由美子、 黒野俊介、神野透人、田口忠緒、 築山郁人、灘井雅行、丹羽敏幸、 能勢充彦、野田幸裕、長谷川洋一、 原脩、早川伸樹、平松正行、 藤井正徳、水野初、村田富保、 柳澤聖、山田修平、山本英督、 伊東亜紀雄、伊藤佳織、今西進、 衣斐大祐、岡本誉士典、奥田知将、 加藤美紀、栗本英治、小島良二、 近藤啓太、坂井健男、杉山栄二、 高谷芳明、西川泰弘、根岸隆之、 橋本和宜、半谷眞七子、間宮隆吉、 水本秀二、吉田圭佑、吉見陽、 マーク・リバック、輪島丈明 (計50名)

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 都市情報学部 ）

## 1. 令和6年度の活動報告

### ≪活動方針≫

#### ① FD 共通課題

外部調査（アセスメントテスト GPS-Academic）により、学生の学修成果を可視化し、学年間での比較、学年進行による学習進捗確認を通じて、専門科目、ゼミナール等での学生指導に役立てる。

#### ② SD 共通課題（社会人基礎力の育成）

- ・「我が国産業における人材力強化に向けた研究会（人材力研究会）」報告書（経済産業省・中小企業庁）を活用し社会人基礎力の重要性などを理解し、「人生100年時代の社会人基礎力」の育成を検討する。
- ・経済産業省『社会人基礎力を育成する授業30選』実践事例集を活用した教職員に必要な知識及び技能を修得する。
- ・FD・SD 学習会、FD・SD フォーラム、学外でのFD・SD 関連研修会等の情報提供を行い、関係行事への積極的参加を推奨する。

#### ③ その他学部独自の取組

社会人基礎力診断テストを継続的に実施することにより、学生の成長度合いを組織的に確認し、学生の修学意欲を向上させる取組として活用していく。

社会人基礎力診断テストにおける入学から卒業までの推移把握を実施し、経年比較による在学生の傾向を分析し、その結果を全教員に共有する。

### ≪目標≫

全教員が、本学部の人材養成目的を認識し、学位授与方針（Diploma Policy）に記載する資質能力を身につけさせることを意識したうえで、授業における課題、工夫を明確にする。特にゼミナール運営・指導の工夫に取り組み、改善に繋げることによって学生の成長に役立てる。また、組織としては、学生の成長推移、学習進捗を分析確認しながら、新しい取組も検討する。

### ≪活動内容≫

#### ① 学生の学修成果を可視化する取組に基づく教育改善

- ・『アセスメントテスト GPS-Academic』1年次と3年次の経年での集計・分析結果を教授会で共有し、特に本学部学生の学習傾向を把握することによって、授業改善等のFD活動に役立てる。
- ・全学年の学生を対象に社会人基礎力診断テストを実施し、集計結果を教授会で共有する。各教員が集計結果を活かしてゼミナール実施方法を工夫し、ゼミナール指導における学生の研究力向上、プレゼンテーション能力向上に繋げる。

## ②その他学部独自の取組（SD 含む）

授業改善アンケートの対象科目を1教員2科目以上で実施し、フィードバックされた結果を各教員が授業改善に繋げる。

ゼミナールにおいては、中間発表会、卒業論文発表会を実施することで、研究力、プレゼンテーション能力等の成長度についての検証をする。

在学生の状況や様子、講義受講状況を報告しあい、情報共有、情報交換を活発に行うことによって、学生の修学支援に繋げる。

## 2. 今後の課題、方向性

FD・SD委員会を中心として、学部内関連委員会との連携による系統的な取り組みの検討・実施を実現する。具体的には、講義・ゼミナール運営の工夫・改善点についての意見交換、学生の受講状況等についての情報共有を通して、教育の組織的な改善に繋げていくための取り組みの場とする。

## 3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和6年4月18日 (FD・SD委員会)	令和5年度卒業生の卒業時社会人基礎力診断テスト実施結果について、入学時からの推移について集計資料に基づいて審議した。	FD	柄谷、稲葉、手嶋、鈴木（千） 計4名
2	令和6年5月16日 (FD・SD委員会)	FD・SD取組を推進する組織の活動について、活動目標及び具体的取組の内容を確認した。	SD	柄谷、稲葉、小池、手嶋、鈴木（千） 計5名
3	令和6年6月18日 (FD・SD委員会)	令和6年度入学者を対象としたGPS-Academic アセスメントテストの受検完了について確認した。	SD	柄谷、稲葉、小池、手嶋、鈴木（千） 計5名
4	令和6年7月25日 (教授会)	入学前オリエンテーションのあり方（内容や方法）について意見交換した。	SD	赤木、稲葉、宇野、大野（栄）、鎌田、亀井、柄谷、島田、杉浦（伸）、杉浦（真）、鈴木（淳）、手嶋、西野、昇、福島、水野、宮本、森杉、山谷、大野（沙）、鈴木（千）、森 計22名
5	令和6年9月19日 (FD・SD委員会)	SD活動共通課題として、今年度の新たな取組である【「我が国産業における人材力強化に向けた研究会」（人材力研究会）報告書（経済産業省・中小企業庁）】の資料を確認し、次回教授会（9月26日開催）で構成員に共有することになった。 入学前教育における実施科目の選定について意見交換のうえ、検討した。	SD	柄谷、稲葉、小池、手嶋、鈴木（千） 計5名

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
6	令和6年9月19日 (教務委員会)	学務センターからの依頼に基づく成績評価基準の平準化について、資料に基づいて意見交換を行った。	FD	福島、赤木、森杉、大野(沙) 計4名
7	令和6年9月26日 (教授会)	SD活動共通課題として、今年度の新たな取組である【「我が国産業における人材力強化に向けた研究会」(人材力研究会)報告書(経済産業省・中小企業庁)】の資料を共有し意見交換を行った。	SD	赤木、稲葉、大野(栄)、鎌田、 亀井、柄谷、小池、島田、杉浦(伸)、 杉浦(真)、鈴木(淳)、張、手嶋、 西野、福島、水野、宮本、森杉、 山谷、大野(沙)、鈴木(千)、森 計22名
8	令和6年10月17日 (FD・SD委員会)	GPS-Academic アセスメントテスト1年次実施結果について、ベネッセiキャリア担当者からの説明により、確認と課題の抽出を行った。	SD	柄谷、稲葉、手嶋、鈴木(千) 計4名
9	令和6年11月28日 (教授会)	社会人基礎力診断テスト(1・2・3・4年次)の実施分析結果を共有し意見交換した。	FD	赤木、稲葉、大野(栄)、鎌田、 亀井、柄谷、島田、杉浦(伸)、 杉浦(真)、鈴木(淳)、張、手嶋、 西野、昇、福島、水野、宮本、森杉、 山谷、大野(沙)、鈴木(千)、森 計22名
10	令和6年12月19日 (FD・SD委員会)	専任教員に対して実施する『授業改善の達成度に関する評価アンケート』の設問項目を検討し、確認した。	FD	柄谷、稲葉、小池、手嶋、鈴木(千) 計5名
11	令和7年2月13日 (教授会)	GPS-Academic アセスメントテスト実施結果のまとめ及び学修成果の現状を確認し、課題抽出した。(講演:ベネッセiキャリア森岡氏)	SD	赤木、稲葉、大野(栄)、鎌田、 亀井、柄谷、島田、杉浦(伸)、 杉浦(真)、鈴木(淳)、手嶋、西野、 昇、水野、宮本、森杉、山谷、 鈴木(千)、森 計19名
12	令和7年2月20日 (FD・SD委員会)	専任教員に対して実施した『授業改善の達成度に関する評価アンケート』結果を集計し、結果を共有した。	FD	柄谷、稲葉、小池、手嶋、鈴木(千) 計5名

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 都市情報学研究科 ）

## 1. 令和6年度の活動報告

### ＜活動方針＞

- 1) 研究者として必要な、高度な能力と専門知識、問題解決力等を身につけ、専門職人材として社会のあらゆる場面でリードできる研究者の養成を目指す。
- 2) 成績評価・研究進捗の評価・論文審査など、大学院修了に向けた研究プロセスの中で、研究指導担当者としての関わり方、研究指導の効果、適切性などを確認するとともに、研究者養成における課題の検討と改善についてFD活動の継続的取り組みとする。
- 3) 個別の研究指導のなかでは、研究者として研究推進に関わりながら、研究発表の活性化を促し、修士論文や博士論文の成果向上に繋げる。

### ＜目標＞

- 1) 高度専門職人材に必要な「基礎学力」や「専門知識」などの『技術的能力』に加え、「コミュニケーション能力」や「バイタリティー」、「積極性」、「協調性」など『行動能力』の必要性を意識させる。
- 2) 大学院入学後、遅くとも半年以内に研究テーマおよび研究計画書を主指導教員の指導で作成するとともに、副指導教員を含めた研究に関するディスカッションの機会を学生自ら計画し、実施する。
- 3) 学会参加や研究発表を推奨する。
- 4) 年度末に行われる研究報告会（中間発表および審査発表）に、すべての大学院生および教員の参加を促し、学生相互で研究報告内容を評価する。
- 5) すべての大学院教員に教室内での座学に留まらず、少なくとも半年に1回以上の学外での体験学習や外部講師とのディスカッションの機会の設定を推奨する。

### ＜活動内容＞

#### ① FD 共通課題

修士課程及び博士後期課程の1年次を対象として実施する「研究中間発表会」においては、聴講者が共通の観点での評価を行い、その評価結果を、研究指導教員を通じて発表者へフィードバックする。発表者は評価結果を受け止めながら、研究の深化、研究者としての成長をはかるとともに論文の完成を目指し、審査発表会に向けて発表技術の向上に努める。

#### ② SD 共通課題

研究倫理教育を徹底し、eL CoREの修了証書提出を義務付けている。  
修士課程及び博士後期課程でそれぞれ策定した『研究指導プロセス』について、指導学生の研究進捗の状況を確認し、プロセスの適切性について意見交換を行う。

### ③その他課題

大学院生の教育能力の開発の取り組みとして努力義務（大学院設置基準）とされている『プレFD』について検討する。

## 2. 今後の課題、方向性

- 1) 本研究科が掲げるディプロマポリシーを確実に身につけることができるように、研究進捗のプロセス管理の方法等について、組織的な取り組みの適切性の検証を継続的に行う。
- 2) 修士論文や博士論文の成果向上の定期的な検証を継続的に行う。
- 3) 大学院修了時アンケート及び大学院生満足度調査の結果から、学生の学習成果、意見・要望等を把握し改善に努めるとともに、学部FD・SD委員会との連携の下、組織的な取り組み改善に繋げていく場とする。

## 3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和6年5月16日 学務委員会	博士後期課程の学位授与申請手続きの確認 修士論文作成要領の確認 学位授与に関する申請基準及び審査基準の確認 研究中間発表会、学位論文公聴会実施要領の確認 2023（令和5）年度論文公聴会及び中間発表会の聴講者評価結果の確認	FD	森杉、西野、昇、福島、山谷 計5名
2	令和6年7月11日 学務委員会	修士課程及び博士後期課程の研究計画書確認 大学院自習室における改善および学生からの要望について検討	FD	森杉、西野、福島、山谷 計4名
		学位授与方針対応表を用いた教育課程の自己点検審議	SD	
3	令和6年7月24日 学務委員会	院高度化費の執行基準見直し確認	FD	森杉、西野、昇、福島、山谷 計5名
4	令和6年11月14日 学務委員会	院高度化費の執行状況の確認および執行基準の見直し	FD	森杉、西野、昇、福島、山谷 計5名
		アセスメントポリシー及びアセスメント・プランの確認	SD	
5	令和6年12月12日 学務委員会	大学院定員充足に向けた施策について意見交換 現行カリキュラムの見直し 大学院自習室における改善について検討	FD	森杉、西野、福島、山谷 計4名
6	令和7年3月6日 学務委員会	現行カリキュラムの検証（履修者及び授業担当教員への聞き取り）結果の共有と課題の確認	FD	森杉、西野、昇、福島、山谷 計5名

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 人間学部 ）

## 1. 令和6年度の活動報告

人間学部FD・SD委員会は、委員長1名、委員4名、事務職員1名により構成される。教員団の教育・研究を含めた資質・能力向上を活動目標としてFD・SD活動に取り組んでいる。令和6年度は以下に取り組んだ。

- 人間学部FD・SD委員会の開催
- 人間学部SD学習会（大学における合理的配慮）
- 学修成果の可視化を目的とした外部調査（GPS-Academic）の実施
- 人間学部FD活動（成績評価基準の平準化について）
- 人間学部FD・SDフォーラムの開催

人間学部教授会では、大学教育開発センター委員会でのFD・SDに関連する事項が報告され、本学のFD・SD活動についての情報共有が図られている。5月に開催した第2回人間学部・人間学研究科合同FD・SD委員会では、FD・SD活動の年間計画および進め方に関して協議を行った。6月27日にSD学習会として、「大学における合理的配慮」に関する学習会が開催され、障がい学生支援委員長からの説明の後、グループにおいて意見交換が行われた。

9月5日開催の第9回人間学部教授会においては、人間学部教務委員会から、同一名称科目の成績の分布表データが提示され、状況を確認した。また、必修英語10クラスの試験問題およびシラバス（成績評価基準含む）を、教務委員会および国際・コミュニケーション系教員団にて総点検し、適切なクラス分けに変更したことが報告された。さらに、「人間学総論」の成績評価基準を平準化するため、配点等の検討をすすめることも確認された。今後とも「成績評価基準の平準化」については引き続き検討がなされる予定である。

また、2月には学部・研究科合同のFD・SDフォーラムを開催する予定である。2024年度に実施したGPS-Academicの結果に関してのベネッセiキャリアの担当者による説明の後、2022年度（当時1年次生）と2024年度に受検した学生（本年度3年次生）の両結果について比較しながら意見交換を行い、今後の教育課題を見出すことを試みる。

## 2. 今後の課題、方向性

人間学部の学生の4年間における学びを支援するための教育内容および教育環境のさらなる改善に向けた取組を検討、実施する。後期には、以下のFD・SD活動を予定している。

- FD・SD 委員会の開催
- SD 学習会の開催
- FD・SD フォーラムの開催（3月）
- FD・SD 情報の共有化のための活動
- 学修成果を可視化する取組としての3年次 GPS-Academic の実施（11月30日まで）

### 3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和6年 4月23日～26日	【第1回 FD・SD 委員会】 メール審議 ○審議事項：「MS-26戦略プラン」及び「2024年度事業計画書」の再提出について	FD	岡戸、谷口、宮嶋、志村、高橋、中村（6名）
2	令和6年5月9日	【第2回 FD・SD 委員会（研究科合同）】 【審議事項】 1. 令和5（2023）年度名城大学自己点検・評価報告書の確認について 2. FD・SD 活動取組の組織一覧表の確認について 3. FD・SD 活動の年間活動予定について ・SD 学習会 ・3年次 GPS-Academic（改善策・FD フォーラム実施時期） 【報告事項】 1. 2024年度前期授業改善アンケートの実施について 2. 2017～2023授業改善アンケート結果 3. 学習サポートルームについて	FD  FD・SD  FD・SD  SD FD  FD  FD FD FD	岡戸、谷口、宮嶋、志村、高橋、西村、中村（7名）
3	令和6年 6月13日～17日	【第3回 FD・SD 委員会】 メール審議 ・入学前オリエンテーションの実施について	FD	岡戸、谷口、宮嶋、志村、高橋、中村（6名）
4	令和6年6月27日	第1回 人間学部・研究科合同SD 学習会 テーマ：「大学における合理的配慮」に関する学習会	SD	岡戸、伊藤（康）、伊藤（俊）、一ノ谷、笠井、加茂、塩崎、和田、宮嶋、櫻井、西村、畑中、志村、ウェストビィ、加藤、原田、西山、高橋、中村、深川（20名）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
5	令和6年 7月12日～17日	【第4回 FD・SD委員会】 メール審議 ・入学前教育（MECプログラム）について ・3年次生のGPS-Academicについて	FD FD	岡戸、谷口、宮嶋、志村、高橋、 中村（6名）
6	令和6年9月5日	【第9回 人間学部教授会】 成績評価基準の平準化について	FD	一ノ谷、伊藤（康）、伊藤（俊）、 岡戸、笠井、加茂、櫻井、塩崎、 西村、宮嶋、和田、船田、 ウェストビィ、加藤、志村、西山、 原田、高橋、荒川、中村（20名）
7	令和6年9月18日	【第5回 FD・SD委員会】 審議事項 1. 入学前オリエンテーションについて（実施方法等） 2. FD・SD活動報告（中間）について 報告事項 1. 学習サポートルームについて 2. MECプログラムについて 3. 令和6年度前期授業改善アンケート集計結果 4. GPS-Academicについて	FD FD・SD FD FD FD FD	岡戸、谷口、宮嶋、志村、高橋、 中村（6名）
8	令和6年 10月15日～18日	【第6回 FD・SD委員会】 メール審議 ・MS-26戦略プランおよび 2025年度事業報告書の作成 について	FD	岡戸、谷口、宮嶋、志村、高橋、 中村（6名）
9	令和6年11月15日	【第7回 FD・SD委員会】 審議事項 1. 授業改善アンケートの見直し案について 報告事項 1. 授業改善アンケート結果について 2. GPS-Academicについて ・受検状況と今後の対応について	FD FD FD	岡戸、谷口、宮嶋、志村、高橋、 中村（6名）
10	令和6年 12月24日～27日	【第8回 FD・SD委員会（大学院合同）】 メール審議 ・FD・SDフォーラムの開催 について ・GPS-Academicの受検率に ついて	FD・SD FD	岡戸、西村、谷口、宮嶋、志村、 高橋、中村（6名）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
11	令和7年1月17日	<p>【第9回 FD・SD委員会（大学院合同）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・FD・SDフォーラムの開催方法について</li> <li>・授業改善アンケートの見直しについて</li> <li>・FD・SD活動報告書の作成について</li> </ul>	<p>FD・SD</p> <p>FD</p> <p>FD</p>	岡戸、西村、谷口、宮嶋、志村、高橋、中村（6名）
12	令和7年2月12日	<p>人間学部・大学院人間学研究科合同FD・SDフォーラム</p> <p>テーマ：人間学部におけるGPS-Academicの結果からみる人間学部の学修の傾向について</p> <p>講師：ベネッセiキャリア 安藤様</p>	FD	一ノ谷、岡戸、笠井、櫻井、西村、水尾、宮嶋、和田、畑中、ウェストビィ、加藤、原田、ビーチ、西山、高橋、深川、中村（17名）

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 人間学研究科 ）

## 1. 令和6年度の活動報告

人間学研究科 FD・SD 委員会は、委員長1名、委員3名（内1名は学部 FD・SD 委員長を兼務）、事務職員1名により構成される。教員団の教育・研究を含めた資質・能力向上を活動目標として FD・SD 活動に取り組んでいる。令和6年度は以下に取り組んだ。

- 人間学部・人間学研究科 FD・SD 委員会の開催
- 人間学部・人間学研究科 SD 学習会（障がい学生について）
- 授業アンケートの実施
- 人間学部・人間学研究科 FD・SD フォーラムの開催

本年度の活動の目標は、教員団の教育・研究を含めた資質・能力向上のための①教育内容及び教育環境の改善、②教育技法の改善・向上のための具体的活動、③教員の資質開発を図るための組織的な研修である。計画内容（具体的取り組み）[達成度指標]は、以下の通りである。（1）学部の FD・SD 委員会と合同で教員の資質向上につながる FD・SD 活動を実施する [実施した FD・SD 活動回数]。（2）大学院生に対するアンケート調査を行い、問題点を明らかにするとともに、要望への対応策を検討する [アンケート実施割合、配慮事例数]。

教授法の充実等については、1年生には、面接による授業アンケート、2年生には、紙面による授業アンケートを実施した。院生が少ないことからくる制約は感じられた。研究科委員会において、アンケート結果を報告し、全教員での共有を図った。また、6月27日に SD 学習会として、「大学における合理的配慮」に関する学習会が開催され、障がい学生支援委員長からの説明の後、グループにおいて意見交換が行われた。また、2月には学部・研究科合同の FD・SD フォーラムを開催する予定である。2024年度に実施した GPS-Academic の結果に関してのベネッセ i キャリアの担当者による説明の後、2022年度（当時1年次生）と2024年度に受検した学生（本年度3年次生）の両結果について比較しながら意見交換を行い、今後の教育課題を見出すことを試みる。

## 2. 今後の課題、方向性

本研究科における FD・SD 活動については、従来のように院生を対象にした授業・研究環境に関するアンケートを継続すると同時に、講義のあり方や研究指導のあり方を検討する。今後の計画としては、作成された学位授与方針対応表に沿ったシラバスの作成と点検、後期アンケートの実施、また、以下の FD・SD 活動を予定している。

- FD・SD 委員会の開催
- FD フォーラムの開催
- FD・SD 情報の共有化のための活動

### 3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和6年4月25日	【第1回 FD・SD 委員会】 ○審議事項：「MS-26戦略プラン」及び「2024年度事業計画書」の再提出について	FD	西村、笠井、岡戸、深川（4名）
2	令和6年5月9日	【第2回 FD・SD 委員会（学部合同）】 【審議事項】 ○FD・SD 活動取組の組織一覧表の確認について ○FD・SD 活動の年間活動予定について ・SD 学習会（障がい学生について） ・FD フォーラム（3月）	FD・SD FD・SD SD FD	西村、岡戸（2名）
3	令和6年6月6日	【第3回 FD・SD 委員会】 【審議事項】 ○前期授業アンケートの実施について	FD・SD	西村、笠井、岡戸、深川（4名）
4	令和6年6月27日	第1回 人間学部・研究科合同SD 学習会 テーマ：「大学における合理的配慮」に関する学習会	SD	岡戸、伊藤（康）、伊藤（俊）、一ノ谷、笠井、加茂、塩崎、宮嶋、櫻井、西村、畑中、原田、西山、深川（14名）
5	令和6年 9月17日～18日	【第4回 研究科FD・SD 委員会】 メール審議 ○人間学研究科FD・SD 活動報告（中間）の作成について ○前期授業アンケートの結果について	FD・SD FD・SD	岡戸、笠井、西村、深川（4名）
6	令和6年11月14日	【第5回 FD 研究科FD・SD 委員会】 ○「MS-26戦略プラン」および「2025年度事業計画書」について ○後期授業アンケートの実施について	FD FD・SD	岡戸、笠井、西村、深川（4名）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
7	令和6年 12月24日～27日	【第6回FD・SD委員会（学部合同）】 メール審議 ○FD・SDフォーラムの開催について ○GPS-Academicの受検率について	FD・SD  FD	岡戸、西村（2名）
8	令和7年 1月14日～17日	【第7回研究科FD・SD委員会】 メール審議 ○FD・SD活動報告書の作成について	FD・SD	岡戸、笠井、西村、深川（4名）
9	令和7年1月17日	【第8回FD・SD委員会（大学院合同）】 ○FD・SD活動報告書の作成について ○FD・SDフォーラムの開催方法について ○GPS-Academicの受検率について	FD・SD  FD  FD	岡戸、西村（2名）
10	令和7年2月12日	人間学部・大学院人間学研究科合同FD・SDフォーラム テーマ：人間学部におけるGPS-Academicの結果からみる人間学部の学修の傾向について 講師：ベネッセiキャリア安藤様	FD	一ノ谷、岡戸、笠井、櫻井、西村、水尾、宮嶋、畑中、原田、西山、深川（11名）

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 外国語学部 ）

## 1. 令和6年度の活動報告

外国語学部では、定例の教授会や各委員会等において、教育改善のための意見交換を行っている。ICT ワークショップ、授業方法の研修会、授業参観プログラム等を通して、総合的な教育改善を推進している。とりわけ英語教育委員会は必修の英語科目の担当教員を支援し、ICT 委員会は教員の ICT 能力を伸ばし、学務委員会は全体的にカリキュラムを改善することに努めている。

### 今年度の活動方針と目標

全学の共通テーマ「学生の学修成果を可視化する取組を踏まえた教育改善」を踏まえ、学部の各委員会と情報共有をしながら、教育内容に適合した形で、FD・SD 活動を推進する。

### 今年度の活動内容と実績（予定）

共通テーマに関連した取り組みとしては、以下のものを実施した。

- ・教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化についての検討  
今年度前期の成績について、学務委員会（9/5）および教授会（9/7）にて検討を行った。
- ・GPS-Academic の実施と結果分析  
今年度前期に検定を実施した。
- ・GPA 制度の更新をめぐる評価の分析  
教授会（9/7）以降、結果分析を今年度中に学務委員会にて実施する予定。

学部独自の取り組みとしては、以下のものを実施した。

- ・FD・SD 委員会の開催  
活動記録の通り、実施した。
- ・授業参観プログラムの実施  
活動記録の通り、実施した。  
特に「基礎演習 I」の FSP プログラムの最終提案については、SD としても実施した。
- ・各種研修会の実施（ハラスメント研修、ゼミナール関連、ICT 関連、学習支援関連）  
「2024 Writing Teachers Workshop」ほか5回のワークショップの実施（4/4、7/1、9/5、10/7、1/24）。

## 2. 今後の課題、方向性

今年度は、昨年度まで行ってきた授業参観を事務スタッフに拡大して行うことで、SDとして新たに位置づけを行った。またワークショップ形式では、英語授業における共通スキームの確認や、成績評価基準の平準化、学修成果の可視化をめぐって意見が交わされた。2026年度より新カリキュラムを進めるに当たって、現カリキュラムでのFD・SDの総決算を次年度は進めていきたい。

## 3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和6年4月4日	ワークショップ：「2024 Writing Teachers Workshop」 場所：DN402 時間：10：30～12：20 担当者：ウィキン	FD	教員：ロジャーズ、ディキンソン、藤原、西尾、ウィキン、マレー、ガラカー（計7名） 非常勤講師：ガスリー、オグラ、ラム（計3名）
2	令和6年4月30日	授業参観：「基礎演習1」 場所：DW304他 時間：13：10～14：40 授業担当：西尾	SD	事務：有菌、伊藤（計2名）
3	令和6年5月9日	授業参観：「海外留学入門」 場所：DN301 時間：9：10～10：40 授業担当：マイネハン	SD	事務：有菌（計1名）
		授業参観：「海外研修」 場所：DN410 時間：10：50～12：20 授業担当：池		
4	令和6年5月14日	授業参観：「基礎演習1」 場所：DW304他 時間：13：10～14：40 授業担当：西尾	SD	事務：有菌、伊藤（計2名）
5	令和6年5月23日	授業参観：「海外留学入門」 場所：DN301 時間：9：10～10：40 授業担当：マイネハン	SD	事務：有菌（計1名）
6	令和6年5月28日	授業参観：「基礎演習1」 場所：DW304他 時間：13：10～14：40 授業担当：西尾	SD	事務：有菌、伊藤（計2名）
7	令和6年5月30日	授業参観：「アメリカ地域研究」 場所：DN301 時間：10：50～12：20 授業担当：萩藤	SD	教員：マイネハン 事務：有菌、伊藤（計3名）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
8	令和6年6月11日	授業参観：「基礎演習1」 場所：DW304他 時間：13：10～14：40 授業担当：西尾	SD	事務：有菌、伊藤（計2名）
9	令和6年6月25日	授業参観：「基礎演習1」 場所：DW304他 時間：13：10～14：40 授業担当：西尾	SD	事務：有菌、伊藤（計2名）
10	令和6年7月1日	ワークショップ：「Fast Faculty Development： Three Free Vocabulary Tests」 場所：DN410 時間：15：00～15：30 担当者：ボイズ	FD	教員：ガラカー、ホール、 ディキンソン、メジア、ボイズ （計5名）
11	令和6年7月9日	授業参観：「基礎演習1」 場所：DW304他 時間：13：10～14：40 授業担当：西尾	SD	事務：有菌、伊藤（計2名）
12	令和6年7月15日	イベント：「難民映画祭」 場所：DS101 時間：16：30～19：30 担当者：宮下	FD	教員：藤原、鈴木（計2名）
13	令和6年7月15日	イベント運営：「難民映画祭」 場所：DS101 時間：16：30～19：30 担当者：宮下	SD	事務：井奈波、有菌、伊藤（計3名）
14	令和6年7月18日	授業参観：「海外留学入門」 場所：DN301 時間：9：10～10：40 授業担当：マイネハン	SD	事務：有菌（計1名）
15	令和6年9月5日	ワークショップ：「教員間もしくは授 業科目間の成績評価基準の平準化に ついて」 場所：外国語学部資料室 時間：14：30～14：50 担当者：FD委員会	FD	教員：岩井、富岡、日尾、津村、 柳沢、ウィキン、宮崎、プレーバー、 マイネハン、豊田、ロジャーズ、 マレー、萩藤、宮下、安達（計15名）
16	令和6年10月7日	ワークショップ：「AI Project Tools」 場所：DN409 時間：15：00～15：40 担当者：ガラカー	FD	教員：ウィキン、ボイズ、ホール、 マイネハン（計4名）
17	令和6年11月18日	FDセミナー：Fast FD no.6. KAKEN Project Application Process 場所：DN509 時間：15：00～15：30 担当者：ウィキン	FD	教員：ガラカー、マイネハン、 ホール、ディキンソン、ボイズ、 山口（計6名）

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
18	令和7年1月24日	ワークショップ：「English Discussion 教材作成」 場所：DN511 時間：10：00～13：00 担当者：マレー、ウィキン	FD	教員：ウィキン、ボイズ、ラム、 小倉（計4名）

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 総合学術研究科 ）

## 1. 令和6年度の活動報告

◀①学生の学修成果を可視化する取組に基づく教育改善▶

総合学術研究科の教育改善のために、入学から卒業までの学生の学びや成長を一貫して把握しながら構成員全員が議論・実践できるようサポートする。

◀②その他学部独自の取組（SD含む）▶

- ・「令和6年度 秋季 総合コアプログラム」の開催（9月14日開催）
- ・「令和6年度 海洋実習」の実施（8月22日実施）

三河湾において船舶による海洋観測を行い、愛知県水産試験場にて最新の海洋環境に関連する研究を学んだ。

## 2. 今後の課題、方向性

教育改善に向けて構成員全員が議論・実践できるよう、教育検討部会を中心に検討を継続する。より積極的に議論の場を設けることが今後の課題である。

## 3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和6年4月18日	「MS-26戦略プラン（部署版）」 及び「2024年度事業計画書（部署版）」 の再提出について	SD	景山、田中、加藤、木村、鈴木、 平松、和田、衣斐、香村、志村、 神藤、本田、伊藤 陪席：山田、小戸森、中村 計16名
2	令和6年5月16日	「MS-26戦略プラン（部署版）」 及び「2024年度事業計画書（部署版）」 の再提出について 「令和5（2023）年度 名城大学自己 点検・評価報告書（大学基準協会様 式）」の確認等について	SD	景山、田中、加藤、木村（委任）、 鈴木、平松、和田、衣斐、香村 （委任）、志村、神藤、本田、伊藤 陪席：山田、小戸森、中村 計14名
3	令和6年5月30日	秋季 総合コアプログラム開催要領 （案）について	FD	景山、加藤、木村（委任）、鈴木、 平松（委任）、和田、衣斐（委任）、 香村、志村、神藤、本田 陪席：山田、小戸森、中村、岡田 計12名

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
4	令和6年6月13日	2024年度 卒業・終了時アンケート (9月・3月)の実施について	FD	景山、田中、加藤、木村、鈴木、 平松(委任)、和田、衣斐(委任)、 香村(委任)、志村、神藤、本田、 伊藤 陪席：飯田、小戸森、岡田 計14名
5	令和6年6月27日	秋季 総合コアプログラム開催要領 (案)について	FD	景山、田中、加藤、木村(委任)、 鈴木、平松(委任)、和田、衣斐 (委任)、香村、志村(委任)、神藤、 本田、伊藤 陪席：飯田、小戸森、岡田 計12名
6	令和6年9月12日	秋季 総合コアプログラム開催につい て	FD	景山(委任)、田中、加藤、木村、 鈴木、平松、和田、衣斐、香村 (委任)、志村、神藤、本田、伊藤 陪席：飯田、小戸森、岡田 計16名
7	令和6年11月14日	「MS-26戦略プラン(部署版)」の見 直し及び「2025年度事業計画書(部 署版)」の作成について	SD	景山、田中、加藤、木村、鈴木、 和田、衣斐(委任)、香村、志村、 神藤、本田、伊藤 陪席：飯田、小戸森、岡田 計15名
8	令和6年12月12日	総合学術特論Ⅰ・Ⅱの教員構成につ いて	FD	景山、田中、加藤、木村、鈴木、 平松、和田、衣斐、香村、志村、 神藤、本田、伊藤 陪席：飯田、小戸森、岡田 計16名
9	令和7年1月16日	令和7年度 春季 総合コアプログラ ムの講演者について	FD	景山、田中、加藤、木村、鈴木、 平松、和田、衣斐、香村、志村、 神藤、本田、伊藤 陪席：飯田、小戸森、岡田 計16名

# FD・SD 活動報告

学部・研究科・センター（ 教職センター ）

## 1. 令和6年度の活動報告

### ・今年度の活動目標

教員志望学生の実践的指導力の向上及び教員採用試験合格者の確保と学芸員課程の充実を目標に、教職と学芸員に関する科目の授業改善に向けた研究交流および教育活動の効果的な運営を図るための研修を企画し、運営する。

### ・活動方針

上記を踏まえ、今年度の活動方針として、主に三つの取り組みを企画した。第一に、質の高い教員・学芸員養成を目指した教職・学芸員科目の授業改善に向けた研究、第二に、アンガーマネジメントおよびハラスメントに関する学習、第三に、学修成果の可視化、評価方法の研究（履修カルテ、アンケートの利用）、である。

### ・活動内容および実績

(1) 質の高い教員・学芸員養成を目指した教職・学芸員科目の授業改善に向けた研究について

第一の取り組みとして、本年は「より効果的な教授法・学生にとって効果的な学習法を考える」をテーマに、ICTの活用やDX推進の課題を取り上げた研究発表会を実施した。項目として、①「オンライン教育の効果と課題」、②「学習管理システム（LMS）の活用と学生のエンゲージメント」、③「教育データ分析を用いた学習支援」、④「AIによるアシスタントツールの活用とその教育効果」、⑤「DX推進における教職員のICTリテラシー向上の必要性」、⑥「大学の業務効率化に向けたDX推進の課題」を設定し、この中から教員が自由に選択して、各自の授業実践を振り返りながら、資料を作成し、発表を行った。それを基に、課題や今後の見通しについて教員間で議論した。また、教員が作成した資料をいつでも閲覧できるように、Googleドライブフォルダに格納した。

(2) アンガーマネジメントおよびハラスメントに関する学習について

第二の取り組みであるハラスメント等に関する学習会を二回にわたり行った。第一回目は「アンガーマネジメント」をテーマに、健全な職場環境および教育環境の維持を目的として実施された。外部講師を招聘し、参加者は怒りの感情のメカニズムや適切な対処法、さらに他者との良好な関係を築くための具体的な技法について学んだ。第二回目は「セクシャル・ハラスメント」についてであるが、これも外部講師を招聘して実施した。直接的なセクシャル・ハラスメントのみでなく、多様化の時代に必要なコミュニケーションの在り方や、無意識の偏見がもたらす影響についても触れられ、参加者が自身の言動を見つめ直すきっかけとなった。また、具体的なケーススタディを交えた講義により、より実践的な知識の習得が図られ、学内外での健全な関係構築に役立つ内容となった。

### (3) 学修成果の可視化、評価方法についての研究について

第三の取り組みとして、学生に対してアンケートを実施し、これを分析した結果から、学修成果の可視化、評価方法について検討する予定である。

また、教職および学芸員課程の授業を担当する非常勤講師、教職センター委員会委員を招き、主にFDについての情報交換及び交流を目的とした懇談会を開催する予定である。教職課程・学芸員課程の正課授業および教員採用試験対策指導の改善に繋げていきたい。

## 2. 今後の課題、方向性

### (1) FDの取り組みについて

本年度は、ICT活用やDX推進をテーマに研究会を実施し、ロイロノートやポートフォリオの活用などの有効性や、教育データ分析に基づく授業改善事例などが報告された。また、ICTの活用については、生成AIの剽窃や情報漏洩リスク、著作権侵害の懸念も指摘された。今後の課題として、デジタルツール活用のさらなる推進、教員間の情報共有促進、教員のデジタルリテラシーの向上が挙げられる。また、これらのツールを学生の自学自習に結びつけるための方策についても検討する必要がある。今後も、定期的な研究会を開催し、学生の自学自習に向けてのデジタルツールの活用事例の共有や新たな教育手法の検討を進めていく予定である。

### (2) SDの取り組みについて

本年度、ハラスメントの講習会を実施したが、本年度の研修成果を踏まえ、来年度もハラスメント関連の研修を継続する。また、障害学生支援の研修も新たに実施し、合理的配慮や支援体制の理解を深める。全体の研修を通して、全ての学生が安心して学べる環境の整備に努めたい。

### (3) 学修成果の可視化、評価方法の研究（令和7年3月開催予定）

### (4) 教職センター懇談会（令和7年2月開催予定）

## 3. 活動記録

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
1	令和6年4月30日	第1回 教職センターFD・SD委員会 今後の活動方針・内容について	FD・SD	木村、谷口 計2名
2	令和6年4月30日 (教職センター会議)	研究倫理教育の実施	SD	片山、櫛田、平山、竹内、木村、 谷口、嶋口 計7名
3	令和6年9月2日	第2回 教職センターFD・SD委員会 FD研究会の詳細について	FD・SD	木村、谷口 計2名
4	令和6年9月10日 (教職センター会議)	教員間、もしくは授業科目間の成績 評価基準の平準化についての検討	FD	片山、櫛田、平山、竹内、木村、 谷口、嶋口 計7名
5	令和6年9月24日 (教職センター会議)	令和6年前期授業改善アンケート結果 について	FD	片山、櫛田、平山、竹内、木村、 谷口、嶋口 計7名
6	令和6年10月4日	第3回 教職センターFD・SD委員会 SD研修会の詳細について	FD・SD	木村、谷口 計2名

回	日程	活動内容	FD・SD 区分	出席者
7	令和6年10月22日	第1回FD研究会（「より効果的な教授法・学生にとって効果的な学習法を考える1」）	FD	片山、櫛田、平山、竹内、木村、谷口、嶋口 計7名
8	令和6年11月8日	第4回 教職センターFD・SD委員会 2025年度事業計画案について	FD・SD	木村、谷口 計2名
9	令和6年11月12日	第2回FD研究会（「より効果的な教授法・学生にとって効果的な学習法を考える2」）	FD	片山、櫛田、平山、竹内、木村、谷口、嶋口 計7名
10	令和6年12月10日	第1回SD研修会（「アンガーマネジメント」）	SD	櫛田、平山、竹内、木村、谷口、嶋口、鈴木、神保 計8名
11	令和7年1月8日	第26回FD・SDフォーラム （大学教育開発センター）	FD	木村、谷口、嶋口、神保 計4名
12	令和7年1月14日	第2回SD研修会（「セクシャル・ハラスメント」）	SD	片山、櫛田、平山、竹内、木村、谷口、嶋口、鈴木 計8名
13	令和7年2月7日	第5回 教職センターFD・SD委員会 教職懇談会について、今年度の活動の総括	FD・SD	木村、谷口 計2名
14	令和7年2月12日 （教職センター会議）	第3回FD研究会（学生の学修成果を把握、評価するための調査 2024年度）	FD	片山、櫛田、平山、竹内、木村、谷口、嶋口 計7名
15	令和7年2月13日	教職センター懇談会	FD	教職センター専任教員（片山、竹内、櫛田、谷口、平山、嶋口、木村）、教職センター開講科目担当非常勤講師（内田、毛利、加藤、鶴飼、平山、小林、正村、中山）、教職センター委員会委員（植木）、事務職員（鈴木） 計17名



## 6. トピックス



# FD・SD フォーラム・FD・SD 学習会・ 新任教員 FD・SD 研修会 実施概要

## 1. 第26回 FD・SD フォーラム

日 時：令和7年1月8日（水）13：00～14：50

開催方法：Zoom ウェビナーによるオンライン開催

テ ー マ：学生の成長を支える授業設計

基調講演テーマ：授業時間中の学習を促す授業設計

基調講演講師：中島 英博 氏（立命館大学 教育開発推進機構 教授）

事例報告テーマ：どうしたら学生の成長を支えることができるのか 心理学の授業における一考察

事例報告講師：原田 知佳 氏（人間学部 准教授）

## 2. 第20回 FD・SD 学習会

日 時：令和6年8月1日（木）11：00～12：00

開催方法：Zoom によるオンライン開催

テ ー マ：高等教育における合理的配慮～アクティブ・ラーニングの進め方と成績評価の手法～

講 師：田中 真理 氏（九州大学教育学部教授・基幹教育院教授・インクルージョン支援推進室長）

## 3. 新任教員 FD・SD 研修会

日 時：令和6年4月22日（月）～9月13日（金）まで

プログラム名：全国私立大学 FD 連携フォーラム「実践的 FD プログラム」【オンデマンド】

対象講義：「FD」区分の中から一講義以上、「SD」区分の中から一講義以上を受講

# 名城大学 第26回 FD・SD フォーラム

テーマ：学生の成長を支える授業設計

日時：2025年1月8日(水) 13:00~14:50

開催方法：Zoom ウェビナー

## 【開催趣旨】

Society 5.0 時代を迎え、社会が急速に変化する中、高等教育では学生が生涯にわたって主体的に学び続ける力を育むことが重要な課題となっています。変化の激しい時代を生き抜くためには、知識習得だけでなく、自ら課題を発見し、学び続けることのできる自律的な学修者の育成が不可欠です。

そのため、高等教育では「何を教えた」から「何を学び、身につけることができたか」への転換が期待されています。しかし現状では、知識の伝達と定着に重点が置かれ、その知識を活用した主体的な思考・判断の機会が十分ではない場合も見られ、これは学生の成長を支える上での重要な課題となっています。

本フォーラムではこうした課題認識のもと、学生の成長を支える授業設計について理論と実践の両面から探究し、参加者の教育実践に活かせる具体的な示唆を提供します。



### 基調講演

「授業時間中の学習を促す授業設計」

中島 英博 氏（立命館大学 教育開発推進機構 教授）

### 【お申し込み方法】

以下の URL または QR コードからお申し込みください。お申し込み後、参加方法の詳細が自動メールにより送付されます。

[https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN\\_ZgvGaoL2TkyMqFbDEhftvQ](https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_ZgvGaoL2TkyMqFbDEhftvQ)



### 事例報告

「どうしたら学生の成長を支えることができるのか  
心理学の授業における一考察」

原田 知佳 氏（名城大学 人間学部 准教授）



【お問い合わせ先】名城大学 大学教育開発センター

E-Mail : edcenter@ccml.meijo-u.ac.jp

TEL : 052-838-2032 (内線 : 2653)

**MEIJO**<sup>th</sup>  
MEIJO UNIVERSITY 1926 ~ 2026

# 第26回 FD・SD フォーラム実施報告

## 「学生の成長を支える授業設計」

### 1. 実施概要

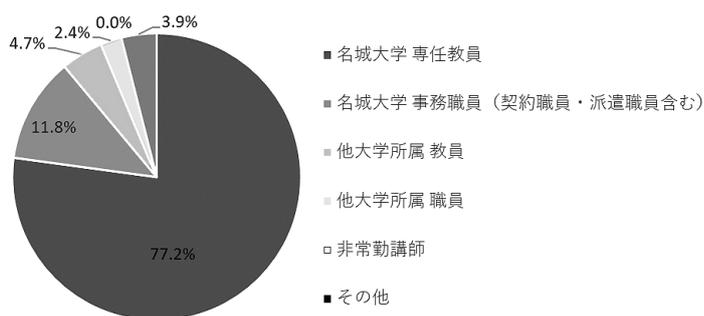
- ・日 時：令和7年1月8日（水）13：00～14：50
- ・開催方法：Zoom ウェビナーによるオンライン開催
- ・基調講演テーマ：授業時間中の学習を促す授業設計
- ・基調講演講師：中島 英博 氏（立命館大学 教育開発推進機構 教授）
- ・事例報告テーマ：どうしたら学生の成長を支えることができるのか 心理学の授業における一考察
- ・事例報告講師：原田 知佳 氏（人間学部 准教授）
- ・参加者数：130人  
（本学専任教員等100人、本学事務職員等15人、他大学教員6人、他大学職員3人、その他6人）

### 2. アンケート方法等

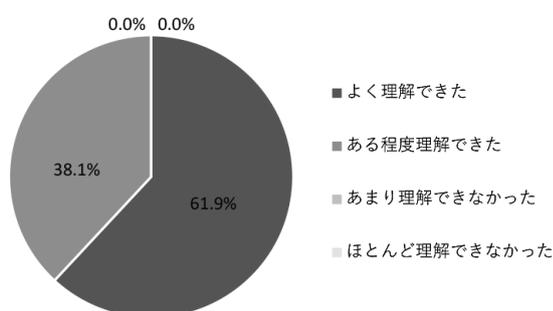
- ・アンケート方法：Google フォーム
- ・質問項目：以下のとおり
  - ①所属をお知らせください。
  - ②基調講演の内容は、理解できましたか？
  - ③基調講演の満足度について教えてください。
  - ④基調講演において、関心を持ったポイント、重要だと感じたポイントを教えてください。
  - ⑤事例報告の内容は、理解できましたか？
  - ⑥事例報告の満足度について教えてください。
  - ⑦事例報告において、関心を持ったポイント、重要だと感じたポイントを教えてください。
  - ⑧企画内容について、ご意見や感想がありましたら、ご記入ください。
- ・回答者人数：84人
- ・質問④、⑦、⑧については主な意見のみを示しています。（※一部抜粋・改稿を含む）

### 3. アンケート結果

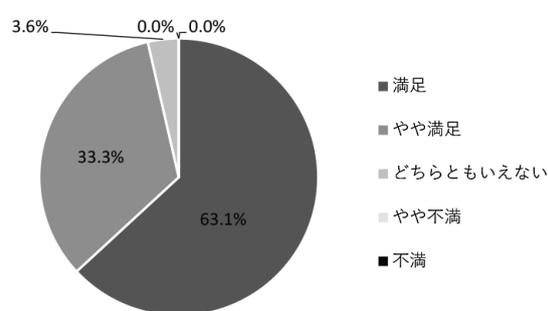
①所属をお知らせください。



②基調講演「授業時間中の学習を促す授業設計」の内容は、理解できましたか？



③基調講演「授業時間中の学習を促す授業設計」の満足度について教えてください。

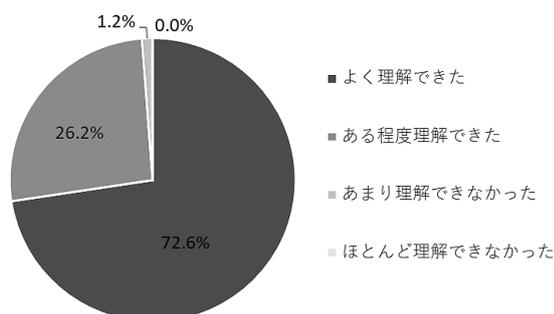


④基調講演「授業時間中の学習を促す授業設計」において、関心を持ったポイント、重要だと感じたポイントを教えてください。

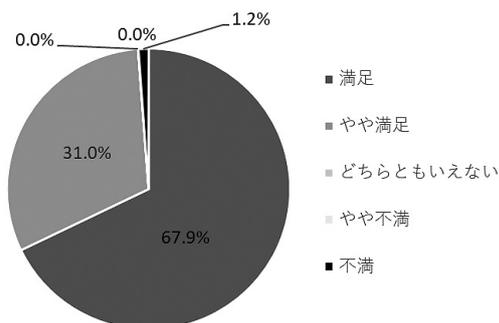
- ・内化と外化のサイクル。
- ・学習活動の設計例を多数用意いただき、結論へつなげていくところ。
- ・内化と外化の組み合わせ方。
- ・内化 外化 内化 と分けるところ。
- ・マクロな視点からの科目編成。
- ・カリキュラムで対応する、時間割のあり方を検討する。
- ・カリキュラムの設計を工夫する。
- ・学生が成長を実感できるよう外化の工夫に取り組む。
- ・外化が不可欠と感じた。外化をどう活用するか、が大切。
- ・授業構成における内化と外化の統合。
- ・到達目標実現のための方法論について。
- ・授業設計において学生の実体験を通じて活かせるような工夫が重要だと感じた。
- ・個別教員の努力に委ねず、組織が責任を持って設計すること。
- ・学生の自学自習時間の確保には、単位制やカリキュラムの大幅な改正など、組織としての対応が重要だと思っていましたので、今回のお話においても「組織的に取り組む」の部分に関心を持ちました。

- ・組織としての取り組みの重要性。
- ・適切な授業設計を無理なく行うために、カリキュラム、時間割配置の見直しなども必要であるという点。
- ・教育の質向上に関しては、そろそろ教員個人レベルでの対応は難しくなっており、組織レベルでの対応が重要になっているのではないかという問題提起には、まさにその通りという感を強くした。
- ・内化と外化を組み合わせた学習活動事例や授業設計を組織的に取り組まれている内容がとても興味深く感じられました。
- ・授業設計について、個別教員の努力に委ねず、組織が責任を持つことは、合理的かつ必要な視点と考えます。しかしながら一方、一部の教員からは授業内容への大学の介入ととらえられ、実施については困難が予想されます。立命館大学では、このような問題はなかったのか、お伺いできればと思いました。
- ・個別教員の努力に委ねず、組織が責任を持って設計という部分。
- ・内化と外化を組み合わせるという点ですが、基礎科目では外化の設定が難しいとは思いました。
- ・内化と外化のサイクルを1つの授業内で取り入れるという点から、より自分の授業で明確に取り入れてみようと思った。
- ・授業の構成原理に対する考え方。
- ・過度な網羅主義および活動主義に陥らないことと、内化と外化のサイクルをうまく確立することが大事だと思いました。
- ・先生方個人の努力はもちろん、大学（学部）として取り組むことの重要性がよく分かりました。
- ・アクティブラーニングを有効的に実行するには従来のカリキュラムから抜本的な見直しをすることも必要だと感じました。
- ・演習や実習の重要性、興味関心を高める工夫などが教育効果を高めるポイントと感じた。
- ・学んだことをすぐに使うこと、知ったことをすぐ試すことで、成長実感を感じる。
- ・科目の統合や大括り化、時間割のあり方を検討する（Umass Boston の例）。
- ・内化と外化をうまく工夫して繰り返すことで学生の学修効果を高められることが分かった。

⑤事例報告「どうしたら学生の成長を支えることができるのか 心理学の授業における一考察」の内容は、理解できましたか？



⑥事例報告「どうしたら学生の成長を支えることができるのか 心理学の授業における一考察」の満足度について教えてください。



⑦事例報告「どうしたら学生の成長を支えることができるのか 心理学の授業における一考察」において、関心を持ったポイント、重要だと感じたポイントを教えてください。

- ・学生の匿名化の解消は重要だと思う。これは学務のシステムの話になりますが、履修者名簿を配布される際に、受講生の顔写真がつくようになると、大教室での講義における匿名化の解消に大変役立つと思う。
- ・学生の名前を覚える点は、講義科目に加えて、実験・実習でも重要だと思いました。
- ・大福帳の作成、学生の非匿名化。
- ・Be Realに関しては、私も対応に困っていたのですが、良いアイデアをいただいて、助かりました。学生とのかかわり方や参加を促す工夫をしていくことが大事だと思いました。
- ・授業内で学生参加を促すことによって、成長実感につながるという点にヒントを得た。
- ・非匿名性（160人の名前覚えられるように頑張ります）。
- ・大福帳やグループワーク等による双方向コミュニケーション。
- ・大福帳、「全員がリーダー」の高いパフォーマンス、ランダムで出欠確認等。
- ・学生の名前を覚えることは重要だと感じました。
- ・WebClass 大福帳を用いた学生の理解度判定。
- ・受講している学生を理解しようとする姿勢。
- ・逸脱行為への対応方法。
- ・学生の名前を覚える。授業内容と実生活を関連づける課題を与える。これらを取り入れたい。
- ・逸脱行為を生起しにくくする環境づくり、実体験をさせて考えさせる。
- ・疑問に思ったことを、自分で調べることで、応用が可能となる点。
- ・学生からの声にひとつずつ対応する話。
- ・匿名可掲示板の利用。
- ・学生は必ずしも受け身ではなく、少し刺激を与える（工夫をする）ととても意欲的に授業に取り組み、成長をするのだということを実感しました。
- ・単純ではありますが、個々の学生との細やかなやり取りが重要だということを再認識した次第です。

- ・受講生の非匿名性を高める（名前を覚える）点。
- ・大講義室においても学生一人一人とのやりとりを行うことで、学生の意欲を促すことができると思った。
- ・非匿名状況の重要性は理解できるが、通常の記憶力では実現が困難ではないかと思った。非匿名状況が有効であること。成長を実感する大講義（147名）(上位10の特徴リスト)。
- ・学習時間の増加に向けた取り組み。
- ・非匿名化については、（原田先生がおっしゃっていた有益性はもちろんございますが、）意図していないプレッシャーを学生に与えてしまう可能性も懸念され、運用がやや難しいようにも思いました。
- ・任意課題による加点が効果的であるということ。講義の意義を学生に理解してもらうことが成長実感の第一歩であるということ。
- ・身近なサンプルの提示。匿名性の排除、ただし200名以上の大人数教科でどう実現すればよいか。
- ・授業改善アンケートからの学生の声に対し、真摯に向き合い、改善に取り組まれている先生方の対応内容や現場の生の声をお聞きすることができ、とても勉強になりました。

⑧企画内容について、ご意見や感想がありましたら、ご記入ください。

- ・今後の授業に活かしてゆきたい。
- ・いつも以上に勉強になりました。ありがとうございました。
- ・自分の講義でも活用したいアイデアがおおかったので有意義でした。
- ・今回のように、自分の講義にすぐに導入できそうなことを紹介していただけるとありがたい。
- ・教育論を否定するものではないし誤った内容ではないのだと思うが、教育を提供する側がどう頑張ったとしてもその意図に寄り添える学生でなければまったく意味はない。大学本部には学生数を確保して経営のことばかり考えるのではなく、自ら学ぶ意欲のない学生の排除は辞さないという意識を持っていただきたい。末端は疲弊するばかりだ。
- ・貴重な話題をご提供いただきありがとうございます。
- ・職員という立場ですが、学生とどのように接するといいかを学ぶ機会になりました。
- ・授業に近いお話しでしたので、多くの教員にとって有用だと思いました。
- ・やはりどの先生方も、ぎりぎりのリソースでやりくりをしているという印象を強く持っています。そのあたりの手当てをどうするべきか、全学的に考える必要がありそうです。
- ・学習の「主体性」なるものの概念が、学問領域によって異なるように思いました。その違いを、大学全体の教育目標、あるいはFD活動としてどのように扱うのかを問うてもよいのか、問題にする必要はないのか、もやもやしています。
- ・到達目標実現のための方法論について、現実的な制約（大学カレンダーや講義回数等）との整合の取り方は大学ごとに事情が異なるため、必ずしも他大学事例を単純移植できないと思われた。
- ・原田先生からご紹介がありました、学生が感じる成長実感のある授業の上位にある取り組み

は、本学でも授業アンケートの上位となっている科目でも実施されているものと重なり、授業アンケートの有効性を感じることもできました。

- ・この度は貴重な研修会にお招きいただきありがとうございました。また機会がありましたらお声がけいただけますとありがたい限りです。
- ・特に原田先生の講演で、調査結果が生かされていると実感できまして、ありがたいと思いましたが、身が引き締まる思いを感じました。
- ・特に中島先生の「学習活動の設計」については、非常に具体的で参考になった。
- ・学生の学びを深め、自学自習時間を確保するには、名城大学もこうした個性的で特色のある授業設計や柔軟な授業時間の設定、独自の単位設定など、抜本的な改革が必要だと思いました。
- ・毎回非常に貴重なお話を拝聴でき、大変勉強させていただいております。今回も参加させていただき、誠にありがとうございました。

# 当日配布資料



1

2024年度 名城大学FD・SDフォーラム  
 授業時間中の学習を促す授業設計

中島英博 | 立命館大学

1

2

学生の成長実感を支える授業設計

■ 開催趣旨

- 学習が暗記にとどまっている
- 学生の本質的な成長につながっていない
- これらは授業設計の工夫で改善可能である

■ 話者の立場

- 既に成長実感が得られる授業はある（卒研・実習等）
- 成長を実感できるだけの学習時間が少ない
- 授業設計の工夫で学習を改善する余地はある
- 個人の努力を超えて組織的な取り組みも必要

2

3

要旨

■ 授業設計の基本

- 内化と外化のサイクルで設計する

■ 学習活動の設計

- 外化の機会・時間を十分に確保した進行とする
- 概念を実際に使ったり自分の経験と照らし合わせる外化を求める

■ 組織的に取り組む

- 科目の大括り化と学習時間の確保

3

4

授業設計の基本

4

5

2つの失敗 (Wiggins and McTighe 1998)

■ 網羅主義

- 「教えることが多すぎる」
- 「教科書をカバーしなければいけない」
- 内容に焦点化しすぎ
- 表面的な学習を促す
- 教員の活動中心で学生の学習中心でない

■ 活動主義

- 「リアルな経験をすれば学習の刺激になるだろう」
- 「アクティブラーニングを取り入れよう」
- 方法に焦点化しすぎ
- 断片的な学習を促す
- 学生の活動中心で学生の学習中心でない

5

6

目標・評価と整合した授業方法を選ぶ

■ 到達目標

- 専門的概念の理解
- 概念を問題解決場面への適用・活用と批判的思考

■ 学習評価の内容と方法

- 多肢選択問題試験

■ 学習活動

- 講義の聴講

6

### 目標と評価が整合しない例

■ **工学系の授業での例**

**到達目標**

- 動力学の基礎のうちエネルギー概念、解析力学に関する知識を修得し、理解する。
- 講義で学んだ知識をもとに、工業上の諸問題を解く能力を身につける。
- 既に学んだ基礎的な内容に基づいて、系統的な方法を用いて新しい問題にアプローチする。

■ **筆記試験で評価**

7

### 基本となる学習サイクル (森・溝上 2017)

■ **内化のない外化：形だけのアクティブラーニング**

■ **外化のない内化：わかったつもりにとどまる学習**

8

### 大学での活用例

■ **既に多くの科目で活用されている**

- ただし、学習時間全体に占める割合は小さい
  - 初年次演習は1学期に1科目
  - 実習等の科目は高学年次のみ

	内化	外化	内化
実習型	事前指導	現地実習	実習報告
現地調査型	事前学習	現地調査	調査報告
反転学習型	講義動画視聴	演習・議論	省察課題
基礎科目型	基礎内容予習	演習・チュートリアル	応用問題解答
教養演習型	事前文献読解	議論	論述課題
症例学習型	自己学習	チュートリアル	確定診断

9

### 学習サイクルを取り入れた授業設計 (Fink 2003)

	1	2	3	4
授業内学習活動	初回の導入	演習・議論	演習・議論	演習・議論
授業外学習活動		文献読誦	論述課題 文献読誦	論述課題 文献読誦

■ **授業前**

- 講義動画の視聴 (基礎概念の習得)
- 指定文献読解 (予備知識の習得)
- 基礎練習問題の解答

■ **授業時間中**

- 事前学習の確認小テスト・相互採点
- 事前学習の質疑応答・チュートリアル
- 応用課題の提示・解説
- 誤解しやすい概念の解説・相互学習
- 予習知識を用いた問題解決・事例適用
- 口頭発表の準備・実演

■ **授業後**

- 応用問題の解答
- 指定論題に関する論述
- 口頭発表等のパフォーマンスに関する省察

10

### 学習活動の設計

11

### 学習活動の設計例1

■ **VOD・対面のブレンド型授業**

- 教養・教育学分野・多人数授業
- テーマ：映像で学ぶ教育学
- 毎回の授業で概念・理論を紹介、一般公開された報道映像の場面に概念や理論を適用して解釈する学習
- 2回の授業を1セットにして進行
- 1回目 (VOD) の構成
  - 事前文献読解 → 内容確認クイズ → 講義動画 → 内容確認クイズ → 短文論述
- 2回目 (対面議論) の構成
  - 提出した短文論述交換 → 自身の学校経験紹介 → チームで概念の説明作成 → 個人で短文論述

12

## 学習活動の設計例2

### ■ 実演・議論中心の授業

- 大学理念科目・中人数授業
- テーマ：ピア・サポーター育成
- 毎回の授業で対人技法を紹介、授業中に使用して振り返る学習、授業終盤は技法を用いた支援実演
- 授業の進行
  - 事前文献読解 → 理解度確認 → 内容確認 → 演習・ロールプレイ・シミュレーション・議論の指示 → 実演 → 省察・議論 → 短文論述
  - 学生支援企画の立案と実行



<https://www.ritsumei.ac.jp/liberalarts/course/course-r.html/> 13

## 学習活動の設計例3 (経済学部・市野先生)

### ■ 反転授業

- 専門科目・中人数授業
- テーマ：国際経済学
- 毎回の授業を演習問題中心とし、学生間の教え合いで進行
- 授業の進行

1週間前	(教員) 教科書の予習箇所、動画、配布物、演習問題の掲示
3日前まで	(学生) 予習での疑問をLMSへ提出
前日まで	(TA) 提出された疑問の整理 (教員) 回答を作成してLMSに掲示
授業当日	(教員) 疑問への回答の解説 (学生) 演習問題への取り組み (教員・TA) 教室巡回・質問回答
授業後	(学生) 演習問題解答提出・小テスト受験 (教員) 演習問題・小テスト回答例掲示

<https://www.ritsumeai.ac.jp/open-univ/course/detail/?id=44> 14

## 学習活動の設計例4 (文学部・田中先生)

### ■ フィールド課題への準備

- 教養科目・中人数授業
- テーマ：京都学（歴史学・地理学）
- 京都の諸問題に迫る方法を実際に現地を訪れることで得られる知見を授業で紹介し、学期末の自身で取り組む現地訪問課題に備える進行
- 学期末課題
  - 授業内容をふまえ、自ら研究テーマを決めて論述
    - 京都市外における鉄道の変遷、産寧坂地区の人気の理由、都駅前の「電気鉄道事業発祥地」の記念碑、丸太町橋の女紅場址
  - テーマに関する場所について文献や映像で調べる+自ら訪問して得られた知見を示す
  - 場所の写真を添付して概説を加える、どの位置から撮影したかの地図を添付する

<https://www.ritsumeai.ac.jp/lt/kyoto/crossmajor/> 15

## 学習活動の設計例5 (理工学部・宇野先生)

### ■ 短い内化と外化を組み合わせた授業

- 専門科目・中人数授業
- テーマ：電子回路
- 予習・授業時間・復習のそれぞれに、内化と外化の過程を取り入れた進行
  - 短い講義や解説と短いクイズを複数回繰り返しながら1回分の授業内容を習得する
- 授業の進行

予習	講義動画 (15分) 公開 → 動画資料に教員メモをつけたノート配布 → LMS上で授業中の例題に関するLMSクイズ
授業時間	簡易講義 → 例題を学生間で教え合って解答 → 解答に応じて詳細講義
復習	授業中の講義動画公開 → 小テスト受験

<https://www.ritsumeai.ac.jp/lt/assets/file/publication/h/v052.pdf> 16

## 外化のためのICTツールを活用する

### ■ BYOD (Bring Your Own Device) を指示する

- 多人数授業でも授業時間中の外化と共有が容易になる

小テスト	• 事前学習の理解度や個人の意見を、個人を特定して確認したい場合
アンケート (Zoom投票)	• 事前学習の理解度や個人の意見を、クラス全体の傾向として共有したい場合
Padlet, slido (Zoomチャット)	• 事前学習の要点・感想等、議論の導入として意見を出す場面を作る場合
クラウドワークシート	• まず個人の意見を出してから、学生間の意見交換を行う場合 (文書ファイル等でワークシートを用意し、チャットやmoodleから配付し、記入した後で画面共有をしながら説明)
クラウド共有スライド	• 参加者間で議論を通して意見を整理・再構成して発表する場合
付箋ツール (miro等)	• 参加者間で議論を通して意見を整理・再構成して発表する場合 出された意見を教員が整理・再構成して論点を提示する場合

17

## 学習活動の設計

### ■ 学生は外化の過程で成長する/成長を感じる

- 教員は外化の工夫に取り組む
  - 学んだことをすぐに使う・知ったことをすぐに試す
  - 課題に取り組む際に、自分の興味・関心や経験を活かせる
- 外化のための十分な時間を確保する
  - 複数回の外化や、小さい内化と外化の繰り返して試行錯誤の時間を確保することもポイント
- 自ら外化する課題や活動 (AI-proofな課題や活動) を用意することもポイント

18

組織的に取り組む

19

### 授業設計で取り組む限界

■ 学生の学習状況

- 科目の履修状況と学習時間

	1年次	2年次	3年次	4年次
年間履修科目数(科目)	23	21	19	8
1週間の授業外学習時間(時間)	2.5	2.6	3.5	4.3

■ 学習時間が少ない

- 科目数が多く、学習が細切れになっている
- 成長実感につながる授業もあるが、全体の中では少数
- 少数の課題に集中すれば、学習時間は増える余地がある  
(研究室配属や卒業研究は日本の大学教育が持つ強み)

■ 個別授業でなく、カリキュラムで対応する

20

### カリキュラムで対応する

■ 学期あたりの履修科目数を減らせないか？

- 1学期あたり3~4科目
- 1科目の単位数を8~10単位に
- 1科目を週複数回開講する
- 1科目あたりの学生数を減らし、複数クラス開講する

■ 既存のカリキュラム・学年暦・時間割・教員数で行うには？

- まず既存科目の共同実施から
- 可能なら2時限連続科目の活用など

21

### スポーツ健康科学部の例

■ 文理融合型の学部

- スポーツサイエンス、健康運動科学、スポーツ教育学、スポーツマネジメントの4領域(教員36名)

■ PBL1・2(2年次必修、月曜3・4限、4単位)

- PBL1: シナリオ学習
  - 3回を1モジュールにして4領域の課題に取り組む
  - 例: サプリメントが筋損傷・筋疲労の回復効果を持つかを確認する実験計画を立案して実施
- PBL2: プロジェクト学習
  - 学外連携先の課題解決に取り組む
  - 例: 草津市の小中学校で児童・生徒の体力向上を図る、鳥根県隠岐島の小中学生にスポーツパフォーマンス向上クリニックを実施する、従業員の健康増進につながる具体的な運動プログラムを提供する

22

### 全学部教員が関与する授業設計

■ 授業の準備

- 4領域から複数教員が参加してコアチーム形成
- PBL1=シナリオ開発、PBL2=プロジェクト
- コア教員が領域教員からアイデア、教材、プロジェクト案を集めてコアチームで検討

■ 授業の実施

- 1学年245名→8クラス(1クラス30名)
- 1クラス: 1教員+2~3TA、5~6チーム
- PBL1は4シナリオ実施(各シナリオ2~3段階)
- PBL2は45プロジェクトを用意、学部教員がプロジェクトスーパーバイザーを務める(クラス教員とは別)
- プロジェクトの進行は学生の主体に委ねて実施

23

### PBLの成果の一部

■ 大きく飛躍する例も出る

- 当初ゴールを学生が主体的に変えてプロジェクトを実施

2024.12.26

「お米の価値と可能性」のテーマでPBLプロジェクト活動を行いました。

PBLのプロジェクト活動を学生が報告します。

PBLとはProject Problem Based Learningの略称であり、スポーツ健康科学部で学んだ知識とスキルを実践の現場で応用する授業です。各自の関心のあるテーマを交差し、社会的・学術的に意義のあるプロジェクトを生み出すことを目標としています。

「お米の価値と可能性」をテーマにプロジェクトを進めています。本プロジェクトの最終ゴールとして、生活協同組合との連携のもと、お米の価値を活かした「大学産米」の開発を目指しています。

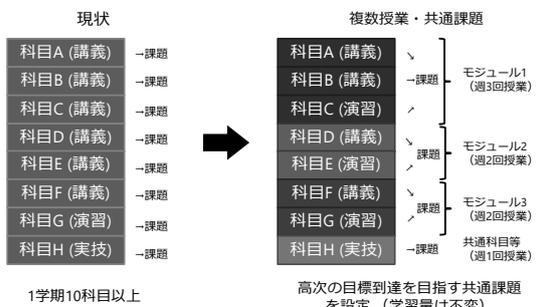
プロジェクトの前半では、東洋ライオン社と鳥根県と大津市との連携によりお米の価値について学びました。

24

25

## 科目の統合や大括り化

### ■ まず複数科目の共同実施から



25

26

## 時間割のあり方を検討する

### ■ 内化と外化の組み合わせがしやすい時間割

- 柔軟な時間設定、週複数回授業、複数時限連続授業

### ■ Umass Bostonの例

- 月・水・金：1限 = 50分
  - 講義・演習セット授業が多い
  - 1科目 = 週1回50分講義 + 週1回2限連続100分演習
- 火・木：1限 = 75分
  - 週1回2限連続の実験科目が多い
- 土：1限 = 180分
  - 学外での調査・実習・実演が多い

26

27

## 成長につながる授業設計

### ■ 個別教員による工夫

- 内化と外化のサイクルを取り入れた授業設計
- 高次の能力発揮を求める外化（応用・発展・挑戦）の機会と時間の確保

### ■ 個別教員の努力に委ねず、組織が責任を持って設計

- 優れたカリキュラムを作る教員集団
  - 授業や教育に関する日常的な意見交換機会
  - アイデアを形にする教員への支援
- 組織で学習課題をつくり学習活動を計画する
  - 学習内容と社会・職業との接点を見つけて課題にする
  - 教員間で既存課題を持ち寄り、議論を経て発展させる
  - 1つの科目を複数教員で運営する

27

28

## 参考文献

- Fink, L. (2003) Creating significant learning experiences: An integrated approach to designing college courses, Jossey-Bass.
- 森朋子・溝上慎一 (2017) 『アクティブラーニング型授業としての反転授業（理論編）』ナカニシヤ出版
- Wiggins, G. and McTighe, J. (1998) Understanding by Design, Association for Supervision and Curriculum Development

28

1

REALIZE  
実現する、次の100年へ

**どうしたら学生の成長を支えることができるのか**  
～ 心理学の授業における一考察 ～

原田 知佳  
(名城大学人間学部・人間学研究科)

名城大学 MEIJO  
UNIVERSITY

2

**登壇依頼を受けて…**

非常に練って完成された授業が遂行できているわけではない…

限られたエフォートの中、ギリギリの状態です授業を回してしまっている…

比較的高評価の理由は科目特性の影響大  
 ✓ 産業・組織心理学: 就活真っ最中の学生は最初から興味津々。就活に活かして、成長実感は当然の流れ。  
 ✓ 司法・犯罪心理学: ドラマ・漫画で興味ある学生多い。人はネガティブ事象に惹かれる(ネガティブバイアス)。

3

**「成長実感」項目：Webアンケートを導入したH28年度から収集開始**

H28：発達心理学 回答者：60/127人 (47%)      R6前期：産業・組織心理学 回答者：114/159人 (72%)

■学生の評価  
【成長実感(%)】  
この授業を通じて、あなたは知識やスキルを身につける等、成長を実感することができたと思えますか

(強く+やや+そう思うのスコア)

R1年頃から、成長実感95%前後、回収率約70%で安定

4

**「成長実感」項目：Webアンケートを導入したH28年度から収集開始**

H28：発達心理学 回答者：60/127人 (47%)      R6前期：産業・組織心理学 回答者：114/159人 (72%)

**なぜ成長実感が10%上がったのか？を考察してみたい**

(強く+やや+そう思うのスコア)

R1年頃から、成長実感95%前後、回収率約70%で安定

5

**H28年→R1年：授業に取り入れたもの**

- FDフォーラムで紹介された①**大福帳**の導入
- ✓ 大福帳: 主に大講義における学生と教員のコミュニケーションツール
- ✓ 大講義だと学生一人一人の反応を確認しにくい、それをフォローできる

・当初は用紙1返答したりスタンプ押ししたり…  
 ・1枚の紙に15回分書けるので、学生もこれまでの授業内容コメントを見返すことが可能

司法・犯罪心理学		大福帳 コミュニケーションカード	
学籍番号	学年	氏名	
			返答欄

6

**大福帳：授業外学習も促進できるか**

- 人間学部：原田の着任当初より、自学自習時間が低いと指摘され続ける…
- ✓ 実験演習や統計授業はレポート課題がかなり出るので授業外学習時間多いはずだが、演習は授業改善アンケート対象科目外…
- ✓ 200人講義で演習系なみの課題を出すのは難しい…そこで…

R5年度授業評価アンケート結果報告書  
 また「自学自習時間」と「授業満足度」の関係を授業分布図から確認したところ、自学自習時間も長く、授業満足度も高いのは「外国語学部」「薬学部」となった。しかし、「人間学部」「教職課程・学芸員課程」などのように授業満足度は高いが、自学自習時間の短い授業もみられる。(Page.50-56)

7

### 大福帳に書いてもらうこと

1. 授業を受けて考えたこと(研究知見の別解釈や考察も大歓迎)
2. 疑問に思ったことを自分で調べて報告
3. 授業に関連する文献を読み、「文献に書いてあったこと」「読んで考えたこと」をまとめる
4. 【産組心】身近にいる社会人(家族・親戚・知人など)と授業内容について話し合っただけの点をまとめる
5. 授業に関する要望・感想など何でもOK

⇒優れた内容には加点 (○:1点、◎:2点、⊕:3点)

8

### コロナ禍以降：WebClass匿名可掲示板で

- WebClass大福帳のメリット
  - ✓ 教員が楽(回収・配布しないでOK、スタンプ不要、かいつまんで返答)
  - ✓ 返答で全体周知できる
  - ✓ 学生「他の人の考えを知ることができて勉強になる!」、学生同士のやり取りも可能に
- WebClass大福帳のデメリット
  - ✓ 15回分まとめて見返すことが不可能
  - ✓ 返答しても見てくれているのか不明…
  - ✓ 学生「WebClass開くのが面倒」「用紙の方がいい」

9

### 大福帳：授業外学習への効果は？

- 大福帳:学生からの評判は良い!興味深い考察や自分が知らない論文を紹介してくれるケースもあり、教員も勉強になる!が…頑張っ書いてくれるため、読んで返答が大変…

10

### 授業外学習への効果は？

- 全員強制提出は数回、あとはやりたい人だけやる方式…
- 強制提出回数を増やせば自学自習時間は増えるが、エフォートとの兼ね合い…

H28：発達心理学  
回答者：60/127人 (47%)

【自学自習時間%】  
あなたは、この授業のために1週間あたり授業外でどのくらい勉強をしましたか

	週3時間以上	週1時間以上 週3時間未満	週30分未満	週30分未満 週1時間未満	勉強して いない	無回答
平成28年度後期 (N=60)	0	3	23	33	40	0

R5後期：司法・犯罪心理学  
回答者：119/163人 (73%)

【自学自習時間%】  
あなたは、この授業のために1週間あたり授業外でどのくらい勉強しましたか。  
あなたは、以下のものは授業外の勉強に該当します。  
・授業の予習・復習・授業の課題・授業に関わる読書(テキスト・参考文献以外も含む)  
・授業に関する友人との会話

	週3時間以上	週1時間以上 週3時間未満	週30分未満	週30分未満 週1時間未満	勉強して いない	無回答
令和5年度後期 (N=119)	8	29	25	24	13	0

大福帳書く学生の自学自習は増やせるが、全学平均並み…

11

### ②利用価値介入に基づく取り組み

- 利用価値介入(Canning & Harackiewicz, 2015):学習内容に対し、自分の人生や生活における有用性・価値を認識させることで学習者の興味や学業パフォーマンスを促進させる介入
- ✓ 直接伝達<自己生成<直接伝達+自己生成

グループ	成功期待が高い学生	成功期待が低い学生
統制群 (比較対象)	~18	~15
自己生成群	~25	~12
直接伝達群	~22	~12
両方群	~22	~18

12

犯罪心「自分が、自分の大切な人が、いつ被害者・加害者になるかわからない。もうなっているかもしれない。そうしたときに持っている損はない知識。」

**学習内価値を認識させることで興味や学業パフォーマンスを促進させる介入**

- ✓ 直接伝達<自己生成<直接伝達+自己生成

産組心「身近な社会人(家族・知人など)と授業内容について話し、気づいた点(現場で研究知見がどう活かしているか、理論の改善点はないか)を大福帳へ!」

犯罪心・産組心「新聞・ニュース報道等にも目を向け、授業内容と関連付けて理解してみよう」

## 授業改善アンケートの活用

### ・ ③学生からの声（自由記述）に対応

- 板書取ってるあいだは話が聞けないので板書の時間を設けて欲しい
- 考える時間の時は集中したいので先生の話も少し止めてほしいです。

PPTスライド切り替えの際には、待ってほしい人がいないかどうか常に確認  
⇒1,2人書いている人がいる場合は教員雑談チャンス!

- スライドを書く時間が足りなかった

⇒1つつ対応すれば、改善要求自体が減ってくる

## 授業改善アンケートの活用

- ・ 学生の声を拾うには、ある程度の回収率が必要かもしれない…
- ✓ 授業15回目の最後に授業改善アンケートに回答する時間を作る
- ✓ 1・2年授業は言えば回答してくれるが、3・4年は言っても回答してくれない学生が増える…
- ✓ 1年科目：R1年「発達心理学」回収率96%(57名)
- ✓ 3年科目：R4年「産業・組織心理学」回収率80%(129名)⇒受講生160~200名だと70%台ばかり…
- ✓ 後期科目は最初から授業に出ない学生もいる（前期で単位足りた4年生など）ので下がる
- ✓ アンケート無回答も学生の一つの意見表明…?

## 成長実感と相関が高い上位6項目 (R5年後期全科目)

### 【学生自身】

- ・ 「あなたは、この授業に意欲的・積極的に取り組むことができたと思いますか？」 $r = .68$
- ・ 「あなたは、シラバスや履修系統図を参考に、この授業の目標やねらいを十分に理解した上で受講したと思いますか？」 $r = .59$

### 【授業評価】

- ・ 「この授業では、学生が授業に積極的に取り組めるような工夫がなされていたと思いますか？」 $r = .58$
- ・ 「この授業では、教員は学生の理解度を確認しながら進めていましたか？」 $r = .56$
- ・ 「この授業では、教員は熱意や意欲を持って授業に取り組んでくれたと思いますか？」 $r = .56$

## 学生は何が良いと思ったか

- ・ ④話す時間（ペア・グループワーク）と聞く時間のメリハリ
- ・ コロナ禍を経て、対面授業に学生が求めることは学生同士のリアルタイムの相互作用
- ・ 話し合った内容をWebClassにアップして全体共有
- ・ おしゃべりしたい子のガス抜き⇒私語がなくなる

- 話す時間を作るから話すのをやめようかという考え方はとても新鮮で面白いと感じました。また自分たちが出した結果を基幹してそれを踏まえて心理学的な部分を説明して下さるので、信用度としても高く自分事として考えることができたため体験として見えやすいと感じました。

心理学実験を体験し、⑤実体験から考える機会の提供

## 学生は何が良いと思ったか

- 久しぶりに高校のような雰囲気を感じながら学ぶことができました。先生の生徒の名前を覚えようとする姿勢はとてもすごいと思いました!

そもそも逸脱行動は匿名状況下で生起しやすい(Diener et al., 1976)⇒非匿名状況にすれば、授業中の逸脱行為(私語・他事)も減るはず…



通知が来たら2分以内に写真を撮る⇒友達同士でシェア可能、日記記録にもなる

- 先生の話が聞きやすかった。グループディスカッションの時間を取ってくれるから楽しく参加できた。また、私語やビーリアル等の注意してくれるから集中して受けることができた。

⑥見つけたら減点対象!密告大歓迎!名指して注意できるよう、学生の名前は極力覚えようと頑張る(授業開始約5分・口頭出席)

## ここまでのまとめ

- ・ 成長実感10%上がった要因と考えられるもの
- ① 大福帳:授業外学習の促進も含め
- ② 利用価値介入に基づく声かけ・課題
- ③ 学生からの改善要求に1つつ対応
- ・ 学生が良いと思ったこと
- ④ 話す時間と聞く時間のメリハリを作る
- ⑤ 実体験をさせて考えさせる
- ⑥ 授業中の逸脱行為(私語・BeRealなど)を生起しにくくする環境づくり

19

### 学生に直接聞いてみると…

- **成長を実感する大講義って?(147名)**
  - ✓ 他者と話し合い&振り返る時間:43
  - ✓ 現実とリンクさせる:31
  - ✓ レポート・小テスト・ワーク・体験・問い:26
  - ✓ 自分の興味・関心:18
  - ✓ グループディスカッション&発表:17
  - ✓ 課題・コメントFB:14
  - ✓ WebClass書き込み・大福帳・RP:12
  - ✓ 興味関心を引き出す教員のスキル:9
  - ✓ 動画・穴埋めプリント(適度な板書):12
  - ✓ その他:「最初の問題・ゴールを提示」「机間巡視して質問」「1つの事柄を深堀り」「とにかく興味を引き出そうとしてほしい」「学生を見て進行」

20

### 補足:レポートのピア・レビュー

- 「心理学実験演習」:心理学の研究レポートの作成スキルを身につけることも1つの目的
- ✓ 5クラス・共通シラバス
- ✓ レポート採点結果をもとに、学生同士でもピア・レビューをさせる(神谷俊次先生考案)
- ✓ 教員FB(良い例の全体公開) ⇒ 2~4人で互いの内容を詳細チェック&改善案を共に考える



21

### 補足:レポートのピア・レビュー

- 「心理学実験演習」:心理学の研究レポートの作成スキルを身につけることも1つの目的
- ✓ 開講5クラスで共通シラバス
- ✓ レポート採点結果をもとに、学生同士でもピア・レビューをさせる(神谷俊次先生考案)
- ✓ 教員FB(良い例の全体公開) ⇒ 2~4人で互いの内容を詳細チェック&改善案を考案
- ✓ 学生:有益21名(他の人の良い例が把握できて次のレポートに活かせる)、不評2名(恥ずかしい) ⇒ フォローが必要

22

### まとめ

- 成長実感10%上がった要因と考えられるもの
- ① 大福帳:授業外学習の促進も含め
- ② 利用価値介入に基づく声かけ・課題
- ③ 学生からの改善要求に1つずつ対応
- 学生が良いと思ったこと
- ④ 話す時間と聞く時間のメリハリを作る
- ⑤ 実体験をさせて考えさせる
- ⑥ 授業中の逸脱行為(私語・BeRealなど)を生起しにくくする環境づくり

成長実感を感じる大講義・学生の声:「他者と話し合い&振り返る時間」「現実とリンクさせる」「レポート・小テスト・ワーク・体験・問い」



# 第20回 FD・SD 学習会 実施報告

## 1. 実施概要

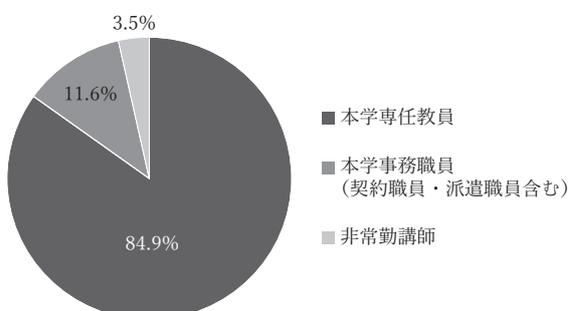
- ・日 時：令和6年8月1日（木）11：00～12：00
- ・開催方法：Zoom によるオンライン開催
- ・テ ー マ：高等教育における合理的配慮～アクティブ・ラーニングの進め方と成績評価の手法～
- ・講 師：田中 真理 氏（九州大学教育学部教授・基幹教育院教授・インクルージョン支援推進室長）
- ・参加者数：124人（専任教員99人、事務職員17人、非常勤講師6人、大学院生1人、その他1人）

## 2. アンケート方法等

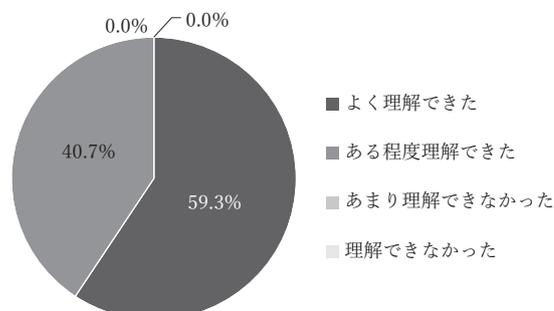
- ・アンケート方法：Google フォーム
- ・質問項目：以下のとおり
  - ①所属をお知らせください。
  - ②本日の内容は、理解できましたか？
  - ③本日学んだことを、学部や個人の教育活動に活かしてみたいと感じましたか？
  - ④本学習会の満足度について教えてください。
  - ⑤講演の感想をお聞かせください。
  - ⑥何が決め手となって、この学習会に申し込みをされたかお聞かせください。
  - ⑦テーマ、ご希望の講師（学内外問わず）について、ご意見ご希望がありましたらお聞かせください。
- ・回答者人数（質問①～④）：86人
- ・質問⑤～⑦については主な意見のみを示しています。（※一部抜粋・改稿を含む）

## 3. アンケート結果

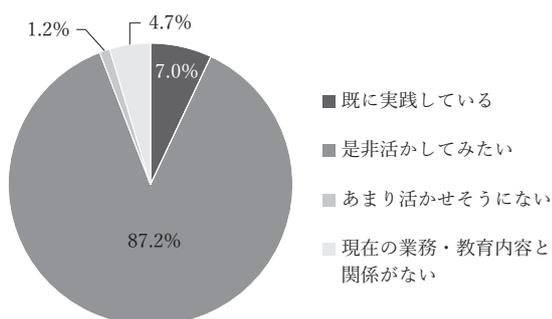
①所属をお知らせください。



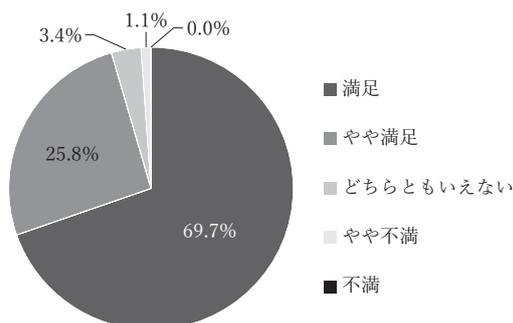
②本日の内容は、理解できましたか？



③本日学んだことを、学部や個人の教育活動に活かしてみたいと感じましたか？



④本学習会の満足度について教えてください。



⑤講演の感想をお聞かせください。

- ・合理的配慮と教育的配慮の考え方がわかった。
- ・今後も継続して講演を聴きたい。
- ・合理的配慮の方法について具体例をたくさん示していただけてとても参考になりました。
- ・具体的事例のみでなくパターン化された提示もあり大変わかりやすかったです。
- ・具体的な事例や個別の対応方法について紹介されており、合理的配慮の考え方などについて理解を深めることができました。ありがとうございました。
- ・発達障害のケースは対処が非常に難しいということがよくわかりました。
- ・シラバス作成や授業時の留意点がよく理解できた。
- ・合理的配慮が必要な学生さんに対する対応は、やはり難しいが、少しずつでも対応していきたいと思った。
- ・合理的配慮と教育的配慮の違いの説明がわかりやすかった。
- ・全般事項から具体例までバランス良く情報が得られた。
- ・時間が短かったのが残念だった。
- ・類似事例に対して色々な方の違った視点で話を伺うのは面白い。まだこの分野、考え方や使用ツールなど発展途上の部分もあると感じた。
- ・シラバスでの目標設定等で特定の障害があると実現できない内容を書くことが障害を理由とする不利益な取扱に当たる点など、教員に周知すべき内容もあるので教授会等で共有したい。
- ・非常に有益な情報をありがとうございました。
- ・具体例がありわかりやすかったため、今後の参考にしたい。
- ・学生が申し立ててくる配慮申請の真偽の判断はどうするのか？
- ・具体例が示されているのでわかりやすかった。
- ・具体的な例を聞くことができ、大変わかりやすかったです。
- ・合理的な配慮や教育的な配慮どちらもありますが、重要なのは一人一人の学生に対して真摯に向き合って、その学生の成長を支援することが重要だと思いました。
- ・理論としては理解できるのですが、やはり具体的な対応ということでは、なかなか難しい部分があるかと思っています。色々工夫していかなければいけない部分もあるかと思っていますが、現

実際には難しい部分を多々含んでいると感じました。

- ・学習障害・発達障害に対する合理的配慮の具体的な内容が理解できた。また、合理的配慮と教育的配慮の差異に気づくきっかけとなった。また、発達障害にも段階があり、それぞれ対応方法が異なることを知れたことも有意義であった。時間の都合もあると思うが、発達障害の各段階に対する合理的配慮の例について、もう少し細かく説明していただけるとより良いと感じた。
- ・シラバスの記載方法について留意すべき点が多々あることに改めて気づくことができ、たいへん参考になりました。
- ・受け持っている講義に該当する学生がいないので、実感が湧かない。
- ・配慮の適当性を担保してゆくためにも、教員側が各講義等の目的・目標を明確にし、それに照らして何ができるか／できないかをしっかり発言してゆくことが重要であると考えました。
- ・合理的配慮の判断について実際の事例について説明されていて分かりやすかったです。
- ・事前に資料の配布があったため、内容を確認した上で講演を聴講できました。グループワークの際に人数を調整することで必要な配慮に対応できるという点は、講義の中でグループワークを行う機会が大分だけに特に有意義なお話でした。
- ・大変わかりやすくお話しいただき、ありがとうございます。特に、具体例を示していただけたのがよかったです。工学系の座学の授業ではアクティブラーニングの機会があまりありませんが、グループで取り組む実験等に取り入れていきたいと思います。
- ・直接、業務に関することは少ないと思いますが、具体的例を挙げながら講演をいただいたので、大変分かりやすかったです。また、障がい学生だけでなく、一般学生の成長に繋がるような取り組みが出来たらいいと思いました。
- ・内容も明快で、時間的にも長すぎず、短すぎず、ちょうどよかったです。
- ・具体的な事例に沿っての説明だったので、非常に分かりやすかった。
- ・合理的配慮の重要性を改めて認識しました。そして、配慮して良いことが法で保証されたのは一教員としてはありがたいくらいです。大変勉強になりました。
- ・具体的な事例を交えてお話しいただき、とても参考になりました。ありがとうございます。
- ・高等教育における合理的配慮の考え方について本質的な内容は理解できました。
- ・具体的な対応法については専門分野や講義特性による部分が大きく、客観的にみて適切と判断される対応を設けるためには今後議論を要する課題が多いと感じました。
- ・合理的配慮と教育的配慮の区別という観点は、例えば非常勤講師に合理的配慮の趣旨を説明する際に分かってもらいやすいであろうと思いました。また、本件に関しては、教員個人や学部単位ではなく、おそらくは学生を含めた全学的な単位での対応が必要となるだろうということも強く認識した次第です。
- ・学生の障がいがどの部分で困難になっているのか、具体的にお話をしてくださり、気づかされる部分が多かったです。特に合理的配慮の中身を検討する際、必要性和適当性という視点に立ってみていくこと、大変勉強になりました。

- ・現場に足を運び、自身の目で見て発見することを重視した授業をやってきたが、今の時代にそれを求めてはいけないことに衝撃を受けた。
- ・他大学の取り組みが伺えて参考になった。
- ・シラバス執筆マニュアルの変更が必要ですね。書くべきことと書いてはいけないことを全教員に周知し、原稿の確認・修正依頼を行うことを考えると、頭が痛いです。
- ・理想論としてこうすべきという点は理解はできた。個別事象として自身が直面したときに、成績評価の公平性を担保しながらの配慮としてどういったことができるかという点についての難しさを強く感じた。  
試行錯誤しながら対応をしていくことになると思うが、そういった中で生まれていく対応を集積し、共有できる仕組みを大学として構築していただきたいと思います。
- ・これまでなんとなくの理解でしかなかった合理的配慮に関して具体例なども提示して説明してくださいましたので、よくわかりました。
- ・講演内容が、実際の現場においてはどのように考え、対応していったらよいかという点について、具体例を挙げながら理由とともに丁寧に説明されていたので、大変理解が進み、一定の不明点や不安点を払拭でき、これからの講義での対応に役立つ素晴らしい講演であったと思いました。また九州大学教員ハンドブックの様に、直近のコンプライアンスに関わる重要事項については、毎年配布いただき、本学でもこの様な日々の意識づけが重要だとも感じました。
- ・障害特性や合理的配慮等について、具体例を挙げてご教示いただけたため大変わかりやすかったです。また、資料についても、図表やマーカーで重要な点をまとめていただいたり、お話いただいている箇所をスライド上で明示いただけたりと、「(多くの受講者に) 伝わりやすく配慮をする」の具体例をお見せいただけたように感じ、大変勉強になりました。
- ・学生支援に活かしたく受講いたしました。自身が支援当事者であると同時に障害当事者でもあるため、配慮の実例を知れたことは自身の働きやすさ（身動きのとりやすさ）にもつながりそうだと感じることができました。支援側が「合理的配慮」について正しく理解できるよう学び進めることはもちろん必要ですが、障害当事者の学生も意外と「合理的配慮」への理解が追いついていない部分があるのではないかと思います。しっかり学んで、しっかり伝えて、正しく「合理的配慮」に繋げられるよう自己研鑽に励みたいと感じた。
- ・いくつかの具体例に基づいて、どのような合理的配慮を提供すればよいのかわかりやすく解説されており、大変参考になりました。また、合理的配慮と教育的配慮の違いについてもわかりやすかったです。
- ・年々、本学でも精神障害、発達障害の学生の配慮申請者が増加傾向にあります。オンライン授業を対応して欲しいという要望も増えており、どうしてできないかと問われると困ってしまうこともあります。先生方の負担も増えてしまいますが、シラバスに詳しくどのような授業内容か、到達目的等明記していただけると大変有難く思います。また改めて、学生との面談、関わり方がいかに大事かということを感じました。

- ・ 実例を挙げてご説明いただき、大変勉強になった。教育的な配慮と合理的な配慮の差を理解して、今後の授業設計や改善を行う必要があると感じた。教育の質や公平性を担保も考慮しながら教育できるように励みたい。
- ・ 合理的配慮と教育的配慮の違いの説明が、いまひとつわかりませんでした。前半の社会的障壁の除去のご説明をうかがった範囲では、社会モデルによる障壁の排除は障がいの有無にかかわらず、社会（クラス）全体へのモデルの変更により個別の合理的配慮を必要としない姿勢であり、合理的配慮の一種と思いましたが、これは教育的配慮の範疇なののでしょうか？
- ・ 重要な取組ですが、改めて非常に難しいことを改めて実感しました。  
講義科目のその形態などによって取組は様々ですが、最後の法学部の方からの質問へのやり取りの中で最低限不可欠な部分は何なのか提示していただけて良かったと思います。  
(特に何気なく「口頭で（プレゼン）」や「自分の足で現場に赴き（フィールドワーク）」という表記への配慮の必要性などはわが身に振り返ってみても改めて納得。)  
また、山田センター長からの質問や非常勤の方の質問は共感するところが多くありました。
- ・ 配慮の必要性を受講者全体で広く共有した方が良い（共感や協力が得やすい）反面、それを拒む障がい学生もおられる。
- ・ そもそもそうした申請が出ていないが、やり取りする中で「もしかして配慮が必要か？」と思う場面であっても、申請が出ておらずに対応に二の足を踏む。恐らく、これは障がい学生もさることながら、その父兄世代（就職活動も含めて自身の人生やキャリア形成に不利に働くと考えている？）の意識も含め、ひいては社会全体の受入に関わる合意形成の問題だと考えながら傾聴させていただきました。今後とも多くの方がこれからも直面する問題であると思いますので、この点を深掘りしていただけると一層理解が深まるかもしれません。
- ・ 話しが整然と整理されており、理解しやすかったです。
- ・ 色々な事例をご紹介いただきながらのご講演で大変勉強になりました。合理的配慮と教育的配慮は、たしかに混同しやすく、何が合理的配慮にあたるのか悩むことが多いですが、今回のご講演で勉強したことをもとに、対応を考えていきたいと思いました。特に、学生から申し出があったときに建設的に配慮を考えるのはもちろんのこととして、配慮申請しやすいようにシラバスを書くというのも実践していきたいと思います。一方で、これはご講演に対する感想とはずれてしまいますが、現状として、学生から配慮申請があった場合、授業の担当者ごとに当事者の学生と話し合いをしているわけではなく、学部の担当者が代表して事情を伺い、授業担当者に配慮してくださいと降りてくる流れになっています。ですが、科目によってできること／できないこと、すべきこと／すべきでないことが異なるため、できれば学生と事前に話し合いがしたいと思いました。
- ・ 講演者の所属大学での事例などを交えて具体的かつ確かな内容となっており非常にわかりやすかった。また、参考になる話題も多かった。ただ、講演時間に対して内容が多すぎて少し進行が早すぎた。
- ・ 3ポリシーやシラバスの重要性を改めて認識できた。合理的配慮と教育的配慮の区分について理解できた。

- ・本日のご講演、「合理的配慮」と「教育的配慮」の違いを明確にさせていただいたことがとても参考になりました。内部資料も出していただき、貴重なご講演ありがとうございました。
- ・大学の授業において、「教育的配慮」は必須のものと考えております。
- ・精神的な「障害」をもつ学生にとってハードルの高い教室での授業参加を数回でもすることで少しでも「社会性」を身に着けてほしいとも願っておりますが、それは「教育的配慮」にはならないのでしょうか。

⑥何が決め手となって、この学習会に申し込みをされたかお聞かせください。

- ・配慮が必要な学生が増えているので。
- ・講義、実習等で実際に合理的配慮が必要な場面があるため。
- ・障がいによる合理的配慮に関するものであったので申し込みました。
- ・配慮が必要な学生が最近増えており、対応に苦慮することが多いため。
- ・アクティブラーニングの場合の合理的配慮について知りたかった。
- ・学科での対応に苦慮する事例があったので、どのように対応するべきかを知りたかったので参加しました。
- ・最近、合理的配慮を申請する学生が増えており、これらにどう対応すればよいかについて理解を深めるため。
- ・FD 関連研修はできるだけ受講するようにしているため。
- ・技能を伴う演習での指導方法の参考になればと思った。
- ・高等教育の多様性の動向に興味関心があったから。
- ・部局の障がい学生支援センター委員を担当しており、合理的配慮に関する最新の動向を把握しておきたいと考えたため。
- ・合理的配慮が必要な学生が入学してきたときの対応のため。
- ・自身が担当する、実習及び、講義へ活かすため。
- ・学科でも要対応学生が複数居るため。
- ・法改正に伴う対応方法についての理解のため。
- ・どこまで対応すべきかの判断がわからなかったから。
- ・要配慮学生が多くなる傾向を感じているため。
- ・学部でアクティブラーニングを多く採用する1年生演習科目が自動登録科目になっているので、合理的配慮として自動登録から解除するか、授業内で配慮を行うかどちらが望ましいかなどを検討する際の参考とするため。
- ・発達障害を持つ大学院生が研究室に所属しているため。
- ・合理的配慮についてより理解を深めるため。
- ・最近、問題を抱えている学生が増えてきたから。
- ・配慮対象学生に対する合理的な配慮と、一般学生が持つ不公平感との折り合いに悩むことがあったため。
- ・合理的配慮について、具体的な配慮方法について知りたかったため。

- ・高等教育における合理的な配慮について、最新の情報を得たかったから。
- ・合理的配慮に関する最新の状況を学ぶため。
- ・合理的配慮が義務化されたことにより、実践の必要性を感じるため。また、該当する学生等に接する機会があるため。
- ・アクティブラーニングにおける合理的配慮の提供に関する諸課題を理解できればと思い参加しました。
- ・今後合理的配慮を求める学生が増えてくることが考えられるため、その具体的な対応について知りたかった。
- ・どんな内容か、興味があったため。
- ・実際にこの前期に、配慮申請者が演習（自動登録科目）に履修登録されており、対応に苦慮したため、今後同様のことがあった場合により良い対応ができるようにと考え、申し込みました。
- ・合理的配慮について実験は演習の判断基準を知りたかったため参加しました。
- ・今年度に入ってから教授会の中で合理的配慮を必要とする学生に関する話題が取り上げられる機会が増えてきたため、最新の動向を確認したいと思い受講しました。
- ・シラバスなどの考え方が知りたい。
- ・合理的配慮を申請する学生が増えてきているため。
- ・現在は障がい学生と関わる機会はありませんが、今後、必要になる可能性があり、大学職員として理解しておいたほうが良いと判断したからです。
- ・合理的配慮に関する適切な対応についてもっと学びたいと考えたため。
- ・合理的配慮に関する、今後の対応を検討する上で、参考にしたかった。
- ・大学教育開発センターからの紹介に応じました。
- ・配慮が必要な学生への支援に直接かかわっており、様々な障害や事情を抱える学生への対応に苦慮することが多くなってきたため。
- ・「合理的配慮」への対応を学習したかったため。
- ・合理的配慮を考えていくための視点を深めていきたいと思ったため。
- ・アクティブ・ラーニングや実験・実習でどのような合理的配慮をすべきか迫られているため。
- ・配慮申請のあるケースを耳にする機会が増え、自分の担当授業にも少しずつそのような学生がいるようになってきたので対応の仕方を学びたかったため。
- ・合理的配慮という部分への向かい方についての知見を得たいと思ったため。
- ・合理的配慮が必要な学生にどのように対応したらよいのか悩んだときがありましたので、今後に活かせればと思い申し込みました。
- ・近年、合理的配慮を申請する、あるいは合理的配慮が必要ではあるけれども申請していない学生、さらには本人が気づいていない学生が少しずつ増えている中、私自身として合理的配慮の考え方や対応について不明な点が多くあるため、こういった講演会を通して勉強することにより、彼らの学びの機会を可能な限り提供できれば良いと考えたから。
- ・学生支援に活かしたく受講いたしました。

- ・グループワークやディスカッションを毎回実施する科目を担当している中で、年々、配慮が必要な学生が増えており、どのような代替手段や評価方法が考えられるのかを知りたかったため。
- ・普段、障がい学生と関わっている業務のため参加させていただきました。
- ・合理的配慮学生の申請数が増えていることと、法的に合理的配慮は必須であることを踏まえて、対応する必要性を感じているため。
- ・学内に合理的配慮が必要な学生が増えており、対応を学んでおきたいと考えていたため。
- ・大学教育開発センター委員であるため。
- ・障がい学生支援センターの講演会と合わせて、理解を深めたかったため。
- ・合理的配慮が法的にも求められているだけではなく、学生が学ぶために必要な配慮は積極的にしたいと思う一方で、どのように考えればいいのか悩んでいたから。
- ・所属学部は恐らく他学部と比較して障がい学生が多く、どのような対応が必要かを知るため。
- ・近年、障害学生が増えたように感じているため。

⑦テーマ、ご希望の講師（学内外問わず）について、ご意見ご希望がありましたらお聞かせください。

- ・LD、ASD等の専門家の講演があってもいいと思う。
- ・大学院生に対する配慮の仕方をご教授頂けると幸いです。
- ・理系学部で、実習が必修の場合の対応などについて、具体的な話を聴きたい。
- ・LGBTQに対する配慮について、お聞きしたいです。
- ・高等教育におけるアクティブラーニングの技法 など。
- ・合理的配慮の実際の対応例。
- ・特に発達障害、精神障害に関する配慮について、さらに深く学びたいと思っていますので、それに関連した講演を企画していただけるとありがたいです。
- ・学内の議論を深めたうえで、もう一度同じテーマで講演を依頼する。
- ・様々な障害を持つ学生への配慮の仕方について、再度のご講演をいただければ有り難いと思っております。個人情報保護との関わりの中かで、どのような点に留意しつつIRを展開すればいいのかについてのお話を聞くことができればありがたい次第です。
- ・実験・実習における合理的配慮とは。
- ・最後の方の質疑応答でシラバスに「自分の足でフィールドワークを…」の「自分の足で」は不適切な表現だというようなコメントがあり、とても難しいと思いました。今日の状況や本日の話の流れからも理解はできますが、本学でシラバスを執筆する際のマニュアルにはそのあたりのことには触れられていなかったと思います。教員間でシラバスチェックをするときも、そのようなところはチェック対象にはなっていないのではないのでしょうか。また、外国語の授業を担当しているので、具体的な技能の養成に言及するのは「許容範囲」かと思っておりましたが、認識を改めなければならぬと感じました。
- ・センター長もお話しされておりましたが、ぜひまた田中先生にご講演いただきたいです。

- ・「授業」以外の部分（例えば窓口対応やガイダンス・オリエンテーション等）の場面での合理的配慮についても、学べる機会がいただけたら嬉しいです。
- ・テーマや希望講師に関する意見ではありませんが、本学のシラバスを作成ガイドに、合理的配慮に即したシラバスの書き方（例）や注意事項などの掲載をぜひお願いしたいです。
- ・工作実習（特に機械類の操作によっては危険が伴う実習）では安全第一で行っているため、合理的配慮の申請が無いと対応が難しい場合があります（もしくは申請があっても難しい場合もあると考えられます）。  
もし、具体的な事例などがあれば教えていただく機会があると幸いです。
- ・今回のテーマの第二弾的なもの。
- ・ケースメソッドを増やすことで対応方法に関わる情報共有や考え方、問題意識が深まることが期待されると思います。

令和6年4月17日

## 令和6年度 名城大学新任教員向け FD・SD 研修のご案内

名城大学では、新たに本学に採用される教員および学内の希望者を対象に、FD および SD の研修を行います。本研修は、全国私立大学 FD 連携フォーラム (JPFF) による「実践的 FD プログラム」を通じて、オンデマンド形式で実施します。研修では、以下に示す「FD」の中から一講義以上、「SD」の中から一講義以上を必ず受講し、本学の教員として必要な基本的知識の獲得とスキル向上に努めてください。9月に本研修にアンケート調査を行いますので、ご協力をお願いいたします。

### 1. 受講対象の講義

区分	講義名
FD	「高等教育論 I～VI」、「教授学習理論 I～III」、「教育方法論 I～II、IV～VI」、「授業設計論 I」、「教育評価論 I～III」
SD	「心理学 I～IV」、「研究者倫理 I」、「研究のアウトリーチ活動 I」、「大学管理運営 I～IV、VII、VIII」、「FD 概論 I」、「大学経営革新に活かすプロジェクト・マネジメント」

※受講の例：FD 区分から「高等教育論 I」、SD 区分から「大学管理運営 II」を受講

#### <推奨講義>

- ・他大学等の教育経験あり：「教授学習理論 III」と「大学管理運営 II」
  - ・他大学等の教育経験なし：「授業設計論 I」と「大学管理運営 I」
- ※学内教職員の希望者は、興味・関心のある講座のみを自由に受講してください。

### 2. 受講期間

令和6年4月22日(月)～9月13日(金)まで

### 3. オンデマンド講義へのアクセス方法および視聴手順

別紙のとおりです。

### 4. 今後のスケジュール

9月に Google Forms を通じてアンケートを依頼します。

### 5. 添付資料

- ①RAINBOW ユーザーID 通知書、②実践 FD プログラム講義一覧、③オンデマンド講義概要一覧

「お問い合わせ先」

担当：大学教育開発センター 鈴木・伏屋

E-mail：[edcenter@ccml.meijo-u.ac.jp](mailto:edcenter@ccml.meijo-u.ac.jp)

内線：2653・2659

# 令和6年度 新任教員 FD・SD 研修会 実施報告

## 1. 実施概要

- ・受講者数：令和6年度採用の新任教員：22名、学内教職員（希望者のみ）：5名
  - ・日 時：令和6年4月22日（月）～9月13日（金）まで
  - ・プログラム名：全国私立大学FD連携フォーラム「実践的FDプログラム」【オンデマンド】
  - ・対象講義：「FD」区分の中から一講義以上、「SD」区分の中から一講義以上を受講
- <推奨講義>
- ・他大学等の教育経験あり：「教授学習理論Ⅲ」と「大学管理運営Ⅱ」
  - ・他大学等の教育経験なし：「授業設計論Ⅰ」と「大学管理運営Ⅰ」
- ※学内教職員の希望者は、興味・関心のある講座のみを自由に受講

## 2. 講義別の受講者数

No	講義名	区分	テーマ	受講人数
1	高等教育論Ⅰ	FD	現代の高等教育	2名
2	高等教育論Ⅱ	FD	高等教育研究史	3名
3	高等教育論Ⅲ	FD	大学教育改革とFD	4名
4	高等教育論Ⅳ	FD	大学評価論	0名
5	高等教育論Ⅴ	FD	高等教育政策	2名
6	高等教育論Ⅵ	FD	初年次教育の動向	2名
7	教授学習理論Ⅰ	FD	教授・学習の理論と教育実践（1）	0名
8	教授学習理論Ⅱ	FD	教授・学習の理論と教育実践（2）	0名
9	教授学習理論Ⅲ	FD	アクティブラーニングを促す教授法	8名
10	教育方法論Ⅰ	FD	教育工学の観点から	4名
11	教育方法論Ⅱ	FD	高等教育における授業技術	4名
12	教育方法論Ⅳ	FD	学習教材作成における著作権等の理解	1名
13	教育方法論Ⅴ	FD	学生授業評価の性質と授業への活用	2名
14	教育方法論Ⅵ	FD	情報活用基礎	0名
15	授業設計論Ⅰ	FD	大学の授業の設計	10名
16	教育評価論Ⅰ	FD	成績評価の意味と方法	4名
17	教育評価論Ⅱ	FD	目標測定に基づく評価	2名
18	教育評価論Ⅲ	FD	ティーチング・ポートフォリオとは	1名
19	心理学Ⅰ	SD	青年期の心理	3名
20	心理学Ⅱ	SD	発達の原因と各段階の特性	1名
21	心理学Ⅲ	SD	臨床心理学の基礎と応用	3名
22	心理学Ⅳ	SD	発達障害のある学生の学びーアスペルガー症候群を中心にー	5名
23	研究者倫理Ⅰ	SD	教員と学生の教育・研究を促進するツールとしての研究倫理	5名
24	研究のアウトリーチ活動Ⅰ	SD	研究者にできる多様なアウトリーチ活動の紹介	6名
29	大学管理運営Ⅰ	SD	大学教職員のための大学管理運営基礎	16名
30	大学管理運営Ⅱ	SD	近年の大学改革の進展を踏まえた大学管理運営の新たな発想	11名

No	講義名	区分	テーマ	受講人数
31	大学管理運営Ⅲ	SD	リスクマネジメントー大学教員のためのキャンパスハラスメントー	5名
32	大学管理運営Ⅳ	SD	IR 入門	6名
33	大学管理運営Ⅶ	SD	PDCA を理解する	4名
34	大学管理運営Ⅷ	SD	教職協働による大学運営	1名
35	FD 概論Ⅰ	SD	大学におけるマイクロ・ミドルレベルでのFD活動	0名
36	プロジェクト・マネジメント	SD	大学経営革新に活かすプロジェクト・マネジメント	2名

計117名

### 3. アンケート内容および結果

・実施方法：Google フォーム

・回答率：96.3%

・設問項目：

①印象に残った講義を教えてください。

②その講義が印象に残った理由を教えてください。

③新任教員FD・SD研修で学んだことを、学部や個人の教育活動に活かしたいと感じましたか。

④新任教員FD・SD研修の満足度について教えてください。

⑤新任教員FD・SD研修全体をより良くするための提案や意見があればご記入ください。

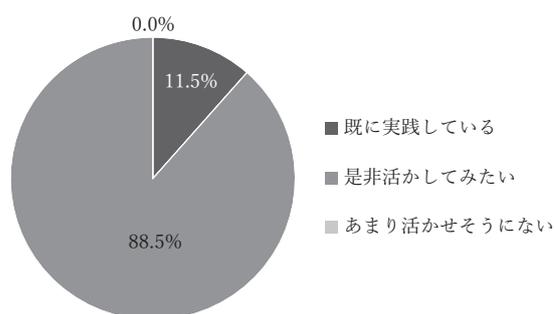
・アンケート結果

①印象に残った講義を教えてください、②その講義が印象に残った理由を教えてください。

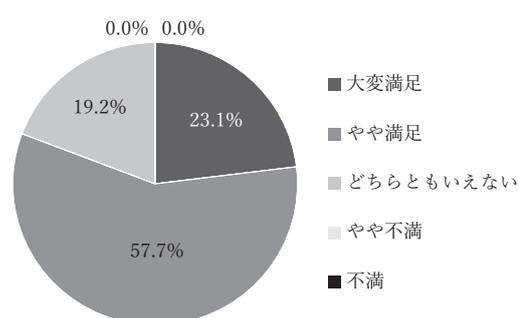
①印象に残った講義	②その講義が印象に残った理由を教えてください。(※一部抜粋・改稿を含む)
教育方法論Ⅳ【FD】	
心理学Ⅳ【SD】	自閉スペクトラム障害をもつ学生への配慮は、他の学生に対しても行うことで全体の利益に与すると思った。
大学管理運営Ⅳ【SD】	日本中の大学におけるIR業務の実態がよくわかったから。
心理学Ⅳ【SD】	発達障害を持つ学生に対する考え方を確認できたため。
教育評価論Ⅰ【FD】	
大学管理運営Ⅰ【SD】	大学という組織を講義で説明されていたほど俯瞰的に捉えたことがなかったため。
教育方法論Ⅰ【FD】	学生の主体的な学びを促す授業の作り方を学ぶことができたから。
教授学習理論Ⅲ【FD】	発問で思考を刺激する意味を把握することができたため。
教授学習理論Ⅲ【FD】	アクティブラーニングに関する多様な学習が説明されていた。
研究のアウトリーチ活動Ⅰ【SD】	自身のキャリアに参考になったため。
心理学Ⅱ【SD】	対応に苦慮する学生の中には、単純に不真面目であるとかではなく、適切に発達段階を経ていないのではということを感じたため。
大学管理運営Ⅳ【SD】	教育の質の向上や、研究力の向上のきっかけを見つけるために、勉強しなければと思いつつなかなかできていないのがIRでした。特に第3部の事例を聞き、改めてデータ分析の手法を身に着けたいと感じました。
教育方法論Ⅰ【FD】	授業・教材作成に役立つため。

①印象に残った講義	②その講義が印象に残った理由を教えてください。(※一部抜粋・改稿を含む)
大学管理運営Ⅱ【SD】	大学を巡る環境変化を具体的なデータとともに説明されとてもよくわかった。自分が学生時代の状況から色々なことが激変していることをしっかり理解し、大学教員として教育、また大学運営に貢献しないといけないと思った。
授業設計論Ⅰ【FD】	評価プロセスについて考える機会になった。
大学管理運営Ⅱ【SD】 教授学習理論Ⅲ【FD】	大学教育の意味合い(大学管理運営Ⅱ)や、アクティブラーニングを促す教授法について学ぶことができた。

③新任教員 FD・SD 研修で学んだことを、学部や個人の教育活動に活かしたいと感じましたか。



④新任教員 FD・SD 研修の満足度について教えてください。



⑤新任教員 FD・SD 研修全体をより良くするための提案や意見があればご記入ください。

- ・たとえば WebClass を用いた学内での情報交換ができるとよいのではないかと思います。
- ・動画も含めて講義の充実をお願いいたします。動画にて学習が可能だと時間に応じて対応ができます。
- ・特にありません。ありがとうございました。



# 教育功労賞表彰報告

教育功労賞制度は、学校法人名城大学職員規則第47条に基づき、各学部及び研究科等において、教育活動及び教育改善に大きく貢献した者を表彰することにより、職員の教育改善に対する意識を高め、組織の活性化を図り、本学の教育の質の向上に資することを目的として表彰するものです。

表彰の種類は、各学部及び研究科等における教育活動及び教育改善に大きく貢献した者及びグループを表彰する教育功労賞と、教育功労賞受賞者のうち、全学的な取組として波及できる可能性のあるものを表彰する特別教育功労賞からなり、いずれも各学部及び研究科等から推薦された者について大学教育開発センター委員会において審査し、大学協議会での審議を経て学長が決定するものです。

令和6年度は、各学部及び研究科等において教育功労賞に推薦された者はありませんでした。

## 表彰者について

### 1. 教育功労賞受賞者

該当者なし

### 2. 特別教育功労賞受賞者

該当者なし



## 7. 資 料



# 大学教育開発センター要項

(目的)

第1条 大学教育開発センター（以下「本センター」という。）は、全学を対象としたファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）活動の実施及び各学部、研究科へのFD活動・教育の質向上の取組の支援により、本大学の教育改善を推進することを目的とする。

(業務)

第2条 本センターは、前条に定める目的を達成するため、次の業務を行う。

- (1) 教育に係る調査・研究・提言に関すること
- (2) 教員の教育力向上に関すること
- (3) 入学前教育及び入学後の学修支援に関すること
- (4) 高大連携及び接続教育に関すること
- (5) その他必要な事項に関すること

(センター長)

第3条 大学教育開発センター長は、学長の命を受けて本センターの業務を総括し、代表する。

(委員会)

第4条 本センターの業務に関する基本事項を審議し、実施するために、大学教育開発センター委員会（以下「委員会」という。）を置く。

② 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 大学教育開発センター長
- (2) 学務センター長のうち1名
- (3) 各学部から選出された教育職員 各2名
- (4) 独立研究科から選出された教育職員 各1名
- (5) 教職センターから選出された教育職員 1名
- (6) 大学教育開発センター事務部長
- (7) 学務センター事務部長
- (8) その他委員長が必要と認めた者

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- ② 委員長は、大学教育開発センター長をもって充てる。
- ③ 副委員長は、委員の互選による。

(任期)

第6条 第4条第2項第3号、第4号、第5号及び第8号の委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

② 委員が欠けた場合の補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第7条 委員会は、委員長がこれを招集し、その議長となる。

② 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代行する。

③ 委員会は、委員の過半数の委員の出席により成立する。

④ 委員会の議事は、出席委員の過半数により決し、可否同数の場合は、議長がこれを決する。

(委員以外の出席)

第8条 委員会が必要と認めるときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第9条 委員会は、必要に応じて専門委員会を置くことができる。

② 専門委員会の運営に関する事項は、委員会において別に定める。

(事務)

第10条 委員会の事務は、本センターが分掌する。

附 則

① この要項は、平成29年4月1日から施行する。

② 従前の「FD委員会要項」は、この要項の施行の日から、これを廃止する。

## 8. おわりに



# あ と が き

## 大学教育開発センター

本報告書は、令和6年度の本学におけるFD・SD活動、正課外教育活動及びその詳細についてまとめたものです。

本学のFD・SD活動は、各学部・研究科等を主体とし、大学教育開発センター委員会がサポートする形で企画運営、各種取組を推進しています。

大学教育開発センターは、大学教育開発センター委員会とともに、国の文教政策の動向を踏まえ、本学の発展のため、今後も引き続き教育改善に取り組めます。

本報告書により、本学のFD・SD活動等の現状を確認いただき、次年度に向け、抱負を新たにさせていただきますと幸いです。

最後になりますが、各FD・SD活動の企画・運営、そして本報告書の企画・編集にご協力いただきました皆様方に、心より御礼申し上げます。



令和7年3月

発行：名城大学 大学教育開発センター

編集：名城大学 大学教育開発センター

住所：〒468-8502  
名古屋市天白区塩釜口一丁目501番地

電話：(052)838-2032

FAX：(052)833-5230

